

大和市
第8次大和市総合計画に関する
市民意識調査
調査結果報告書

平成29年2月

大 和 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	回答者属性	2
2	大和市について	7
	(1) 大和市への愛着度について.....	7
	(2) 大和市への定住意向について.....	12
	(3) 個別目標の重要度・満足度について.....	18
	(4) 成果を計る指標について.....	34
	(5) 市が重視すべき取り組みについて.....	86
III	まちづくりに関する意見・要望	124

I 調査の概要

1 調査の目的

第8次大和市総合計画・後期基本計画（計画期間：平成26年度～30年度）において成果を計る指標として掲出している中間目標値に対する定点観測等を行い、施策推進の基礎資料とするため、調査を実施するものである。

2 調査対象

大和市在住の16歳以上を無作為抽出

3 調査期間

平成28年10月21日から平成28年11月4日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
5,000通	2,451通	49.0%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示すものとする。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがある。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法である。
- ・割合の表記については、下記のとおりとする。

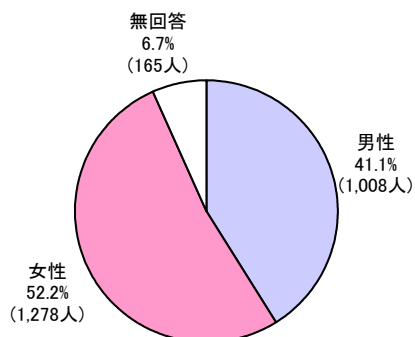
例：40%台

表記	約4割（4割）	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱（5割）
範囲	40.1～40.9% (40.0%)	41.0～43.9%	44.0～45.9%	46.0～48.9%	49.0～49.9% (50.0%)

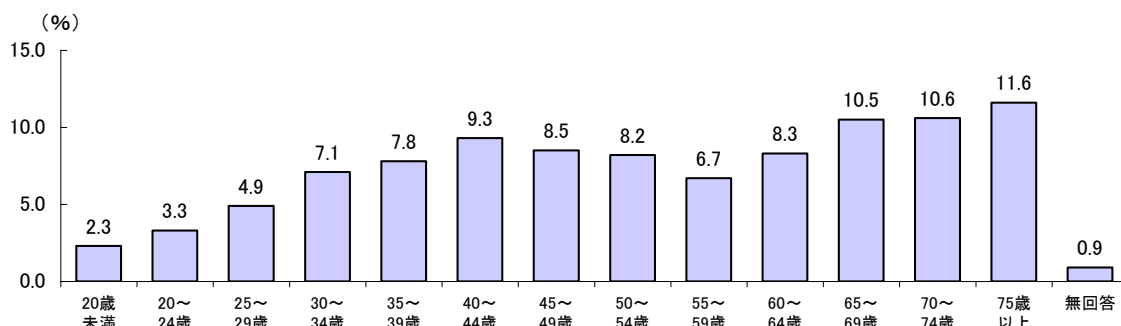
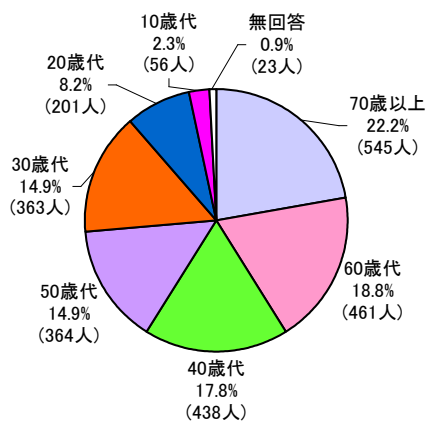
II 調査結果

1 回答者属性

F 1 性別

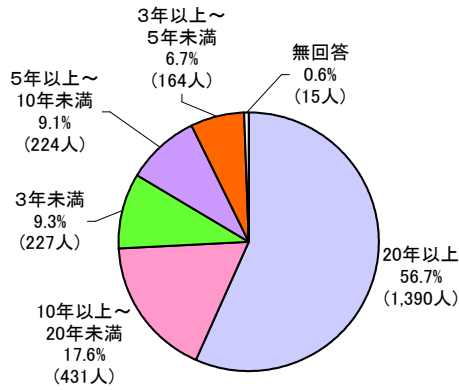


F 2 年齢



	合計	年齢													無回答	(人)
		20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上		
	2,451	56	82	119	173	190	229	209	200	164	203	258	260	285	23	(人)
	100.0	2.3	3.3	4.9	7.1	7.8	9.3	8.5	8.2	6.7	8.3	10.5	10.6	11.6	0.9	(%)
男性	1,008	25	36	49	59	81	94	85	78	78	85	112	108	118	-	(人)
	100.0	2.5	3.6	4.9	5.9	8.0	9.3	8.4	7.7	7.7	8.4	11.1	10.7	11.8	-	(%)
女性	1,278	31	45	70	111	107	130	118	114	80	108	124	120	112	8	(人)
	100.0	2.4	3.5	5.5	8.7	8.4	10.1	9.2	8.9	6.3	8.5	9.7	9.4	8.8	0.6	(%)

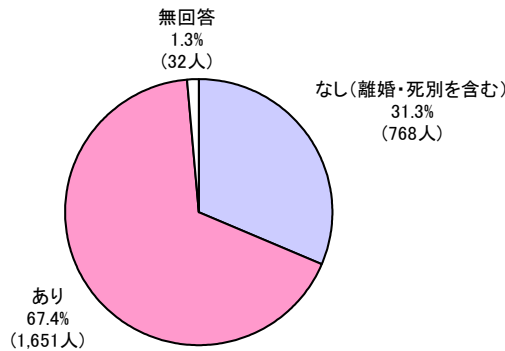
F 3 市内での居住年数



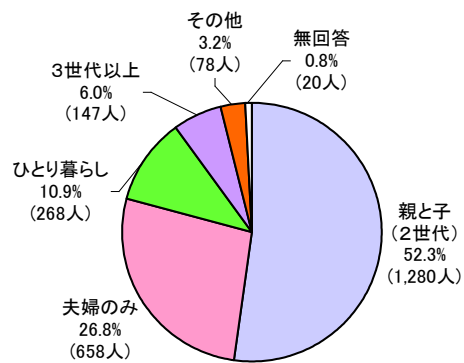
	いる(未就学のお子さんのみ)	いる(小学生以上18歳未満のお子さんのみ)	いる(未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも)	いない	無回答	
合 計	2,451	251	271	147	1,478	304 (人)
	100.0	10.2	11.1	6.0	60.3	12.4 (%)
3年未満	227	63	16	8	126	14 (人)
	100.0	27.8	7.0	3.5	55.5	6.2 (%)
3年以上～5年未満	164	63	12	11	73	5 (人)
	100.0	38.4	7.3	6.7	44.6	3.0 (%)
5年以上～10年未満	224	48	35	27	97	17 (人)
	100.0	21.4	15.6	12.1	43.3	7.6 (%)
10年以上～20年未満	431	16	91	39	249	36 (人)
	100.0	3.7	21.1	9.0	57.8	8.4 (%)
20年以上	1,390	61	117	62	930	220 (人)
	100.0	4.4	8.4	4.5	66.9	15.8 (%)

	3年未満	3年以上～5年未満	5年以上～10年未満	10年以上～20年未満	20年以上	無回答	
合 計	2,451	227	164	224	431	1,390	15 (人)
	100.0	9.3	6.7	9.1	17.6	56.7	0.6 (%)
いる(未就学のお子さんのみ)	251	63	63	48	16	61	- (人)
	100.0	25.1	25.1	19.1	6.4	24.3	- (%)
いる(小学生以上18歳未満のお子さんのみ)	271	16	12	35	91	117	- (人)
	100.0	5.9	4.4	12.9	33.6	43.2	- (%)
いる(未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも)	147	8	11	27	39	62	- (人)
	100.0	5.4	7.5	18.4	26.5	42.2	- (%)
いない	1,478	126	73	97	249	930	3 (人)
	100.0	8.5	4.9	6.6	16.8	63.0	0.2 (%)

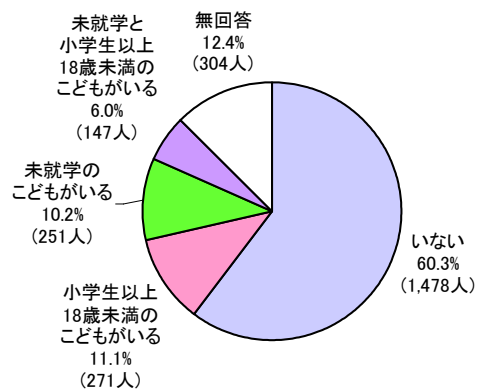
F 4 配偶者の有無



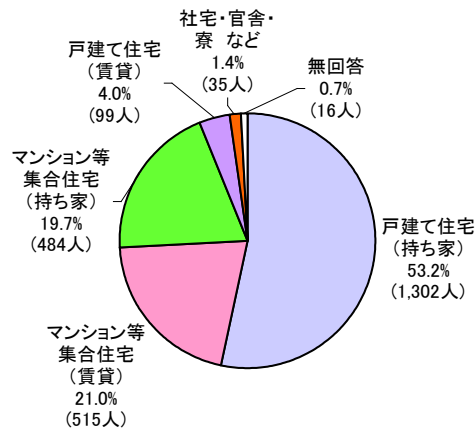
F 5 家族構成



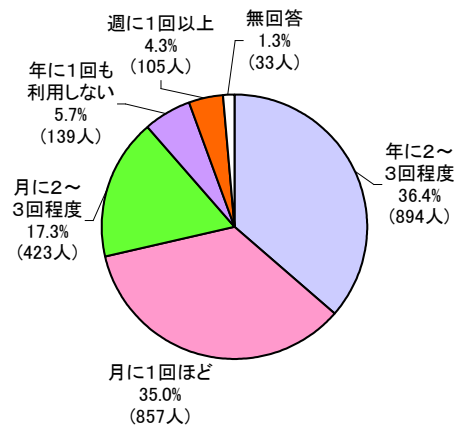
F 6 こどもの有無



F 7 居住の形態

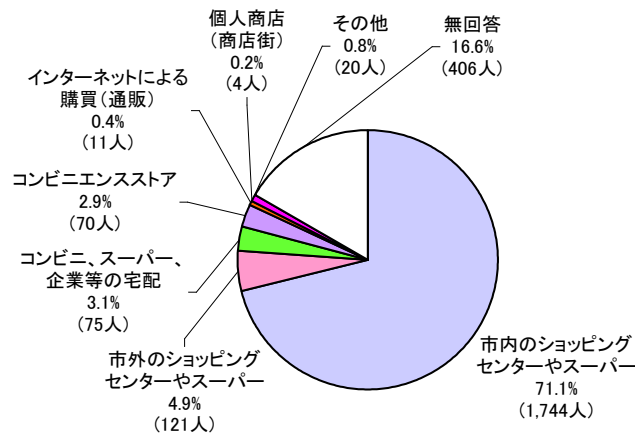


F 8 医療機関の利用頻度



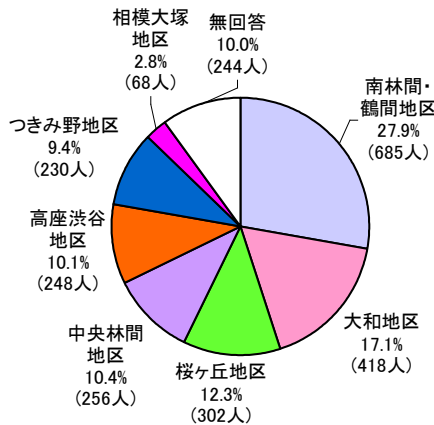
	週に1回以上	月に2～3回程度	月に1回ほど	年に2～3回程度	年に1回も利用しない	無回答	
合計	2,451	105	423	857	894	139	33 (人)
	100.0	4.3	17.3	35.0	36.4	5.7	1.3 (%)
10歳代	56	-	3	17	34	2	- (人)
	100.0	-	5.4	30.4	60.6	3.6	- (%)
20歳代	201	7	24	45	100	23	2 (人)
	100.0	3.5	11.9	22.4	49.8	11.4	1.0 (%)
30歳代	363	9	77	109	147	20	1 (人)
	100.0	2.5	21.2	30.0	40.5	5.5	0.3 (%)
40歳代	438	16	71	129	198	24	- (人)
	100.0	3.7	16.2	29.5	45.1	5.5	- (%)
50歳代	364	9	42	130	154	26	3 (人)
	100.0	2.5	11.5	35.7	42.4	7.1	0.8 (%)
60歳代	461	16	73	197	151	20	4 (人)
	100.0	3.5	15.8	42.7	32.8	4.3	0.9 (%)
70歳以上	545	47	132	228	106	22	10 (人)
	100.0	8.6	24.2	42.0	19.4	4.0	1.8 (%)

F 9 買い物をする場所



	市内のショッピングセンターやスーパー	市外のショッピングセンターやスーパー	コンビニエンスストア	個人商店(商店街)	インターネットによる購買(通販)	コンビニ、スーパー、企業等の宅配	その他	無回答	
合計	2,451	1,744	121	70	4	75	20	406	(人)
	100.0	71.1	4.9	2.9	0.2	3.1	0.8	16.6	(%)
中央林間地区	256	195	7	6	1	3	5	39	(人)
	100.0	76.2	2.7	2.3	0.4	1.2	2.0	15.2	(%)
つきみ野地区	230	157	17	4	-	6	1	44	(人)
	100.0	68.4	7.4	1.7	-	2.6	0.4	19.1	(%)
南林間・鶴間地区	685	517	14	22	-	16	3	109	(人)
	100.0	75.6	2.0	3.2	-	2.3	0.4	15.9	(%)
相模大塚地区	68	36	17	1	-	1	1	11	(人)
	100.0	52.8	25.0	1.5	-	1.5	1.5	16.2	(%)
大和地区	418	304	16	9	-	18	4	65	(人)
	100.0	72.6	3.8	2.2	-	4.3	1.0	15.6	(%)
桜ヶ丘地区	302	205	25	11	1	12	1	46	(人)
	100.0	68.0	8.3	3.6	0.3	4.0	0.3	15.2	(%)
高座渋谷地区	248	173	10	7	-	7	5	46	(人)
	100.0	69.9	4.0	2.8	-	2.8	2.0	18.5	(%)

F 10 居住地域



	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	
合計	2,451	56	201	363	438	364	461	545	23 (人)
	100.0	2.3	8.2	14.8	17.9	14.9	18.8	22.2	0.9 (%)
南林間・鶴間地区	685	13	63	106	129	97	132	138	7 (人)
	100.0	1.9	9.2	15.5	18.8	14.2	19.3	20.1	1.0 (%)
大和地区	418	13	40	57	83	68	72	82	3 (人)
	100.0	3.1	9.6	13.6	19.9	16.3	17.2	19.6	0.7 (%)
桜ヶ丘地区	302	5	29	36	47	53	54	76	2 (人)
	100.0	1.7	9.6	11.9	15.6	17.5	17.9	25.1	0.7 (%)
中央林間地区	256	5	21	48	50	49	42	41	- (人)
	100.0	2.0	8.2	18.8	19.5	19.1	16.4	16.0	- (%)
高座渋谷地区	248	8	15	34	32	26	61	72	- (人)
	100.0	3.2	6.0	13.7	12.9	10.5	24.6	29.1	- (%)
つきみ野地区	230	9	11	43	51	29	39	46	2 (人)
	100.0	3.9	4.8	18.7	22.1	12.6	17.0	20.0	0.9 (%)
相模大塚地区	68	1	5	14	16	11	13	8	- (人)
	100.0	1.5	7.4	20.6	23.4	16.2	19.1	11.8	- (%)

2 大和市について

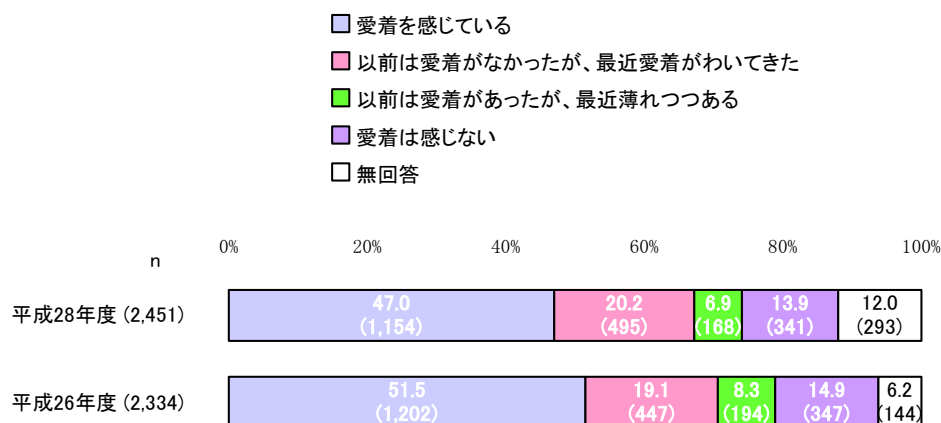
(1) 大和市への愛着度について

問1 あなたは、大和市に愛着を感じていますか。(○印は1つ)

大和市への愛着度については、「愛着を感じている」(47.0%)が最も多く、5割近くとなっている。次いで、「以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた」(20.2%)、「愛着は感じない」(13.9%)、「以前は愛着があったが、最近薄れつつある」(6.9%)の順となっている。「愛着を感じている」と「以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた」を合わせた【愛着を感じる(以下同様)】(67.2%)は7割近くとなっている。(図表1-1)

【愛着を感じる】について、前回結果(70.6%)と比較すると3.4ポイント減少している。(図表1-1)

図表1-1 愛着度—全体・経年比較

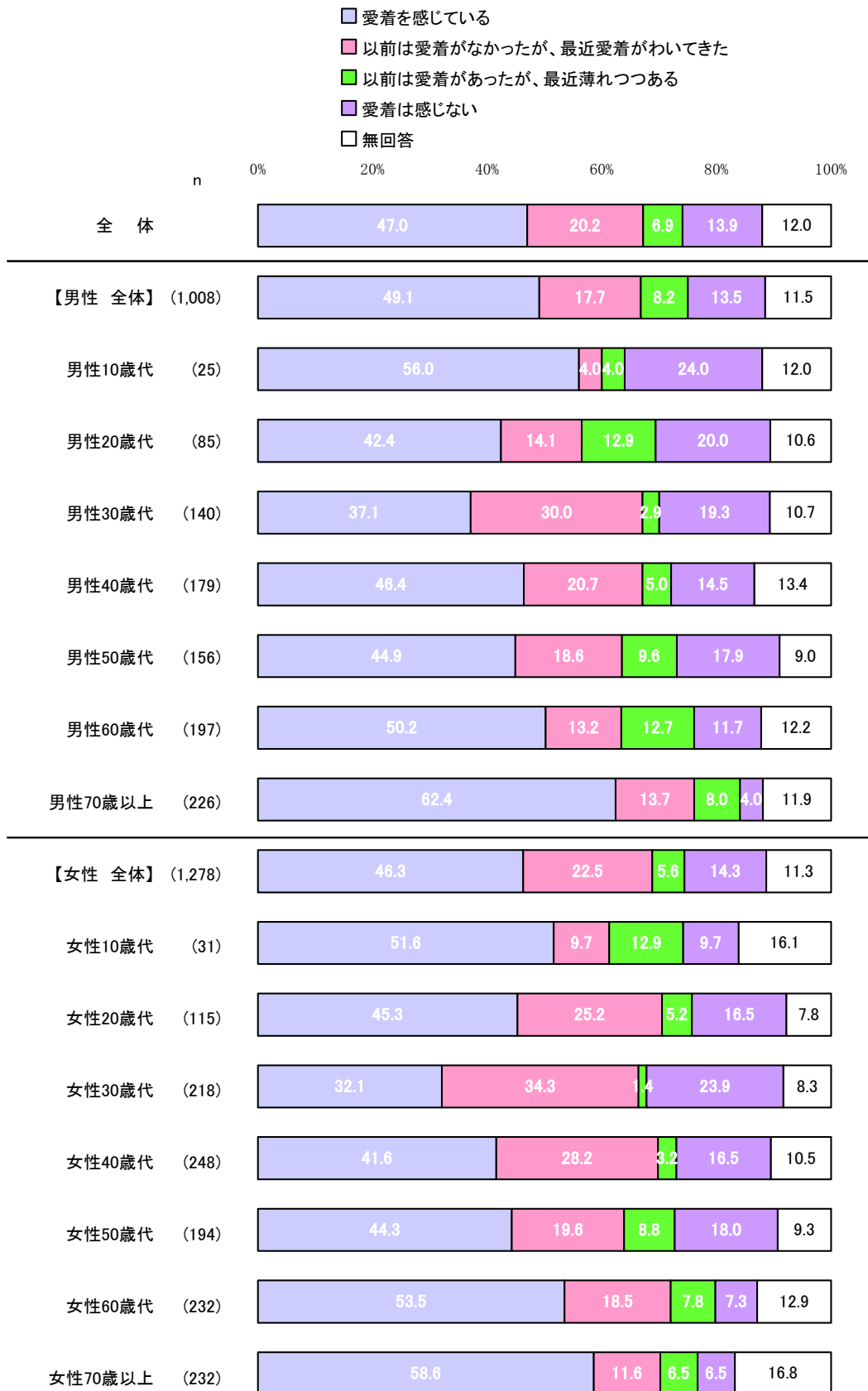


【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに【愛着を感じる】と回答した人は7割近くとなっている。

年齢別にみると、【愛着を感じる】と回答した人が7割以上となったのは、男性 70 歳以上 (76.1%)と女性 20 歳代(70.5%)・60 歳代(72.0%)・70 歳以上(70.2%)。(図表 1-2)

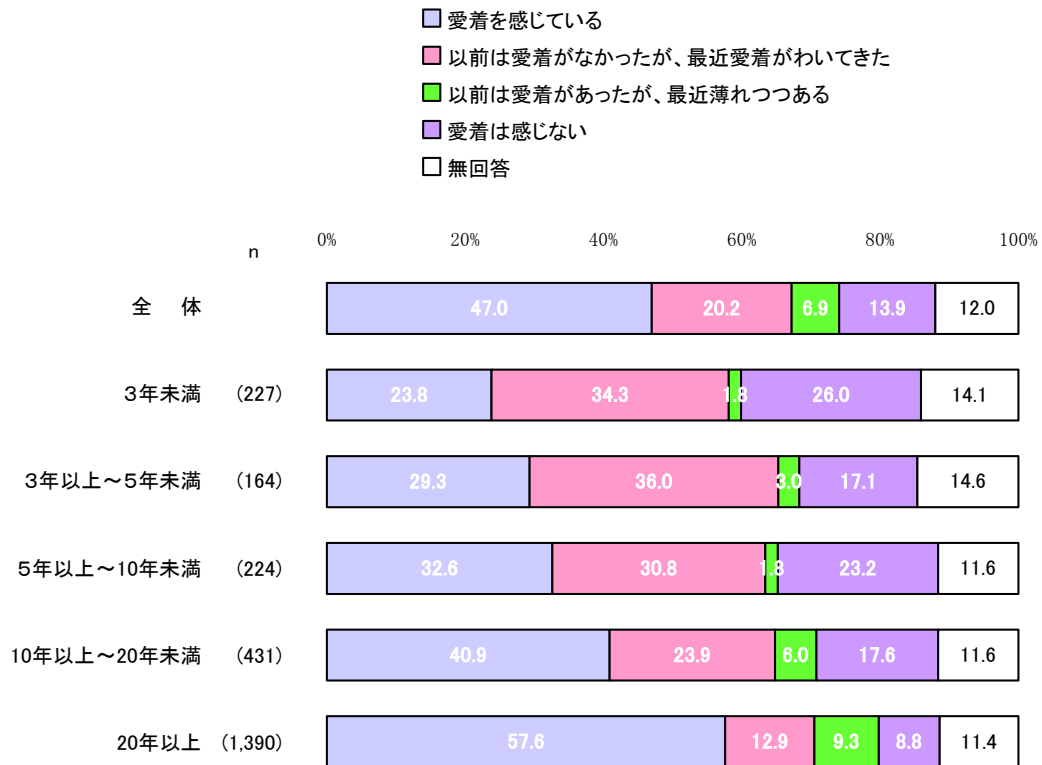
図表 1-2 愛着度-性別・年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、【愛着を感じる】と回答した人が、20年以上(70.5%)で約7割と多くなっている。一方、3年未満では「以前は愛着があったが、最近薄れつつある」と「愛着は感じない」を合わせた【愛着は感じない(以下同様)】が3割近くと多くなっている。(図表1-3)

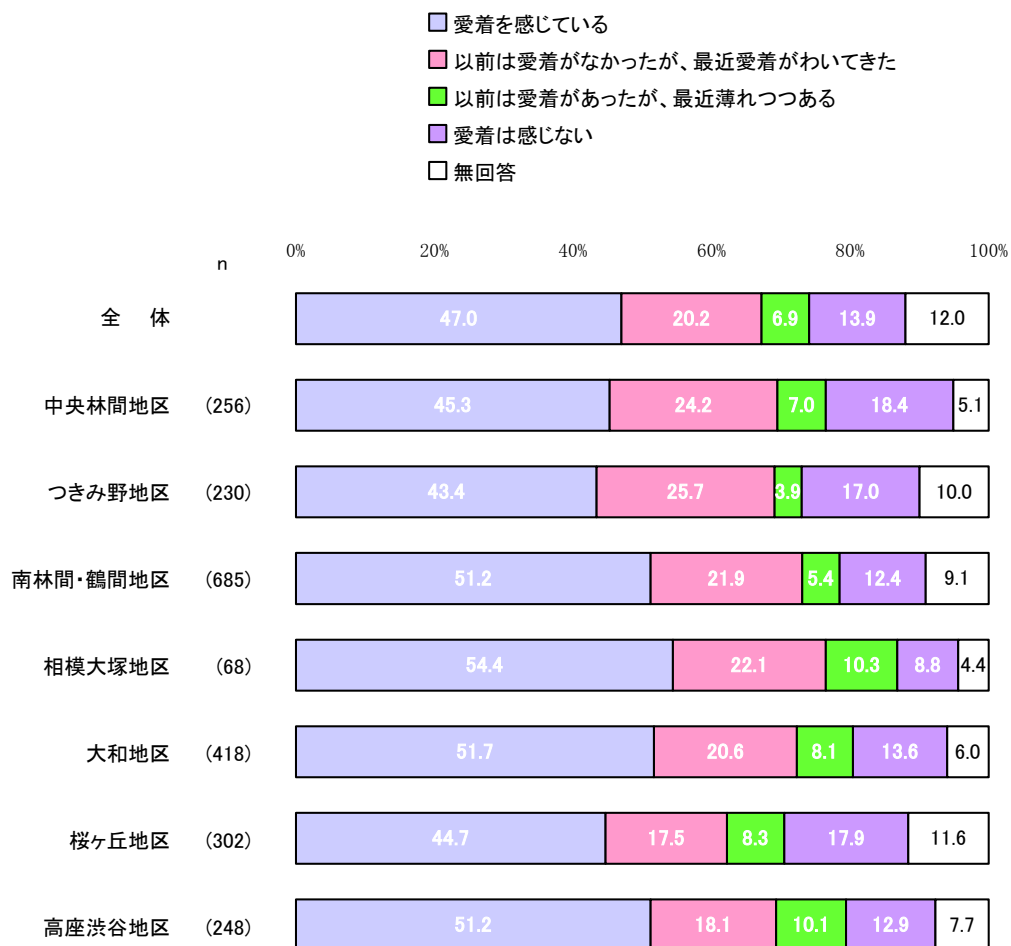
図表1-3 愛着度－居住年数別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【愛着を感じる】と回答した人が、南林間・鶴間地区(73.1%)、相模大塚地区(76.5%)、大和地区(72.3%)で7割以上と多くなっている。一方、中央林間地区、桜ヶ丘地区では【愛着は感じない】が2割台半ば以上となっており、他の地域と比較して多くなっている。(図表1-4)

図表1-4 愛着度－居住地域別



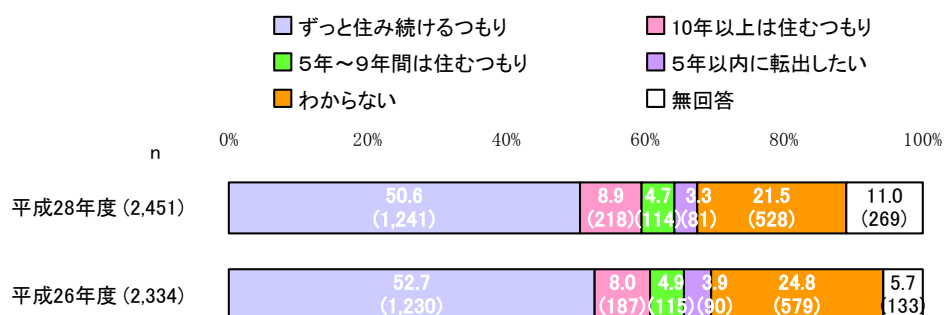
(2) 大和市への定住意向について

問2 あなたは、これからも大和市内に住み続けたいですか。(○印は1つ)

大和市内への定住意向については、「ずっと住み続けるつもり」(50.6%)が最も多く約5割となっている。次いで、「10年以上は住むつもり」(8.9%)、「5年～9年間は住むつもり」(4.7%)、「5年以内に転出したい」(3.3%)の順となっている。「ずっと住み続けるつもり」と「10年以上は住むつもり」を合わせた【定住希望(以下同様)】(59.5%)は6割弱となっている。一方、「わからない」(21.5%)は2割強となっている。(図表2-1)

【定住希望】について、前回結果(60.7%)と比較すると1.2ポイント減少している。(図表2-1)

図表2-1 定住意向—全体・経年比較

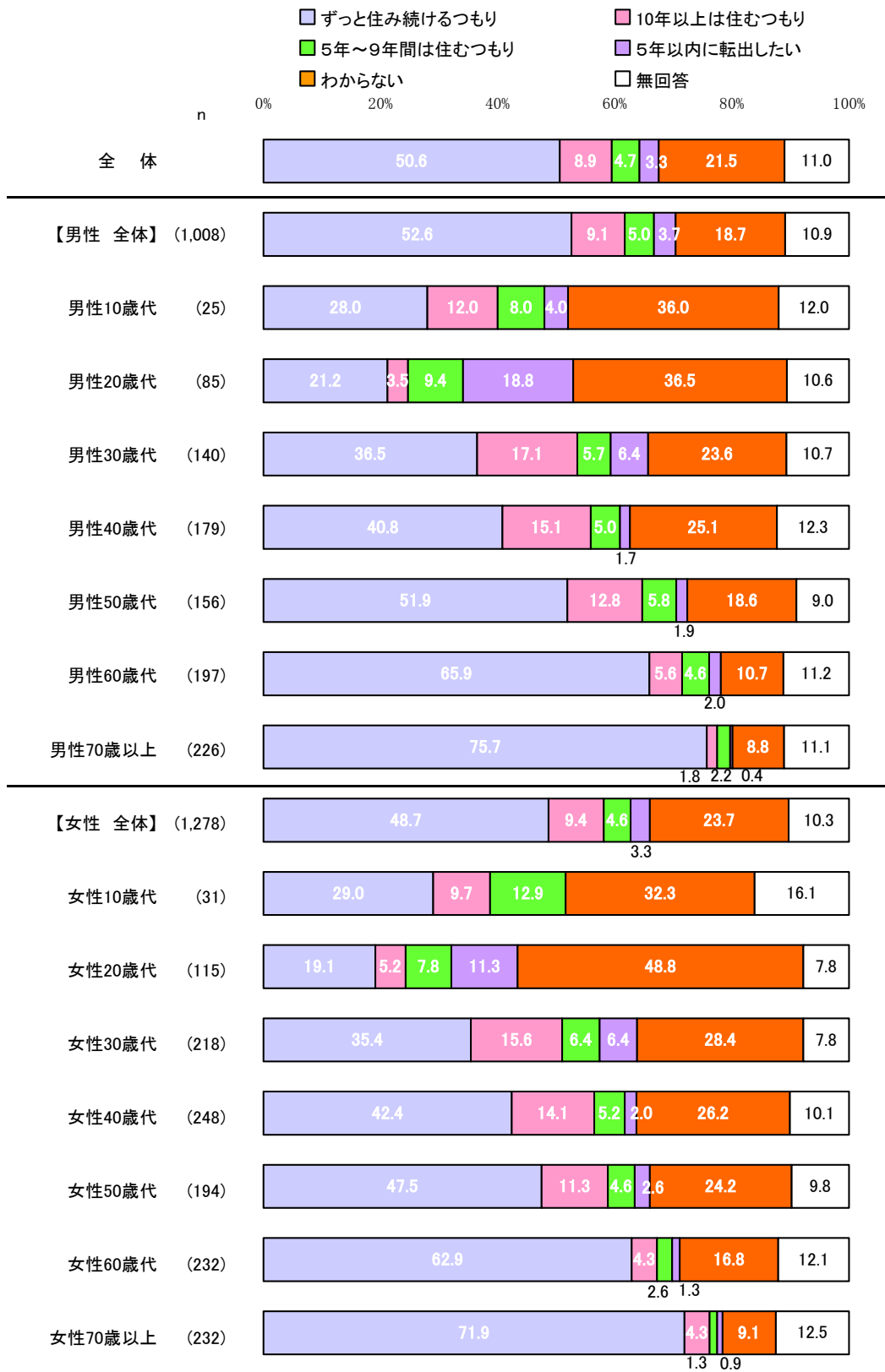


【性別・年齢別】

性別にみると、男性の【定住希望】（61.7%）は女性の【定住希望】（58.1%）よりも3.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて【定住希望】が増加傾向となり、男性の70歳以上では77.5%、女性の70歳以上では76.2%となっている。（図表2-2）

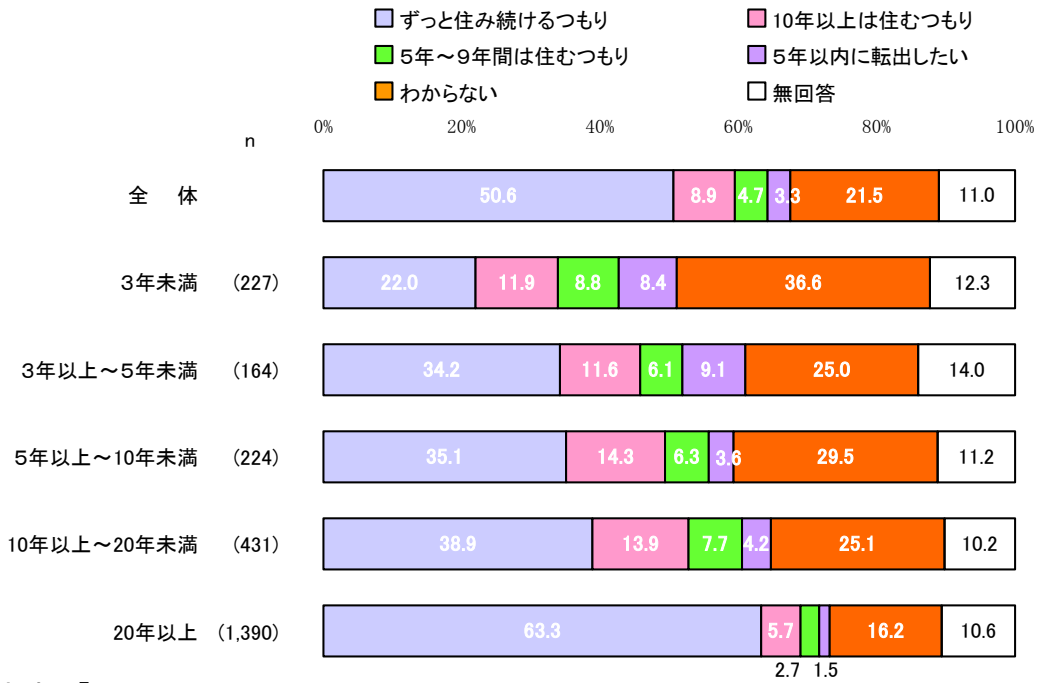
図表 2-2 定住意向—性別・年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、居住年数が長いほど【定住希望】の割合が高くなり、20年以上では【定住希望】(69.0%)が7割弱と多くなっている。一方、3年未満では【定住希望】(33.9%)が3割強となっている。(図表2-3)

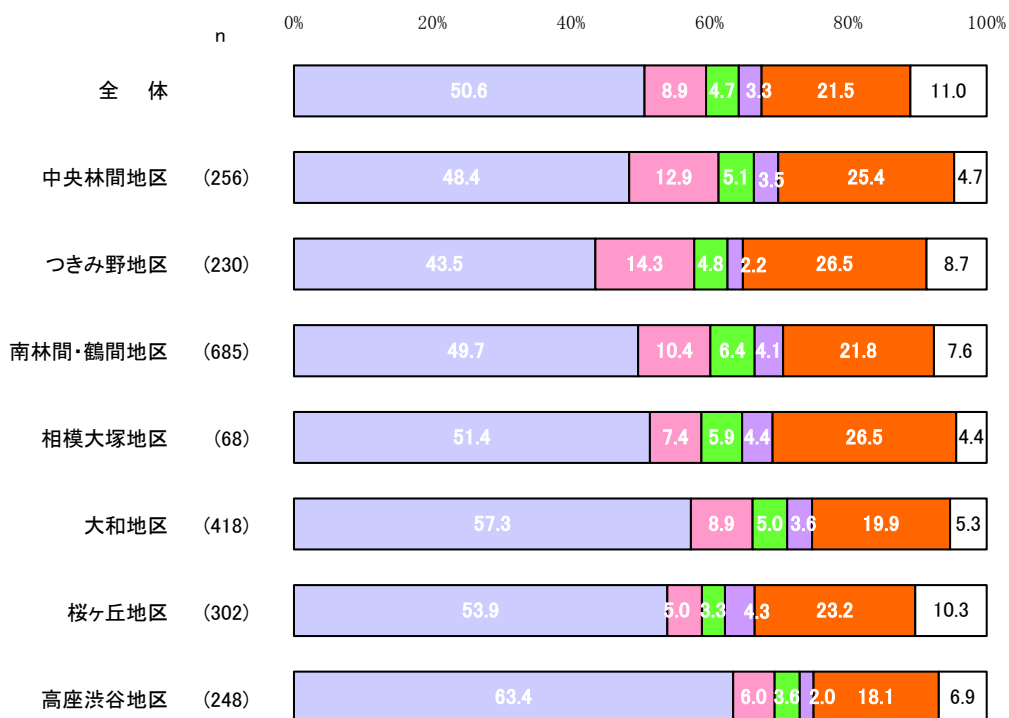
図表2-3 定住意向—居住年数別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【定住希望】と回答した人は大和地区(66.2%)や高座渋谷地区(69.4%)で多くなっている。(図表2-4)

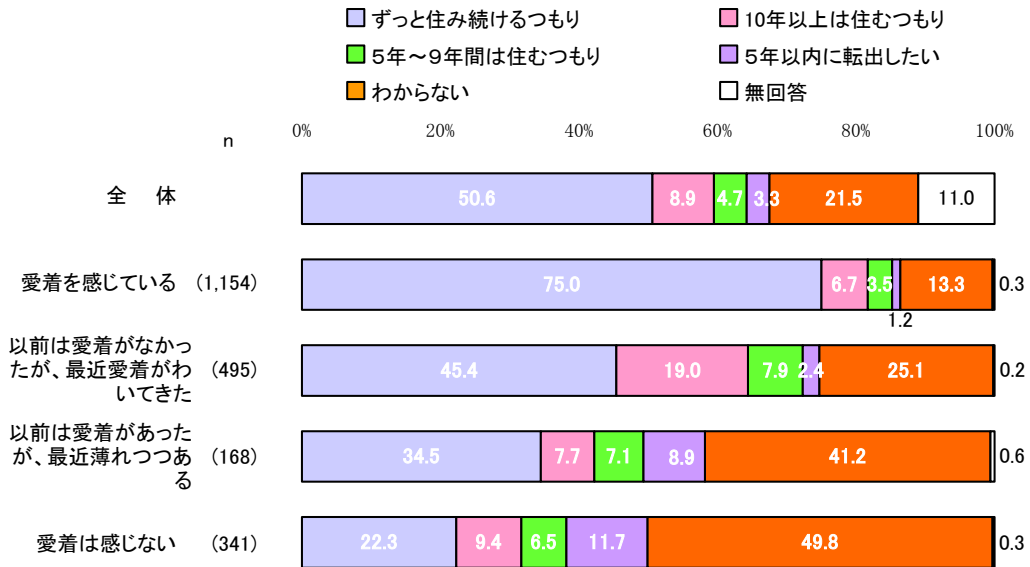
図表2-4 定住意向—居住地域別



【愛着度別】

愛着度別にみると、「愛着を感じている」と回答した人では【定住希望】（81.7%）が8割強と多くなっている。また、「以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた」と回答した人では【定住希望】（64.4%）が6割台半ばとなっている。一方、「愛着は感じない」と回答した人では「わからない」（49.8%）が5割弱と多くなっている。大和市への愛着度と定住意向は相関関係にあることがうかがえる。（図表2-5）

図表2-5 定住意向—愛着度別

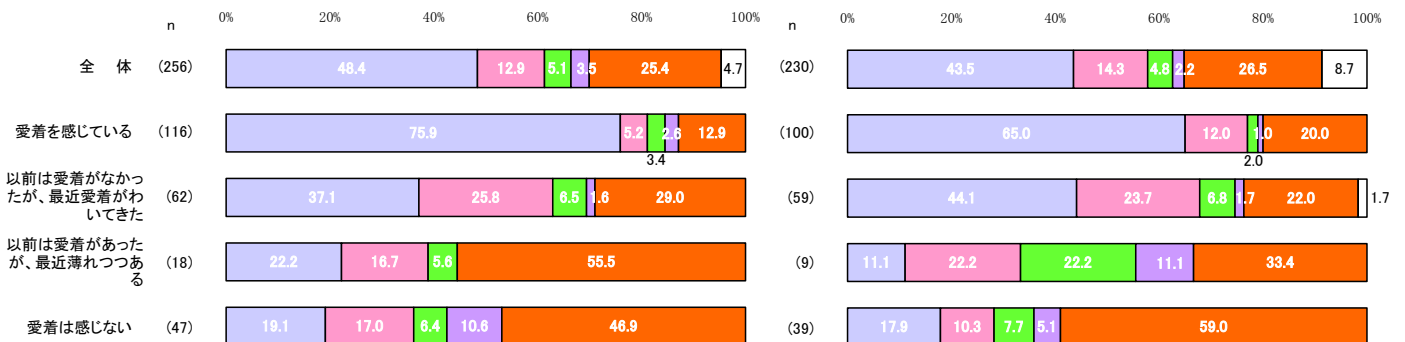


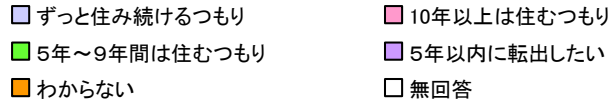
居住地域別の愛着度でみると、「愛着を感じている」と回答した人のうち【定住希望】が高座渋谷地区（89.8%）では9割弱となっている。（図表2-6）

図表2-6 定住意向—居住地域別

【中央林間地区】

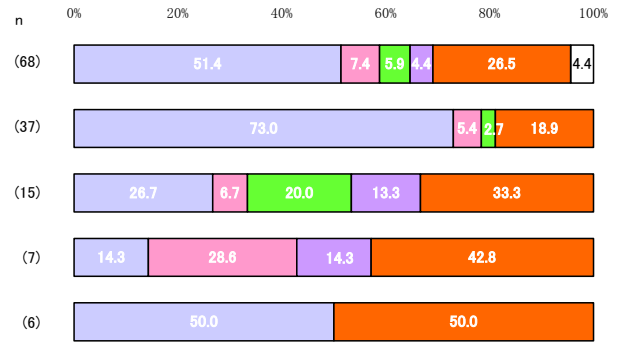
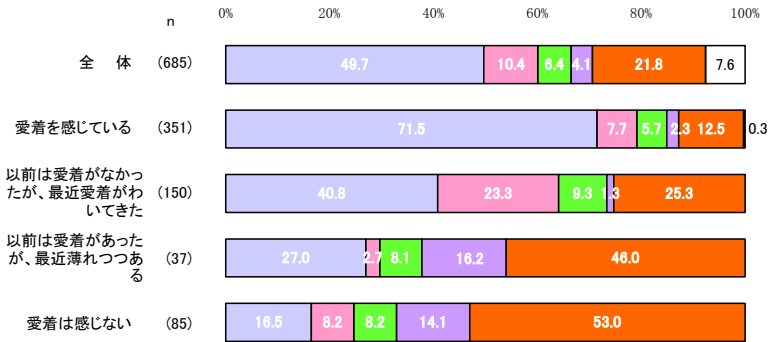
【つきみ野地区】





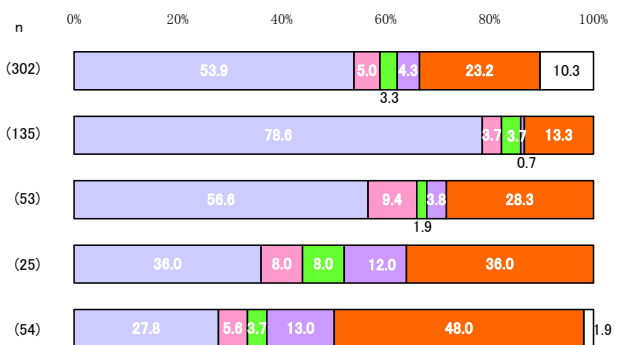
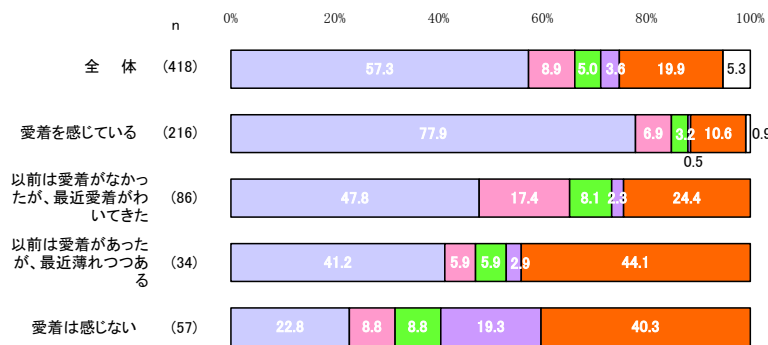
【南林間・鶴間地区】

【相模大塚地区】

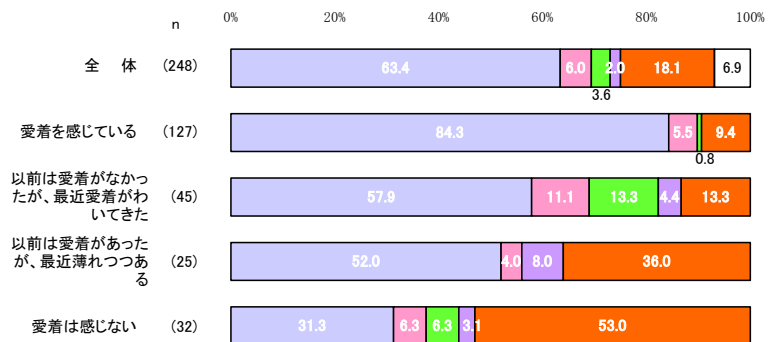


【大和地区】

【桜ヶ丘地区】



【高座渋谷地区】



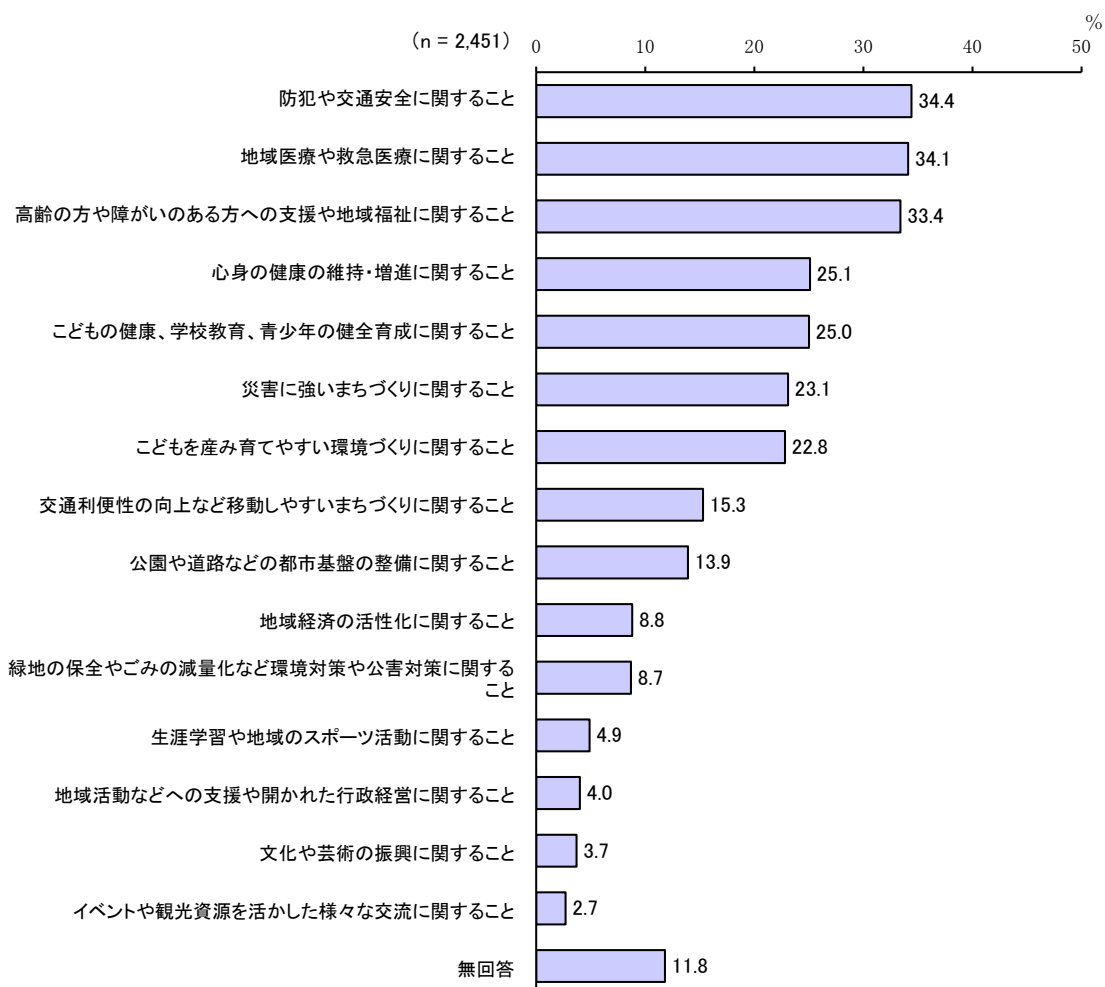
(3) 個別目標の重要度・満足度について

問3 あなたは、次に掲げるまちづくりの分野の中で、どの分野が重要と感じていますか。またどの分野に満足していますか。次の欄の1～15の中から、重要度、満足度それぞれに該当する番号を3つまで選んで記入してください。また、(1)で選んだ中から、最も重点的に進めて欲しいと思う分野について、1つだけ番号を記入してください。

(1) あなたにとって重要度の高い分野（1～15の中から3つまで）

まちづくりの分野で重要度の高い分野について、「防犯や交通安全に関すること」(34.4%)と「地域医療や救急医療に関すること」(34.1%)が3割台半ば、「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」(33.4%)が3割強となっている。次いで、「心身の健康の維持・増進に関すること」(25.1%)、「こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること」(25.0%)などの順となっている。(図表3-1)

図表3-1 重要度の高い分野—全体



前回結果と比較すると、「防犯や交通安全に関すること」がそれぞれ1位となっている。「地域医療や救急医療に関すること」は前回3位から今回2位となっている。また、「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」は前回より4.3ポイント減少している。(図表3-2)

図表3-2 重要度の高い分野—経年比較

単位：%

	平成28年度	平成26年度
調査数(n)	2,451	2,334
防犯や交通安全に関すること	34.4	38.0
地域医療や救急医療に関すること	34.1	37.0
高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	33.4	37.7
心身の健康の維持・増進に関すること	25.1	24.4
こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	25.0	26.0
災害に強いまちづくりに関すること	23.1	21.8
こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること	22.8	23.8
交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	15.3	14.8
公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	13.9	12.1
地域経済の活性化に関すること	8.8	9.5
緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること	8.7	11.5
生涯学習や地域のスポーツ活動に関すること	4.9	4.3
地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	4.0	3.3
文化や芸術の振興に関すること	3.7	4.3
イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	2.7	2.6
無回答	11.8	7.5

【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「防犯や交通安全に関すること」が3割台半ばとなっている。

年齢別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて「心身の健康の維持・増進に関すること」や「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」が増加傾向となっている。

(図表3-3)

図表3-3 重要度の高い分野—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	心身の健康の維持・増進に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	地域医療や救急医療に関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
全 体	2,451	25.1	33.4	34.1	25.0	22.8	34.4	23.1	8.7
【男性 全体】	1,008	26.7	31.5	31.3	24.8	20.9	35.6	21.8	9.2
男性 10 歳代	25	20.0	12.0	20.0	28.0	16.0	44.0	32.0	4.0
男性 20 歳代	85	27.1	14.1	21.2	22.4	30.6	35.3	15.3	16.5
男性 30 歳代	140	18.6	14.3	19.3	40.0	41.4	38.6	16.4	8.6
男性 40 歳代	179	22.3	23.5	30.2	28.5	22.9	41.3	20.1	6.1
男性 50 歳代	156	23.1	32.1	43.6	21.2	16.7	45.5	26.9	7.1
男性 60 歳代	197	28.9	42.6	35.5	17.3	10.2	31.0	25.9	11.7
男性 70 歳以上	226	36.3	47.3	32.3	22.1	15.9	25.7	20.8	9.3
【女性 全体】	1,278	23.4	33.5	36.5	26.1	26.1	34.9	24.3	8.7
女性 10 歳代	31	19.4	29.0	19.4	9.7	19.4	48.4	29.0	16.1
女性 20 歳代	115	16.5	23.5	29.6	29.6	49.6	40.0	30.4	4.3
女性 30 歳代	218	16.1	17.0	27.1	48.6	52.8	36.2	22.0	4.6
女性 40 歳代	248	19.0	28.2	38.7	35.5	25.0	39.9	23.0	8.9
女性 50 歳代	194	20.1	36.6	43.8	15.5	17.5	40.7	30.9	9.3
女性 60 歳代	232	27.2	40.5	40.1	15.9	17.2	28.9	23.7	12.9
女性 70 歳以上	232	37.5	50.0	39.7	13.8	8.2	25.0	18.5	8.6

(つづき)

単位：％

	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	生涯学習や地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
全 体	13.9	15.3	4.9	3.7	8.8	2.7	4.0	11.8
【男性 全体】	15.9	15.0	7.0	2.7	11.0	2.8	5.1	11.7
男性 10 歳代	24.0	12.0	28.0	-	4.0	12.0	4.0	12.0
男性 20 歳代	17.6	24.7	12.9	3.5	9.4	4.7	4.7	11.8
男性 30 歳代	21.4	25.0	4.3	1.4	7.1	4.3	1.4	11.4
男性 40 歳代	21.8	15.1	5.6	1.7	11.7	1.1	5.6	12.8
男性 50 歳代	12.8	14.1	5.8	2.6	9.6	1.9	4.5	9.0
男性 60 歳代	12.2	11.2	7.6	4.6	14.2	2.5	5.6	12.7
男性 70 歳以上	11.5	9.3	5.8	2.7	12.4	2.2	7.1	11.9
【女性 全体】	12.7	15.7	3.3	4.1	7.3	2.7	3.0	11.0
女性 10 歳代	22.6	16.1	3.2	3.2	6.5	-	-	16.1
女性 20 歳代	10.4	13.0	2.6	6.1	8.7	7.8	0.9	7.8
女性 30 歳代	19.3	14.7	2.3	3.2	4.1	3.7	2.3	7.8
女性 40 歳代	13.7	20.2	2.4	4.8	5.6	2.4	2.0	9.7
女性 50 歳代	11.3	16.5	5.2	4.1	8.2	1.5	6.7	9.3
女性 60 歳代	10.3	12.1	3.0	3.9	12.1	2.2	1.7	13.8
女性 70 歳以上	8.2	16.4	4.3	3.4	5.6	1.7	4.3	15.5

【居住地域別】

居住地域別にみると、大和地区で「防犯や交通安全に関すること」（42.1%）が4割強と多くなっている。（図表3-4）

図表3-4 重要度の高い分野—居住地域別

単位：%

	調査数（n）	心身の健康の維持・増進に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	地域医療や救急医療に関すること	こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
全 体	2,451	25.1	33.4	34.1	25.0	22.8	34.4	23.1	8.7
中央林間地区	256	20.3	30.1	31.3	29.3	26.6	36.7	29.3	11.7
つきみ野地区	230	23.5	34.8	39.1	26.1	23.5	36.5	22.6	11.3
南林間・鶴間地区	685	25.7	33.6	34.6	29.1	26.3	33.0	24.2	7.4
相模大塚地区	68	30.9	32.4	35.3	32.4	27.9	35.3	29.4	11.8
大和地区	418	25.4	34.9	37.6	26.3	24.9	42.1	21.5	7.9
桜ヶ丘地区	302	28.1	37.1	36.8	21.5	19.9	33.4	23.5	9.6
高座渋谷地区	248	31.5	35.5	35.1	23.8	19.8	38.3	26.2	10.5

(つづき)

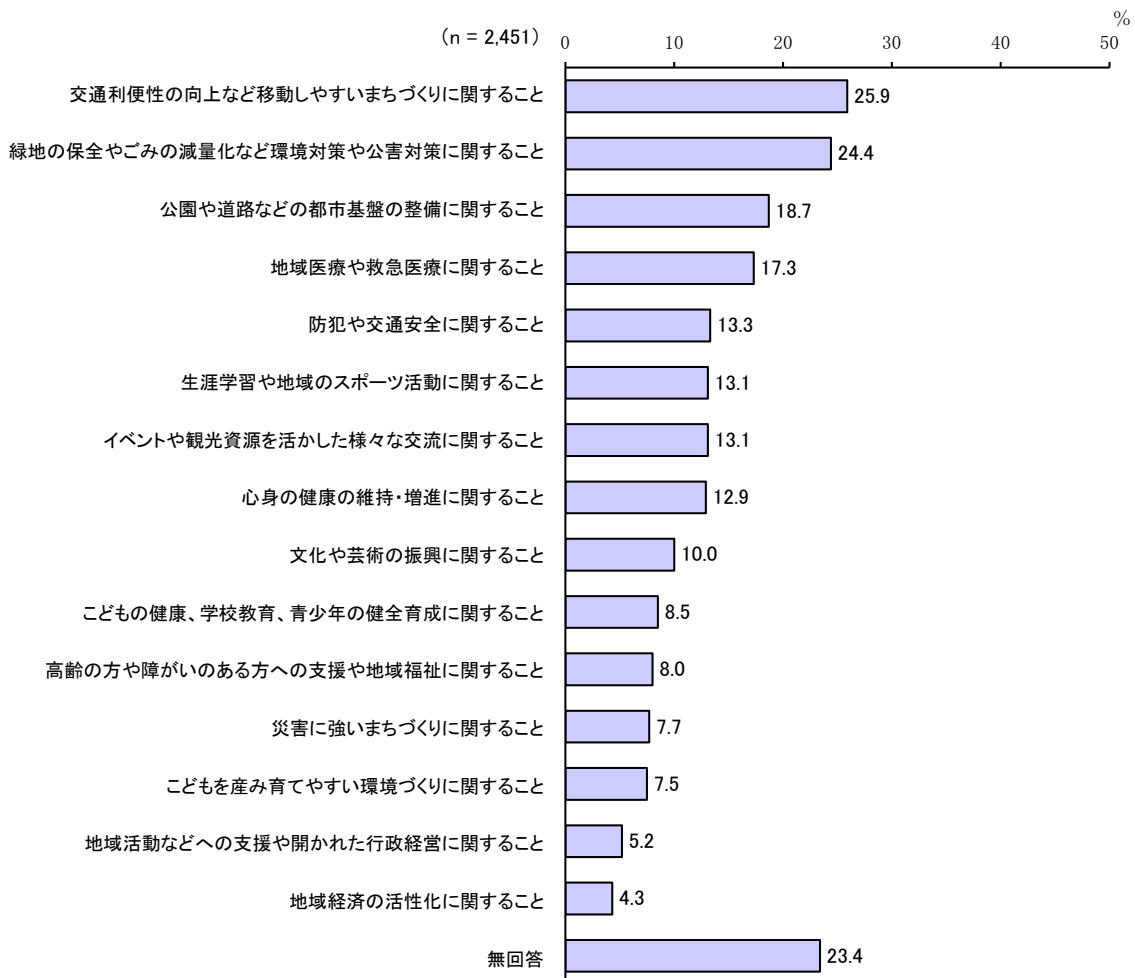
単位：%

	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	生涯学習や地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
全 体	13.9	15.3	4.9	3.7	8.8	2.7	4.0	11.8
中央林間地区	20.7	18.4	3.9	3.1	6.6	2.0	5.9	6.3
つきみ野地区	15.2	16.5	6.1	3.9	8.3	1.3	2.2	8.7
南林間・鶴間地区	16.9	15.0	3.8	4.2	9.9	2.9	3.8	8.5
相模大塚地区	4.4	16.2	2.9	4.4	7.4	1.5	5.9	4.4
大和地区	12.7	12.2	5.0	3.8	12.4	5.3	4.8	6.5
桜ヶ丘地区	11.9	19.2	7.3	2.6	7.9	2.6	3.0	10.3
高座渋谷地区	9.3	16.9	4.4	4.4	8.1	2.4	4.4	7.7

(2) あなたにとって満足度の高い分野（1～15の中から3つまで）

まちづくりの分野で満足度の高い分野について、「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること」（25.9%）、「緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること」（24.4%）が多く、2割台半ばとなっている。次いで、「公園や道路などの都市基盤の整備に関すること」（18.7%）、「地域医療や救急医療に関すること」（17.3%）などの順となっている。（図表3-5）

図表3-5 満足度の高い分野—全体



前回結果と比較すると、「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること」が前回2位から今回1位となり、「緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること」が前回1位から今回2位となっている。また、「文化や芸術の振興に関すること」(10.0%)が前回から3.7ポイントの増となっている。(図表3-6)

図表3-6 満足度の高い分野—経年比較

単位：%

	平成28年度	平成26年度
調査数(n)	2,451	2,334
交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	25.9	29.3
緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること	24.4	29.9
公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	18.7	22.3
地域医療や救急医療に関すること	17.3	19.2
防犯や交通安全に関すること	13.3	15.0
生涯学習や地域のスポーツ活動に関すること	13.1	13.7
イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	13.1	15.4
心身の健康の維持・増進に関すること	12.9	12.6
文化や芸術の振興に関すること	10.0	6.3
こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	8.5	7.6
高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	8.0	7.8
災害に強いまちづくりに関すること	7.7	7.2
こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること	7.5	5.4
地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	5.2	4.1
地域経済の活性化に関すること	4.3	4.3
無回答	23.4	20.0

【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること」が高くなっている。

年齢別にみると、男性 10 歳代で「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること」(48.0%) が5割近くと多くなっており、女性 10 歳代で「イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること」(29.0%) が他の年代と比べて多くなっている。(図表 3-7)

図表 3-7 満足度の高い分野—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	心身の健康の維持・増進に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	地域医療や救急医療に関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
全 体	2,451	12.9	8.0	17.3	8.5	7.5	13.3	7.7	24.4
【男性 全体】	1,008	13.5	8.2	18.2	8.1	6.4	15.5	8.4	25.4
男性 10 歳代	25	16.0	-	24.0	4.0	-	28.0	12.0	20.0
男性 20 歳代	85	10.6	8.2	9.4	12.9	4.7	14.1	8.2	22.4
男性 30 歳代	140	7.9	7.1	15.0	7.9	11.4	11.4	5.7	24.3
男性 40 歳代	179	14.5	6.7	19.6	7.8	7.8	10.6	5.0	24.0
男性 50 歳代	156	18.6	10.3	17.3	10.9	6.4	9.6	5.8	19.9
男性 60 歳代	197	12.2	8.1	18.8	6.1	4.6	21.3	9.6	32.0
男性 70 歳以上	226	14.6	9.7	21.7	7.1	5.3	19.9	13.3	27.0
【女性 全体】	1,278	12.4	7.8	16.5	9.0	8.1	10.9	6.9	23.6
女性 10 歳代	31	6.5	19.4	9.7	6.5	6.5	3.2	6.5	25.8
女性 20 歳代	115	14.8	10.4	13.0	9.6	6.1	12.2	6.1	25.2
女性 30 歳代	218	10.1	4.1	22.9	11.9	14.2	6.4	7.8	13.3
女性 40 歳代	248	10.1	3.2	19.4	12.5	13.3	9.7	6.0	21.8
女性 50 歳代	194	11.9	9.3	11.9	5.2	6.7	10.8	3.6	28.9
女性 60 歳代	232	15.9	11.6	15.5	6.5	3.4	11.2	9.9	23.7
女性 70 歳以上	232	13.8	8.6	15.1	7.8	3.9	16.8	7.3	29.7

(つづき)

単位：%

	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	生涯学習や地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
全 体	18.7	25.9	13.1	10.0	4.3	13.1	5.2	23.4
【男性 全体】	20.5	28.4	14.7	9.7	4.4	11.7	5.0	21.5
男性 10 歳代	24.0	48.0	12.0	4.0	4.0	4.0	8.0	16.0
男性 20 歳代	18.8	31.8	17.6	11.8	3.5	11.8	3.5	23.5
男性 30 歳代	23.6	25.0	12.1	7.1	2.9	12.1	2.9	25.7
男性 40 歳代	21.8	24.0	14.5	10.1	5.6	16.8	4.5	19.6
男性 50 歳代	22.4	27.6	12.2	12.2	3.2	12.8	5.8	19.2
男性 60 歳代	18.3	29.9	18.3	7.6	4.6	12.2	4.6	20.8
男性 70 歳以上	18.6	29.6	14.2	11.1	5.3	7.1	6.6	22.6
【女性 全体】	17.5	24.6	12.4	10.3	4.3	14.9	5.2	23.9
女性 10 歳代	19.4	22.6	6.5	22.6	3.2	29.0	16.1	22.6
女性 20 歳代	19.1	26.1	11.3	9.6	4.3	19.1	7.0	19.1
女性 30 歳代	19.3	23.4	10.1	8.3	2.8	16.5	5.0	22.5
女性 40 歳代	18.5	21.0	12.1	9.3	5.2	17.7	5.6	21.8
女性 50 歳代	19.1	31.4	9.3	7.7	5.7	11.3	3.6	21.6
女性 60 歳代	16.8	31.0	18.1	11.6	2.6	12.1	5.6	22.4
女性 70 歳以上	13.4	17.2	13.8	13.4	5.6	12.5	3.9	32.8

【居住地域別】

居住地域別にみると、つきみ野地区で「緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること」、中央林間地区、大和地区で「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること」が3割以上となっている。(図表3-8)

図表3-8 満足度の高い分野—居住地域別

単位：%

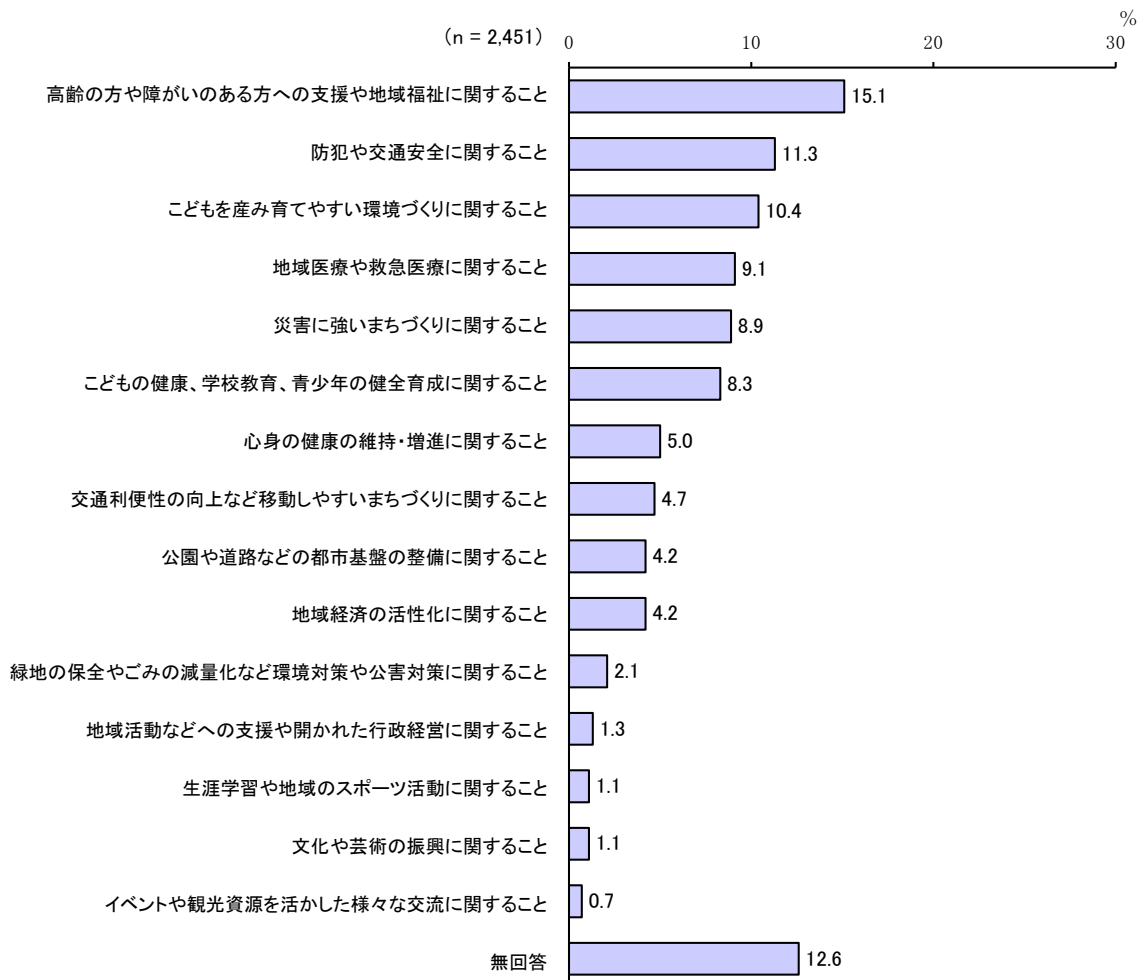
	調査数 (n)	心身の健康の維持・増進に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	地域医療や救急医療に関すること	こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
全 体	2,451	12.9	8.0	17.3	8.5	7.5	13.3	7.7	24.4
中央林間地区	256	11.3	6.3	19.9	10.9	9.4	18.0	6.3	25.8
つきみ野地区	230	18.7	6.5	12.6	11.3	9.6	16.1	7.8	32.2
南林間・鶴間地区	685	13.6	7.9	21.6	9.2	7.6	13.4	8.2	24.4
相模大塚地区	68	16.2	14.7	13.2	5.9	5.9	11.8	1.5	25.0
大和地区	418	11.5	7.9	15.8	8.9	5.5	12.0	7.9	22.0
桜ヶ丘地区	302	11.9	8.9	17.2	7.3	8.3	13.9	8.3	26.2
高座渋谷地区	248	14.5	10.1	16.9	7.3	8.5	10.9	9.7	26.2

	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	生涯学習や地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
全 体	18.7	25.9	13.1	10.0	4.3	13.1	5.2	23.4
中央林間地区	14.8	34.8	7.0	7.8	4.7	10.2	5.1	18.8
つきみ野地区	23.9	22.2	13.5	10.9	2.2	6.5	6.1	18.7
南林間・鶴間地区	19.6	25.7	12.6	11.1	4.2	11.7	5.5	21.2
相模大塚地区	16.2	27.9	16.2	7.4	8.8	19.1	5.9	19.1
大和地区	19.9	30.9	18.2	11.0	4.1	22.2	6.0	17.9
桜ヶ丘地区	16.9	22.8	13.2	10.6	6.0	14.9	3.3	23.8
高座渋谷地区	27.4	24.2	18.5	12.9	4.0	14.1	4.4	16.9

(3) あなたが最も重点的に進めて欲しいと思う分野（(1) で選んだ中から 1 つだけ）

まちづくりの分野で最も重点的に進めて欲しいと思う分野について、「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」(15.1%) が最も多く、次いで、「防犯や交通安全に関すること」(11.3%)、「子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること」(10.4%)、「地域医療や救急医療に関すること」(9.1%) などの順となっている。(図表 3-9)

図表 3-9 最も重点的に進めて欲しい分野—全体



前回結果と比較すると、「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」が1位、「防犯や交通安全に関すること」が2位と前回同様となっている。(図表3-10)

図表3-10 最も重点的に進めて欲しい分野—経年比較

単位：%

	平成28年度	平成26年度
調査数(n)	2,451	2,334
高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	15.1	17.7
防犯や交通安全に関すること	11.3	12.1
子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	10.4	11.7
地域医療や救急医療に関すること	9.1	9.3
災害に強いまちづくりに関すること	8.9	7.6
子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	8.3	7.3
心身の健康の維持・増進に関すること	5.0	4.5
交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	4.7	4.5
公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	4.2	4.2
地域経済の活性化に関すること	4.2	4.5
緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること	2.1	3.1
地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	1.3	1.5
生涯学習や地域のスポーツ活動に関すること	1.1	1.2
文化や芸術の振興に関すること	1.1	1.8
イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	0.7	0.7
無回答	12.6	8.5

【年齢別】

年齢別にみると、10歳代で「防犯や交通安全に関すること」、20歳代、30歳代で「子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること」、60歳代、70歳以上で「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」が2割以上となっている。(図表3-11)

図表3-11 最も重点的に進めて欲しい分野—年齢別

単位：%

	調査数(n)	心身の健康の維持・増進に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	地域医療や救急医療に関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
全 体	2,451	5.0	15.1	9.1	8.3	10.4	11.3	8.9	2.1
10歳代	56	3.6	3.6	5.4	5.4	5.4	21.4	19.6	1.8
20歳代	201	5.0	7.0	4.0	6.0	21.9	16.9	9.5	3.0
30歳代	363	3.6	5.5	4.1	15.7	26.7	11.8	7.7	1.4
40歳代	438	4.6	10.7	9.4	12.1	9.8	14.2	7.5	1.8
50歳代	364	4.9	17.6	12.9	6.0	5.8	12.9	11.0	1.6
60歳代	461	5.2	20.4	12.8	3.7	6.1	8.5	9.8	2.6
70歳以上	545	6.6	23.5	8.8	6.8	2.9	6.6	7.5	2.6

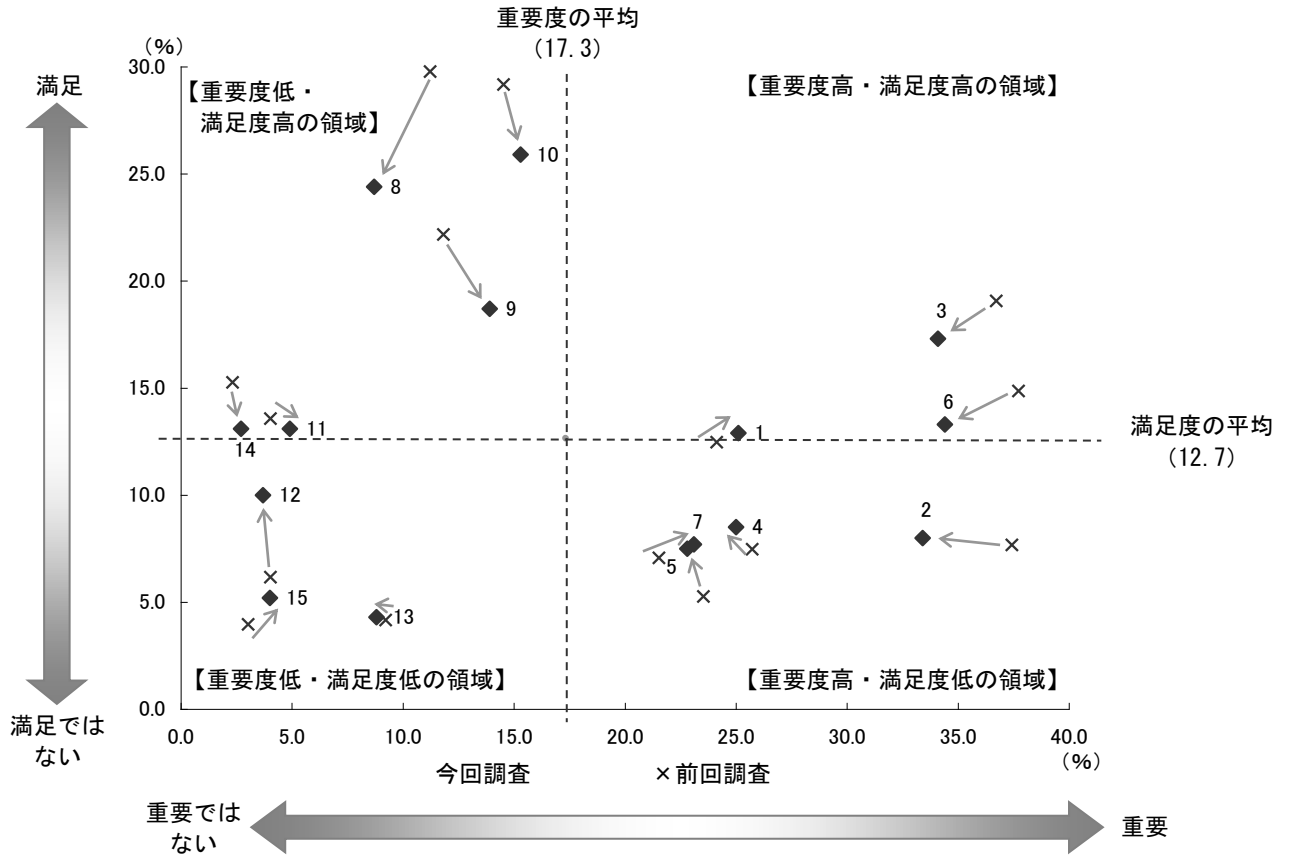
	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	生涯学習や地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
全 体	4.2	4.7	1.1	1.1	4.2	0.7	1.3	12.6
10歳代	7.1	3.6	3.6	-	1.8	1.8	1.8	14.3
20歳代	3.0	5.5	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	9.5
30歳代	3.9	5.0	1.4	0.3	2.5	0.8	-	9.6
40歳代	5.7	5.9	0.7	0.7	4.1	0.7	0.2	11.9
50歳代	3.8	5.5	1.1	1.1	3.8	-	1.1	10.7
60歳代	3.5	2.4	0.9	1.3	6.9	1.1	1.1	13.9
70歳以上	4.2	4.6	0.6	1.8	4.2	0.6	2.9	15.8

(4) 個別目標の重要度・満足度

縦軸を満足度、横軸を重要度とし、各施策に対する回答の割合を座標で示した。重要度と満足度の平均値を中間線で区分し、各施策に対する回答結果を4つの領域に分けて示している。

(図表 3-12)

図表 3-12 個別目標の重要度・満足度—クロス分析



	分野
1	心身の健康の維持・増進に関すること
2	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること
3	地域医療や救急医療に関すること
4	こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること
5	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること
6	防犯や交通安全に関すること
7	災害に強いまちづくりに関すること
8	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
9	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること
10	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること
11	生涯学習や地域のスポーツ活動に関すること
12	文化や芸術の振興に関すること
13	地域経済の活性化に関すること
14	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること
15	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること

図表 3-13 個別目標の重要度・満足度—クロス分析の詳細

満足 ↑ ↓ 満足ではない	【重要度低・満足度高の領域】 8 緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること 9 公園や道路などの都市基盤の整備に関すること 10 交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること 11 生涯学習や地域のスポーツ活動に関すること 14 イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	【重要度高・満足度高の領域】 1 心身の健康の維持・増進に関すること 3 地域医療や救急医療に関すること 6 防犯や交通安全に関すること
	【重要度低・満足度低の領域】 12 文化や芸術の振興に関すること 13 地域経済の活性化に関すること 15 地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	【重要度高・満足度低の領域】 2 高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること 4 こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること 5 こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること 7 災害に強いまちづくりに関すること
	重要ではない ←	→ 重要

重要度・満足度ともに高い領域には「心身の健康の維持・増進に関すること」、「地域医療や救急医療に関すること」、「防犯や交通安全に関すること」がある。この領域にある施策は、質・量ともに住民のニーズに即していると考えられる。

重要度が高く満足度が低い領域には「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」、「こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること」、「こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること」、「災害に強いまちづくりに関すること」がある。この領域については、施策の充実について検討していく必要があると考えられる。

重要度が低く満足度が高い領域には「緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること」、「公園や道路などの都市基盤の整備に関すること」、「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること」、「生涯学習や地域のスポーツ活動に関すること」、「イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること」がある。この領域については、施策が効果的に推進されてきたと捉えることもでき、提供するサービスの量について検討する必要があると考えられる。

重要度が低く満足度が低い領域には「文化や芸術の振興に関すること」、「地域経済の活性化に関すること」、「地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること」がある。この領域については、施策のあり方や効果的な推進方法について検討する必要があると考えられる。(図表 3-13)

(4) 成果を計る指標について

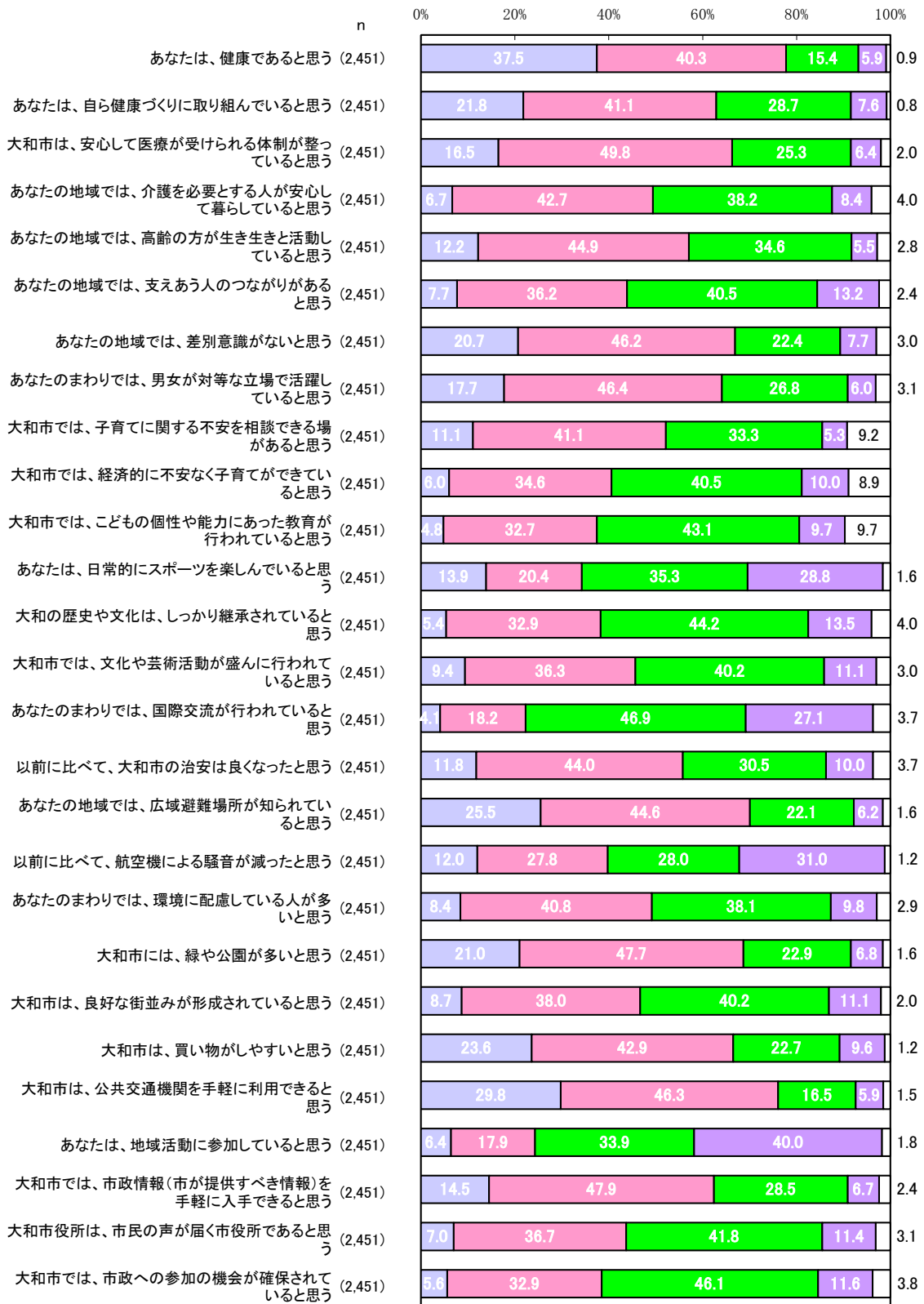
問4 あなたは次にあげる項目についてどう思われますか。1～27の項目それぞれについて、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の中から選んで番号に○印をつけてください。(それぞれ○印は1つ)

成果を計る指標について、「そう思う」と「ややそう思う」の合計(以下、【そう思う】という)が6割以上となっている項目は、「あなたは、健康であると思う」(77.8%)、「大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う」(76.1%)、「あなたの地域では、広域避難場所が知られていると思う」(70.1%)、「大和市には、緑や公園が多いと思う」(68.7%)、「あなたの地域では、差別意識がないと思う」(66.9%)、「大和市は、買い物しやすいと思う」(66.5%)、「大和市は、安心して医療が受けられる体制が整っていると思う」(66.3%)、「あなたのまわりでは、男女が対等な立場で活躍していると思う」(64.1%)、「あなたは、自ら健康づくりに取り組んでいると思う」(62.9%)、「大和市では、市政情報(市が提供すべき情報)を手軽に入手できると思う」(62.4%)の10項目となっている。(図表4-1)

また、第8次大和市総合計画・後期基本計画において成果を計る指標に設定している19項目のうち、中間目標値を達成したものは、「あなたの地域では、高齢の方が生き生きと活動していると思う」(57.1%、中間目標値:56.0%)、「大和市では、こどもの個性や能力にあった教育が行われていると思う」(37.5%、中間目標値:35.0%)、「以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う」(55.8%、中間目標値:48.8%)、「あなたの地域では、広域避難場所が知られていると思う」(70.1%、中間目標値:69.8%)の4項目となっている。

図表4-1 成果を計る指標—全体

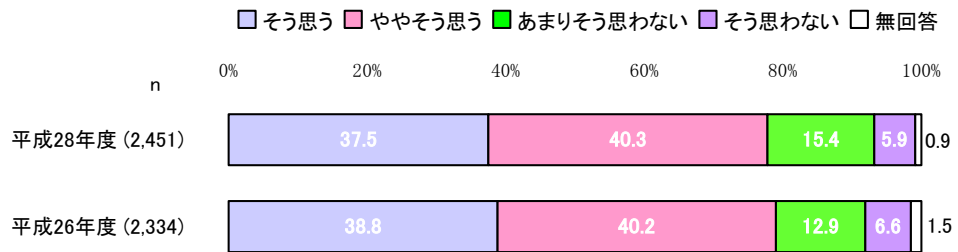
□ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない □ 無回答



1 あなたは健康であると思う

【そう思う】は77.8%で、前回結果（79.0%）と比較して1.2ポイント減少している。
（図表4-2）

図表4-2 成果を計る指標—経年比較

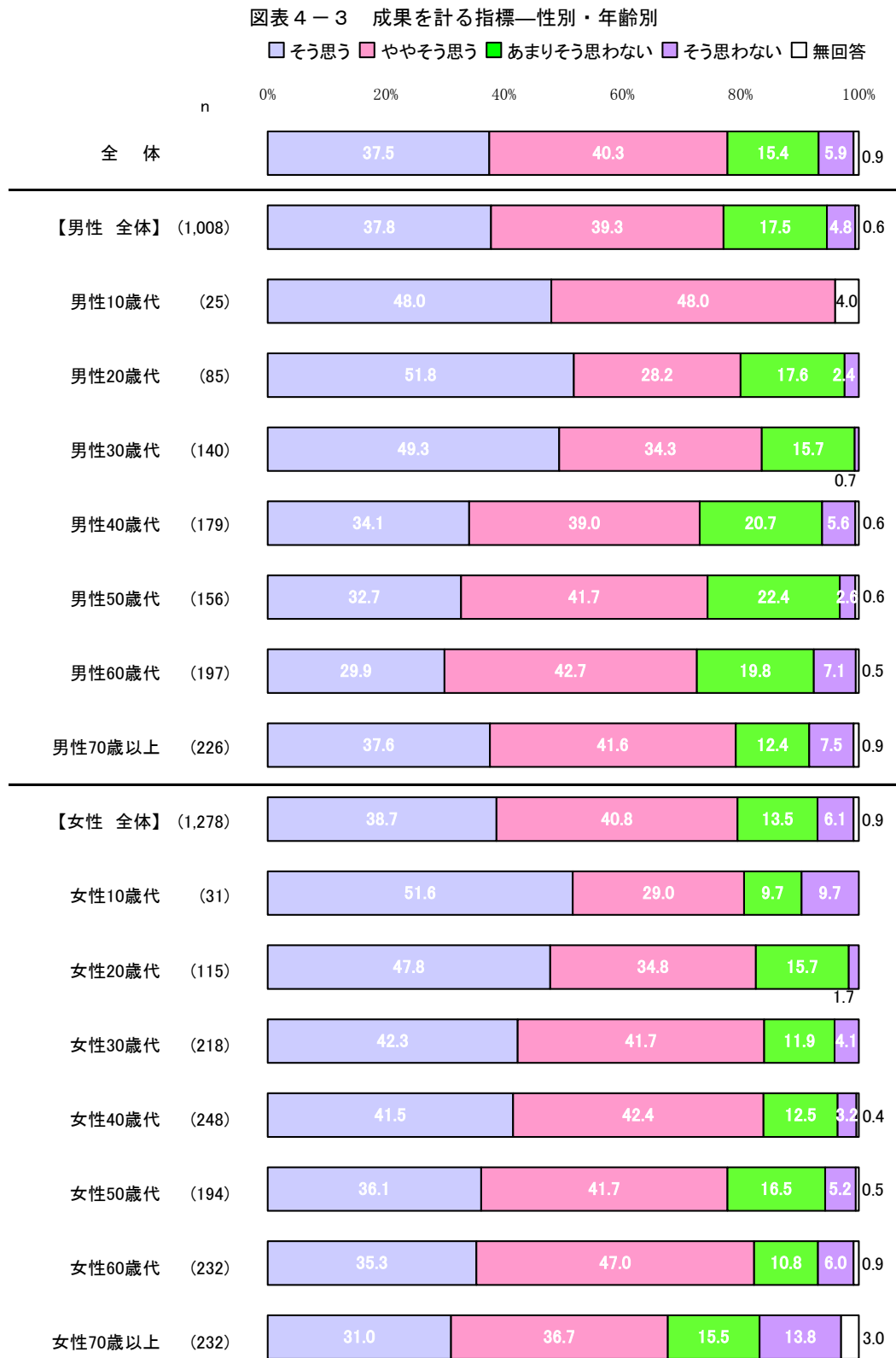


【性別・年齢別】

性別にみると、女性の【そう思う】(79.5%)は男性の【そう思う】(77.1%)よりも2.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男性10歳代で【そう思う】(96.0%)と回答した人が10割近くとなっている。また、女性70歳以上では【そう思う】(67.7%)と回答した人が7割以下となっている。

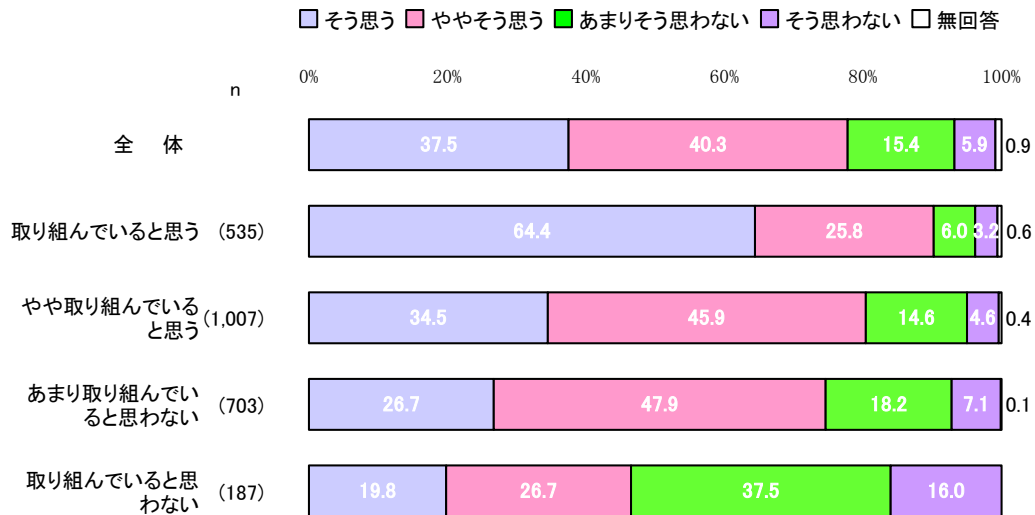
(図表4-3)



【健康づくりへの取り組み別】

健康づくりへの取り組み別にみると、「取り組んでいると思う」と回答した人では【そう思う】(90.2%)が約9割と多くなっている。また、「取り組んでいると思わない」と回答した人では【そう思う】(46.5%)が5割近くとなっている。(図表4-4)

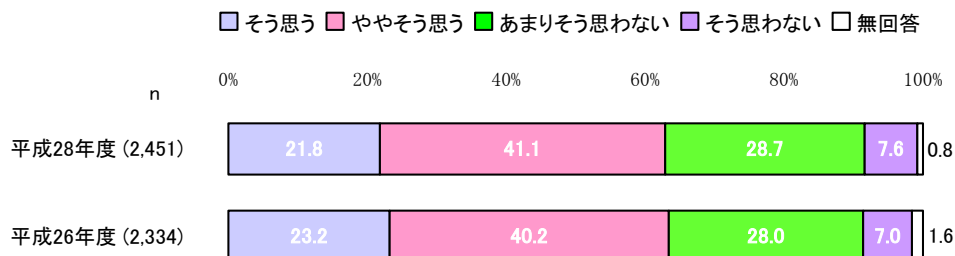
図表4-4 成果を計る指標—健康づくりへの取り組み別



2 あなたは、自ら健康づくりに取り組んでいると思う

【そう思う】は62.9%で、前回結果（63.4%）と比較して0.5ポイント減少している。
（図表4-5）

図表4-5 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、年代が上がるにつれて【そう思う】が増加傾向となり、70歳以上では73.7%となっている。（図表4-6）

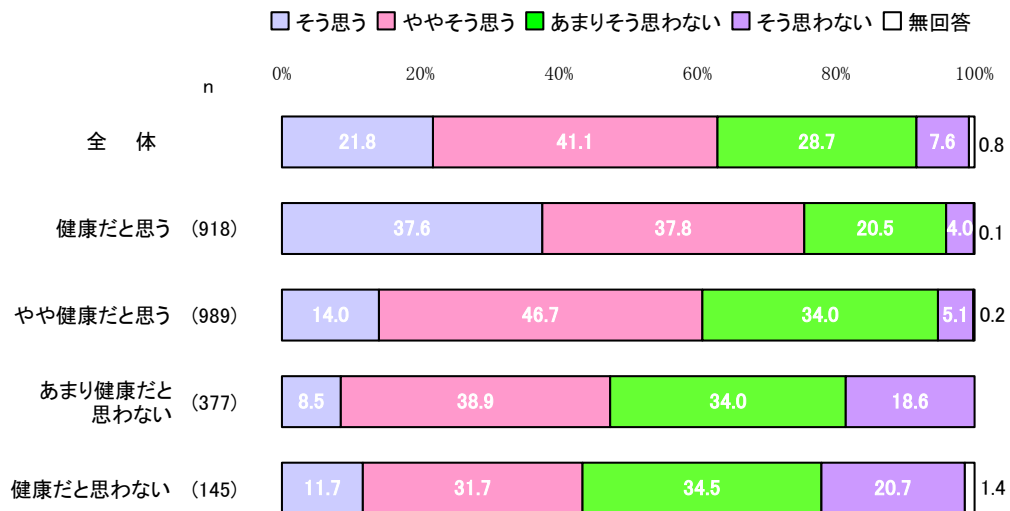
図表4-6 成果を計る指標—年齢別



【健康感別】

健康感別にみると、「健康だと思う」と回答した人では【そう思う】（75.4%）が7割台半ばと多くなっている。また、「健康だと思わない」と回答した人では【そう思う】（43.4%）が4割強となっている。（図表4-7）

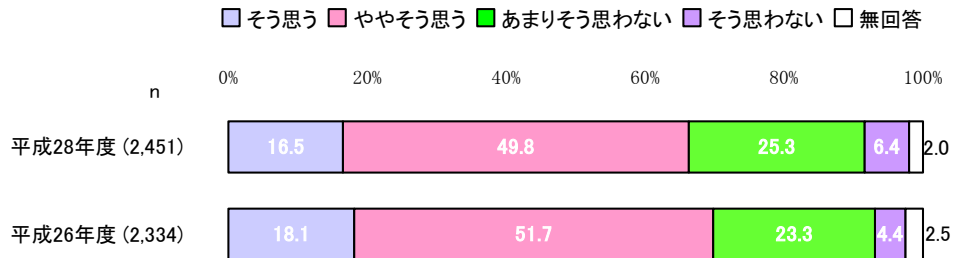
図表4-7 成果を計る指標—健康感別



3 大和市は、安心して医療が受けられる体制が整っていると思う

【そう思う】は66.3%で、前回結果（69.8%）と比較して3.5ポイント減少している。
（図表4-8）

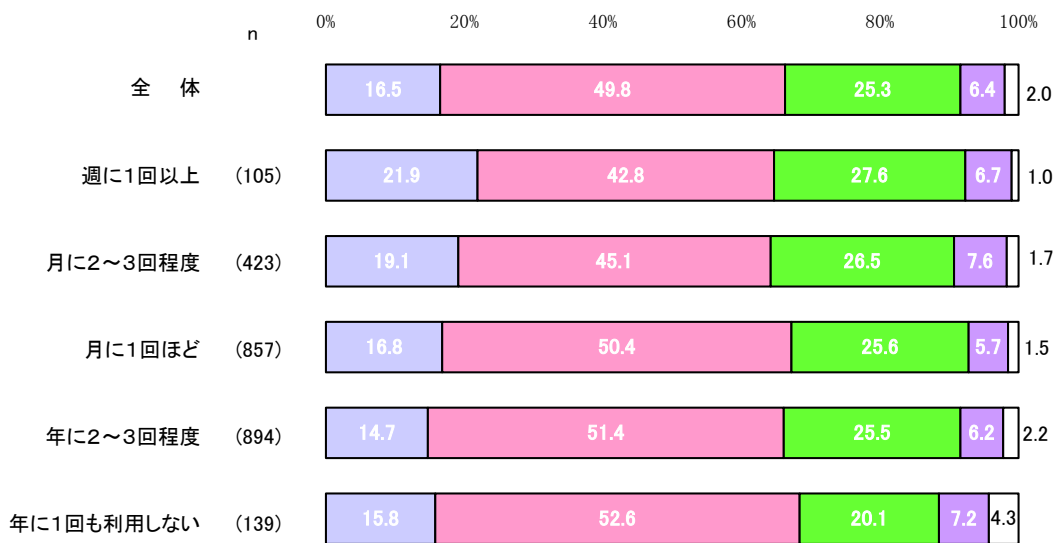
図表4-8 成果を計る指標—経年比較



【医療機関の利用頻度別】

医療機関の利用頻度別では、大きな差異はみられない。（図表4-9）

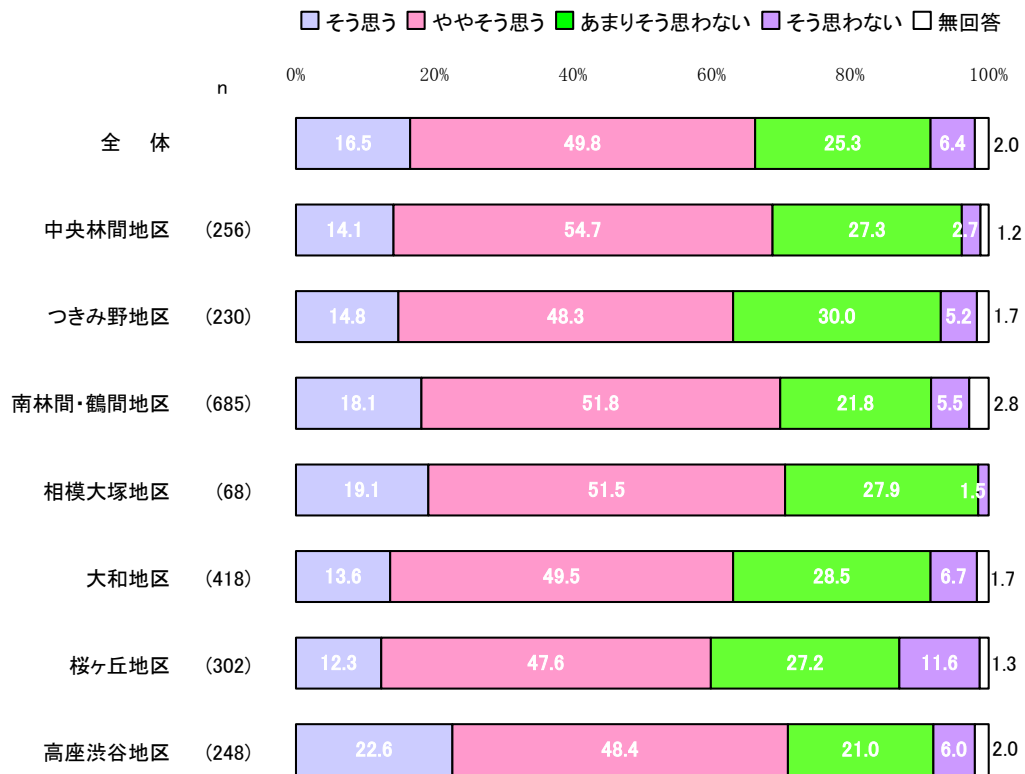
図表4-9 成果を計る指標—医療機関の利用頻度別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、相模大塚地区(70.6%)、高座渋谷地区(71.0%)で7割以上となっている。(図表4-10)

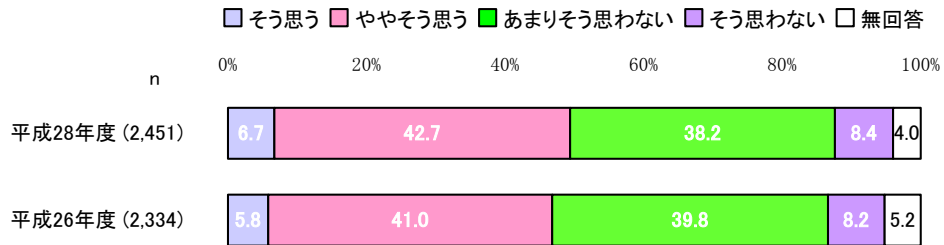
図表4-10 成果を計る指標—居住地域別



4 あなたの地域では、介護を必要とする人が安心して暮らしていると思う

【そう思う】は49.4%で、前回結果（46.8%）と比較して2.6ポイント増加している。
（図表4-11）

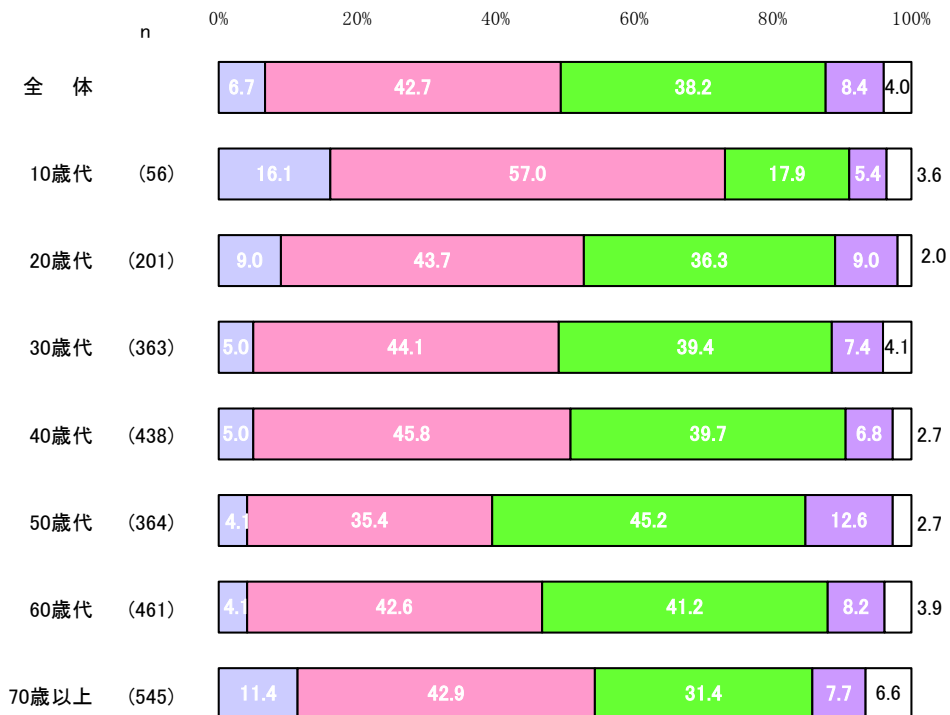
図表4-11 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、【そう思う】と回答した人が、10歳代（73.1%）で多くなっている。また、50歳代（39.5%）で4割弱となっている。（図表4-12）

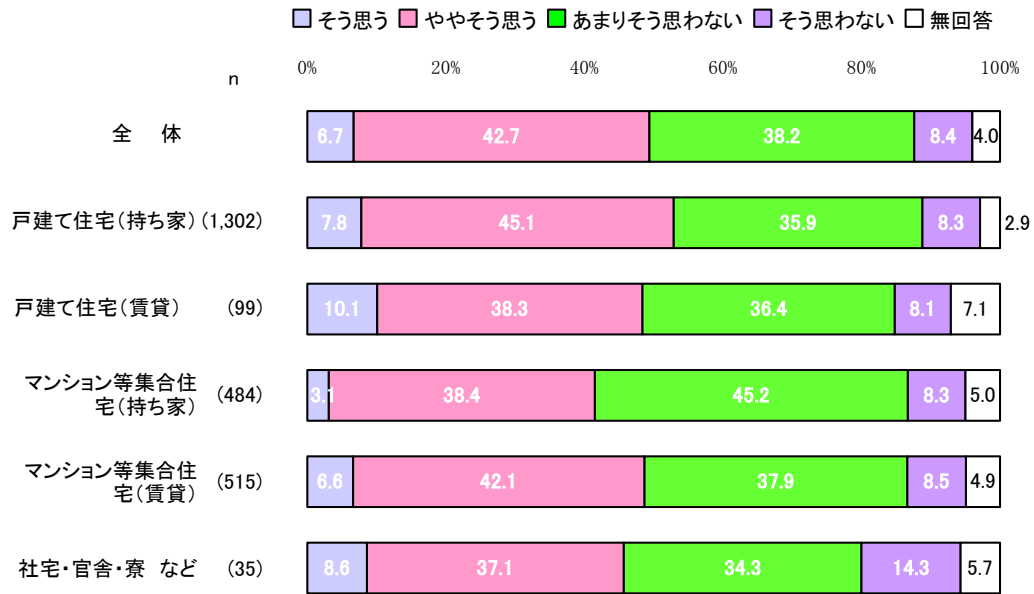
図表4-12 成果を計る指標—年齢別



【居住の形態別】

居住の形態別にみると、【**そう思う**】と回答した人が、戸建て住宅（持ち家）（52.9%）で多くなっている。一方で、マンション等集合住宅（持ち家）（41.5%）では低くなっている。（図表4-13）

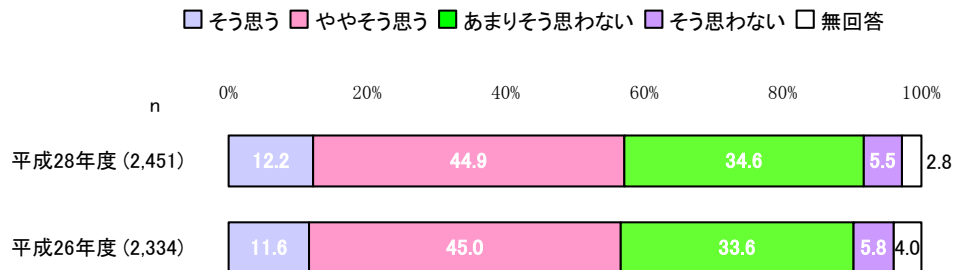
図表4-13 成果を計る指標—居住の形態別



5 あなたの地域では、高齢の方が生き生きと活動していると思う

【そう思う】は57.1%で、前回結果（56.6%）と比較して0.5ポイント増加している。
（図表4-14）

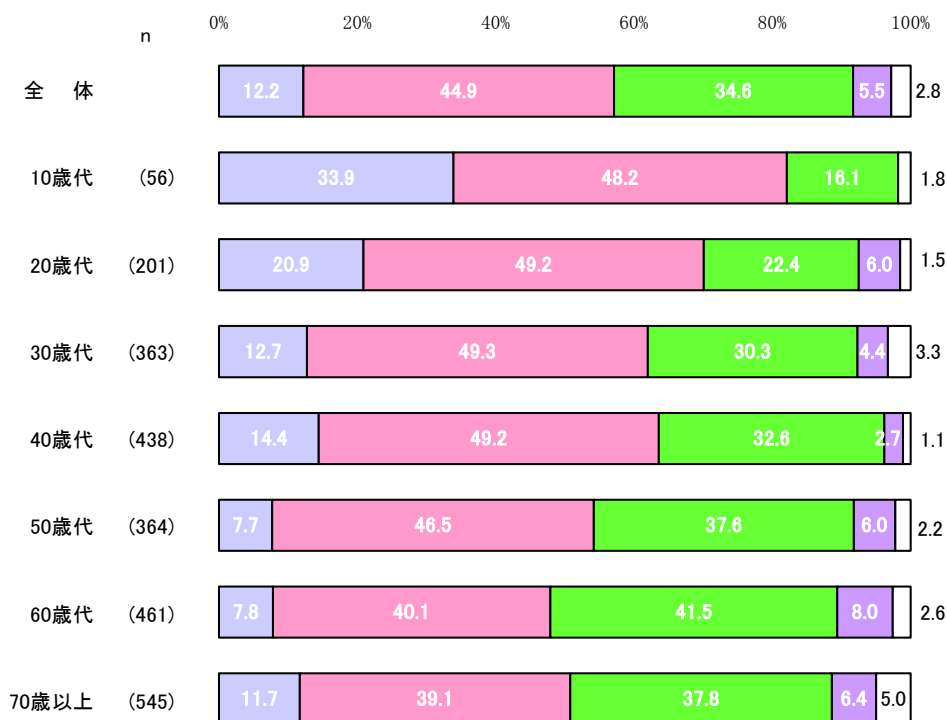
図表4-14 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、年代が下がるにつれて【そう思う】が増加傾向となり、10歳代（82.1%）では8割強となっている。（図表4-15）

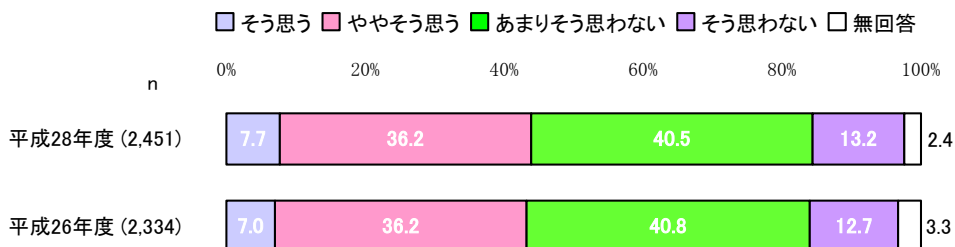
図表4-15 成果を計る指標—年齢別



6 あなたの地域では、支えあう人のつながりがあると思う

【そう思う】は43.9%で、前回結果（43.2%）と比較して0.7ポイント増加している。
（図表4-16）

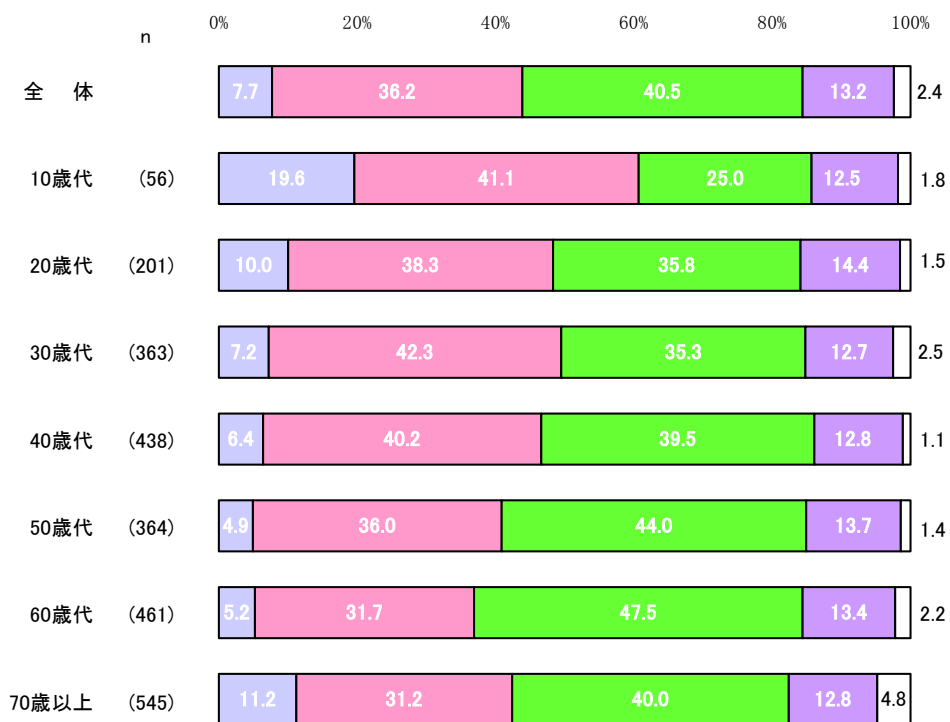
図表4-16 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、【そう思う】と回答した人が、10歳代（60.7%）で多くなっている。また、60歳代（36.9%）で最も低くなっている。（図表4-17）

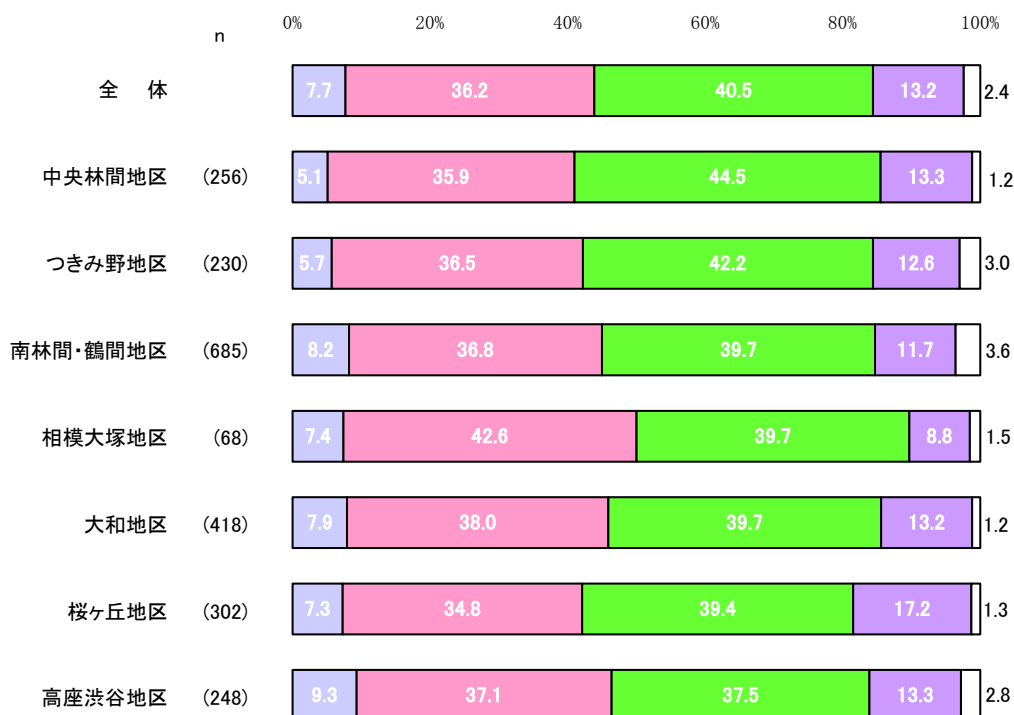
図表4-17 成果を計る指標—年齢別



【居住地域別】

居住地域別では、大きな差異はみられない。(図表4-18)

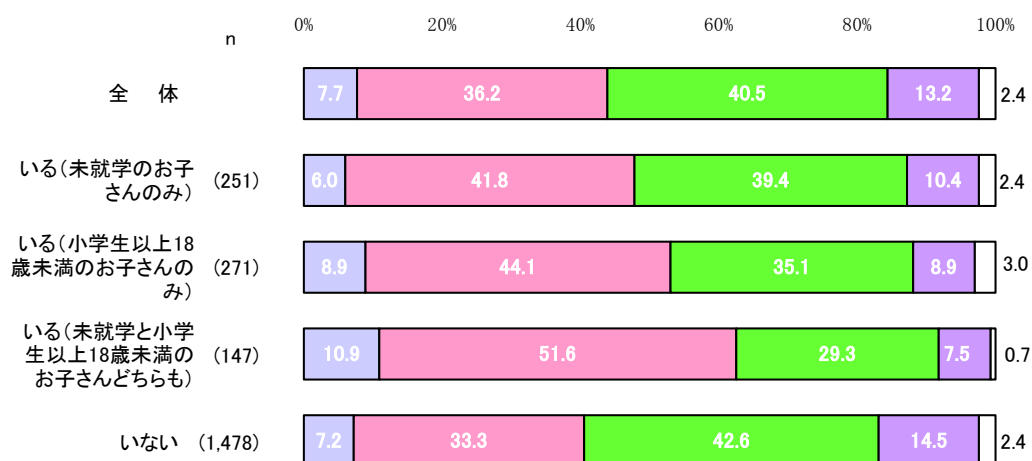
図表4-18 成果を計る指標—居住地域別



【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、「未就学と小学生以上18歳未満のこどもがいる」と回答した人では【そう思う】(62.5%)が6割強と多くなっている。(図表4-19)

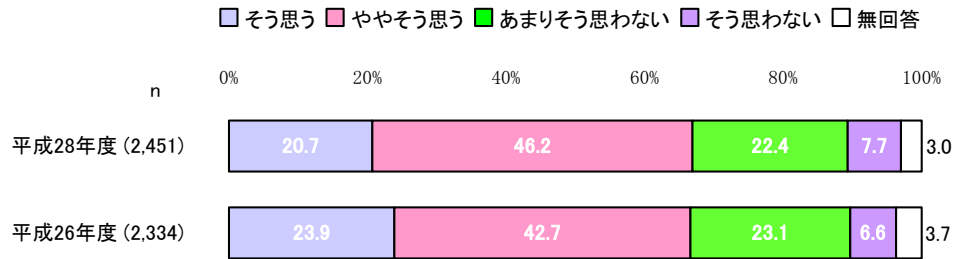
図表4-19 成果を計る指標—こどもの有無別



7 あなたの地域では、差別意識がないと思う

【そう思う】は66.9%で、前回結果（66.6%）と比較して0.3ポイント増加している。
（図表4-20）

図表4-20 成果を計る指標—経年比較

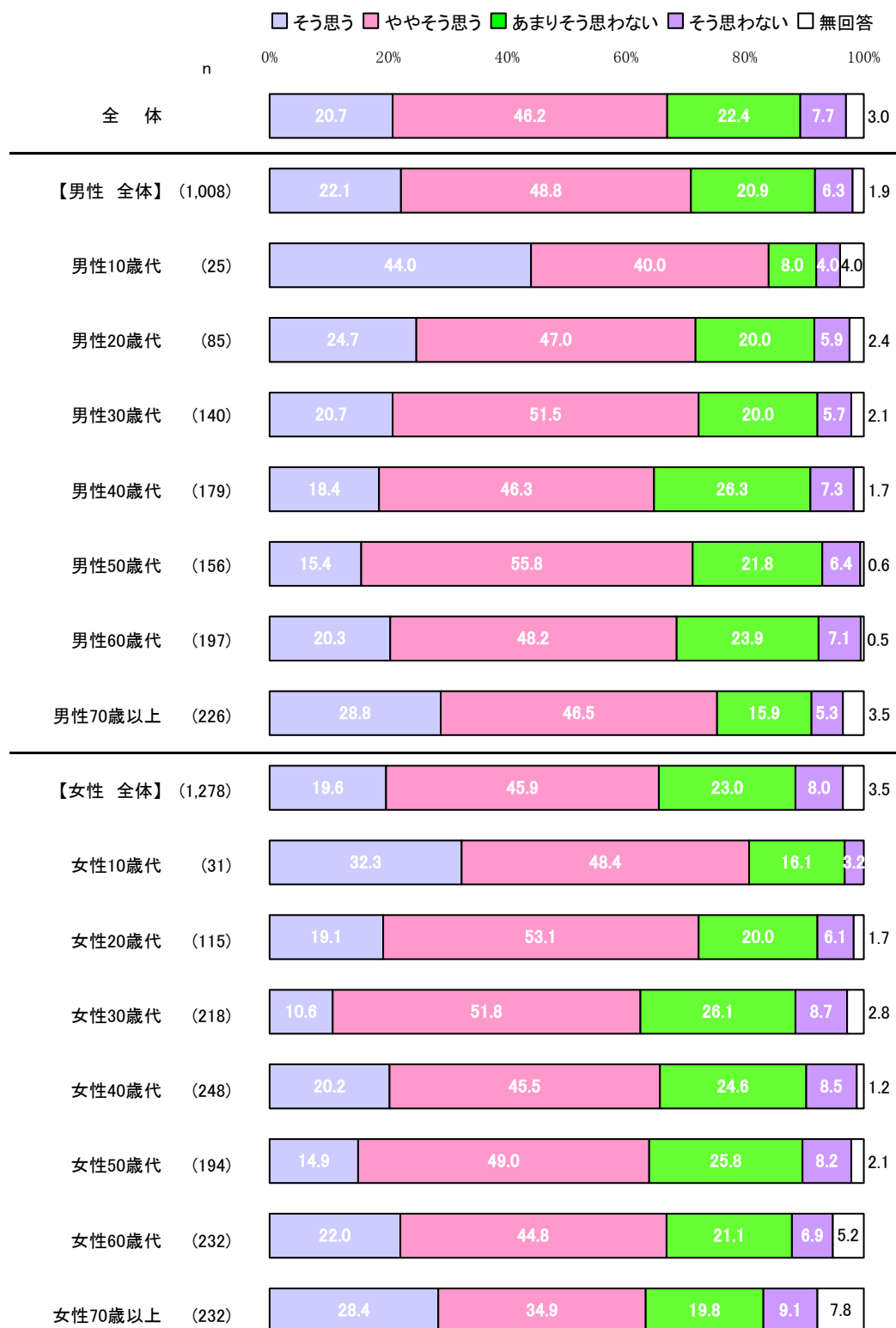


【性別・年齢別】

性別にみると、男性の【そう思う】(70.9%)は女性の【そう思う】(65.5%)よりも5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女ともに10歳代で【そう思う】が高くなっている。(図表4-21)

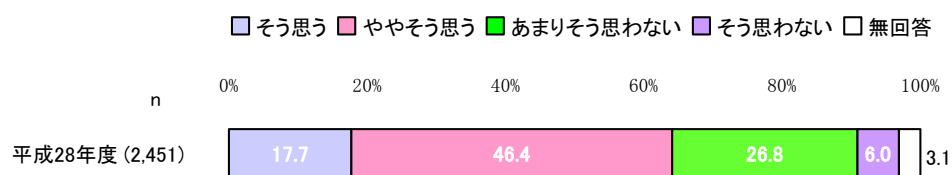
図表4-21 成果を計る指標—性別



8 あなたのまわりでは、男女が対等な立場で活躍していると思う

【そう思う】は64.1%となっている。(図表4-22)

図表4-22 成果を計る指標—経年比較

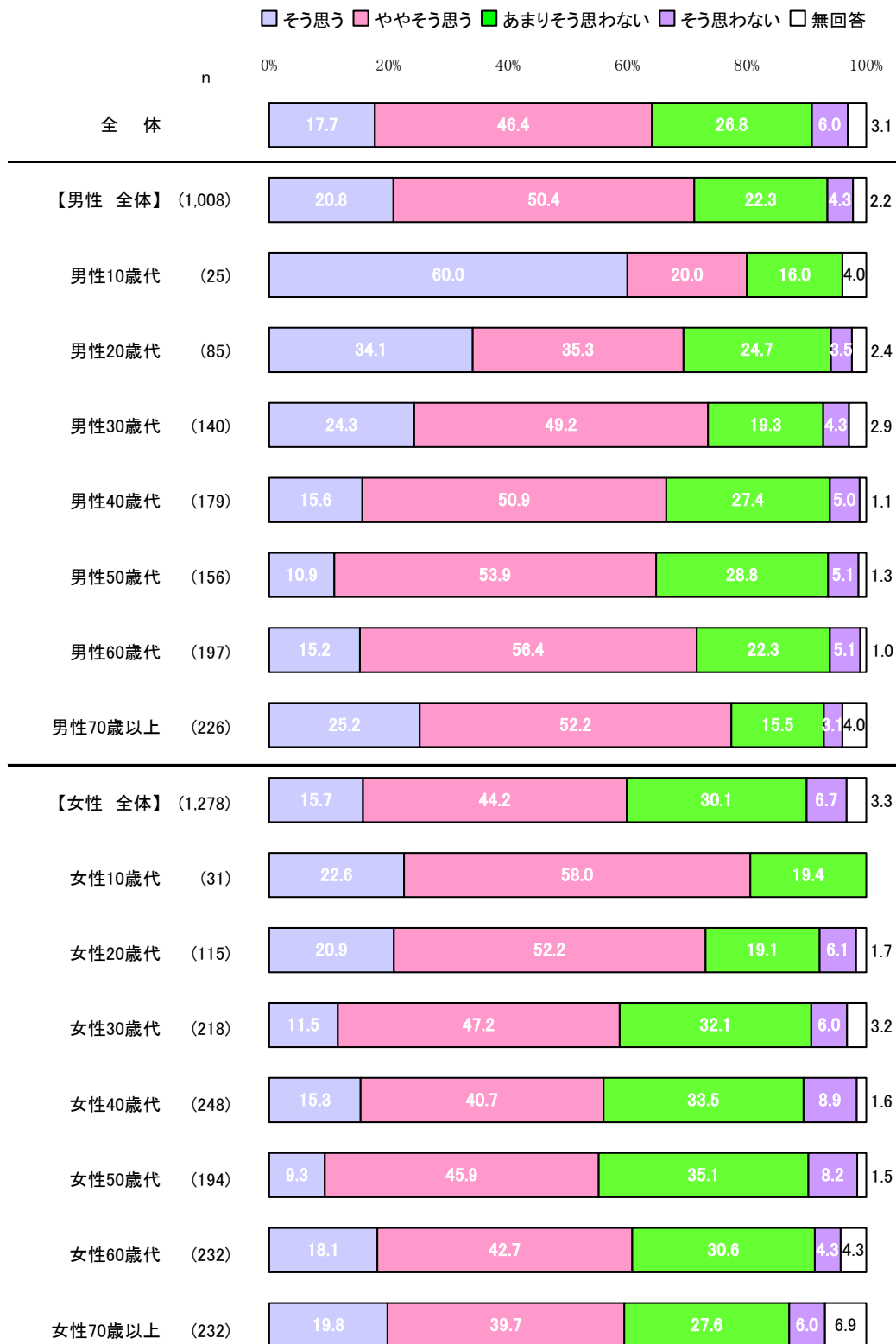


【性別・年齢別】

性別にみると、男性の【そう思う】(71.2%)は女性の【そう思う】(59.9%)よりも11.3ポイント高くなっている。(図表4-23)

年齢別にみると、男女ともに10歳代で【そう思う】が8割以上と高くなっている。(図表4-23)

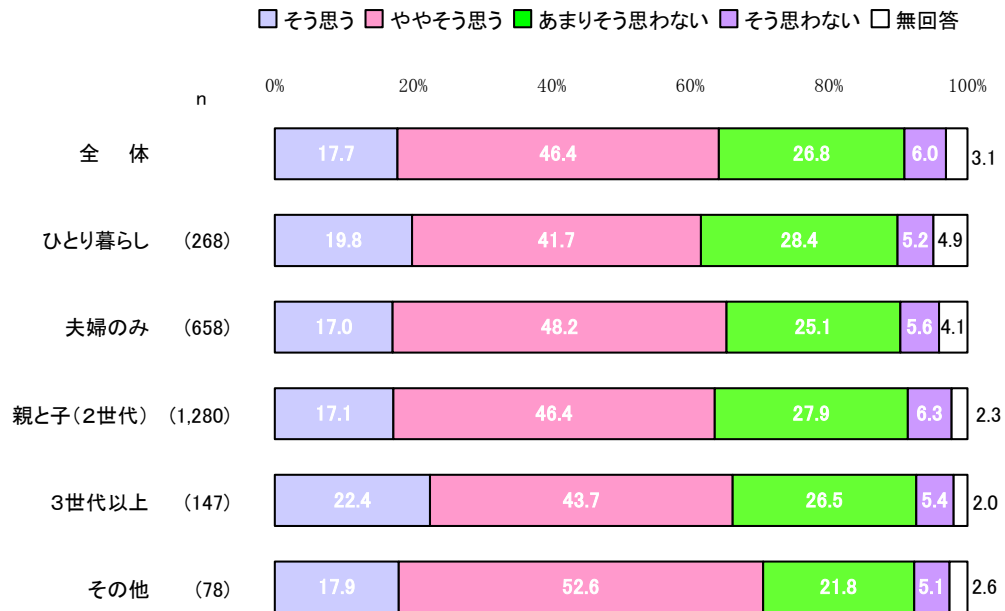
図表4-23 成果を計る指標—性別・年齢別



【家族構成別】

家族構成別では、大きな差異はみられない。(図表4-24)

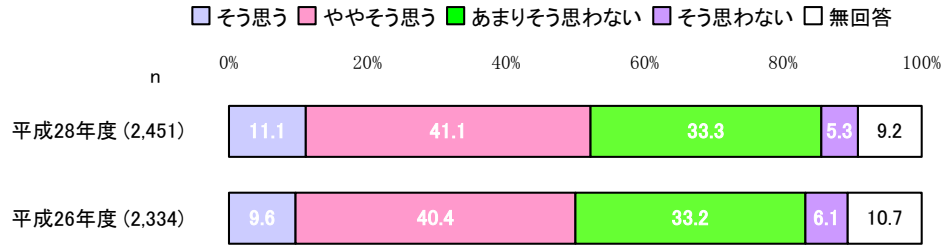
図表4-24 成果を計る指標—家族構成別



9 大和市では、子育てに関する不安を相談できる場があると思う

【そう思う】は52.2%で、前回結果（50.0%）と比較して2.2ポイント増加している。
（図表4-25）

図表4-25 成果を計る指標—経年比較

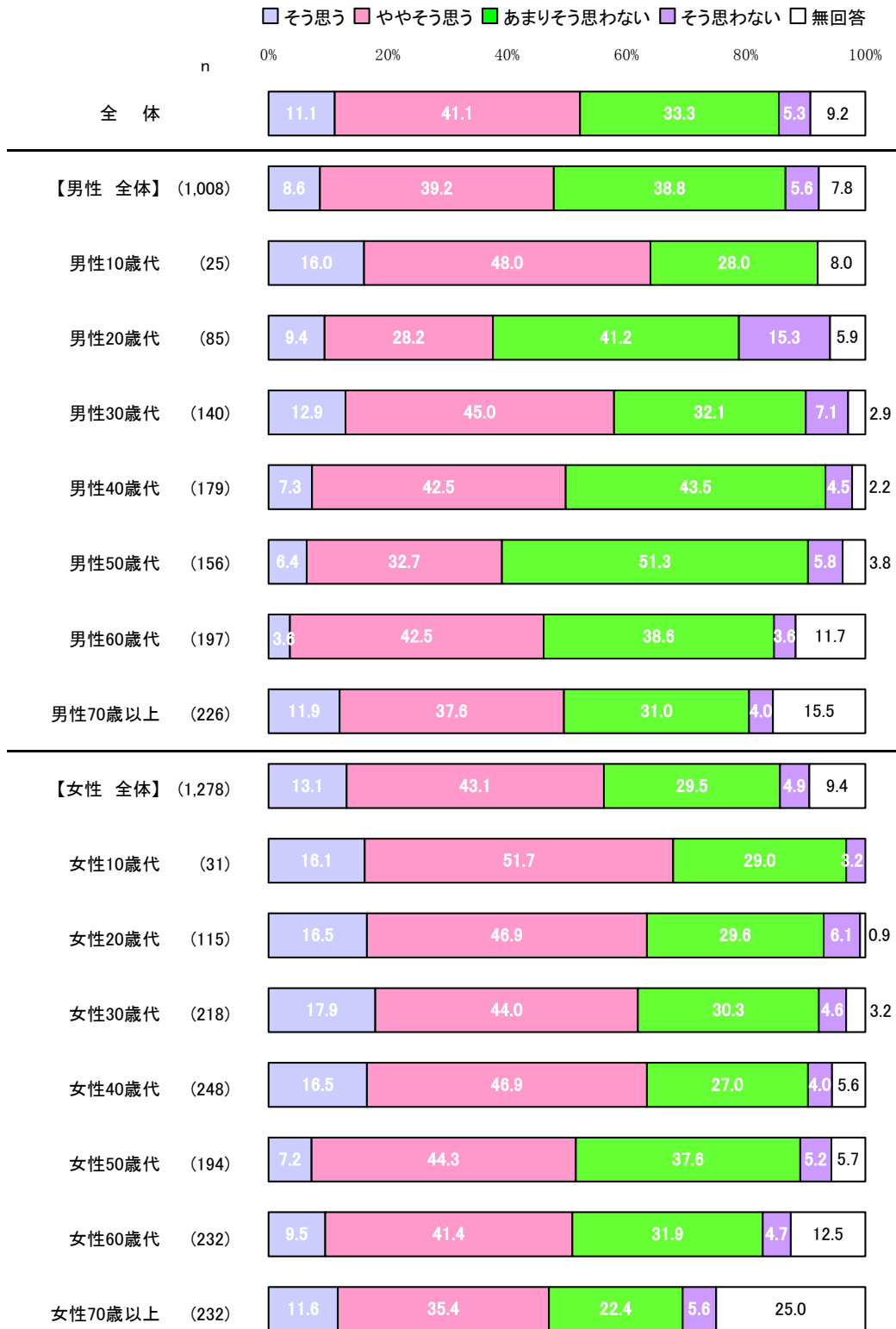


【性別・年齢別】

性別にみると、女性の【そう思う】(56.2%)は男性の【そう思う】(47.8%)よりも8.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男性では20歳代で【そう思う】が37.6%と低くなっている。また、女性では年代が下がるにつれて【そう思う】が増加傾向となり、10歳代では67.8%となっている。(図表4-26)

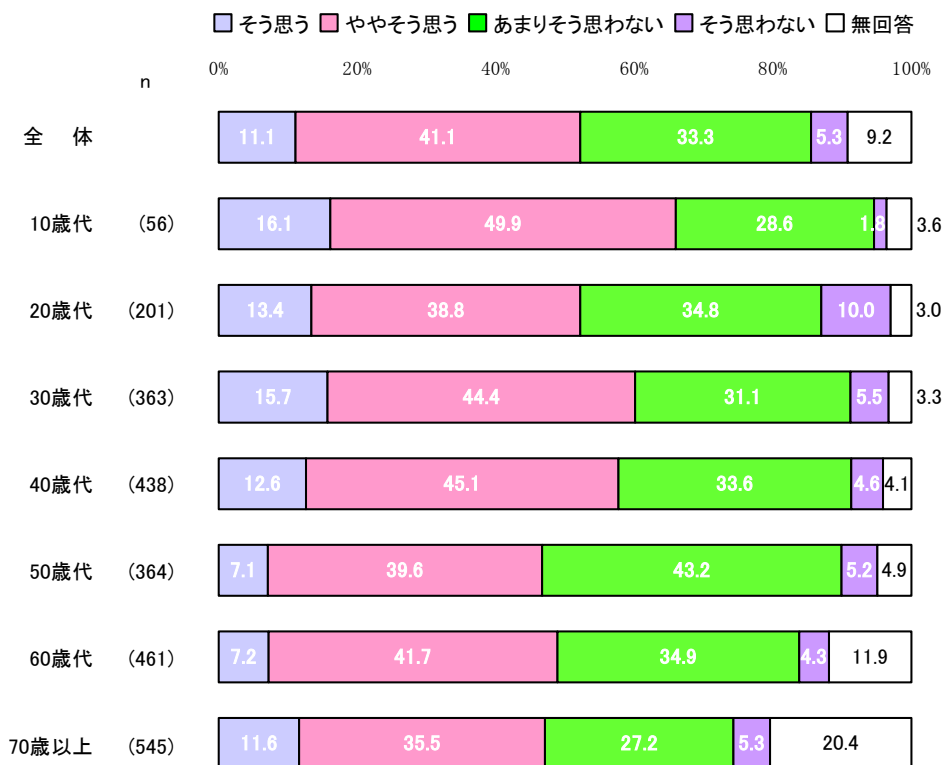
図表 4-26 成果を計る指標—性別・年齢別



【年齢別】

年齢別にみると、年代が下がるにつれて【そう思う】が増加傾向となり、10歳代では66.0%となっている。(図表4-27)

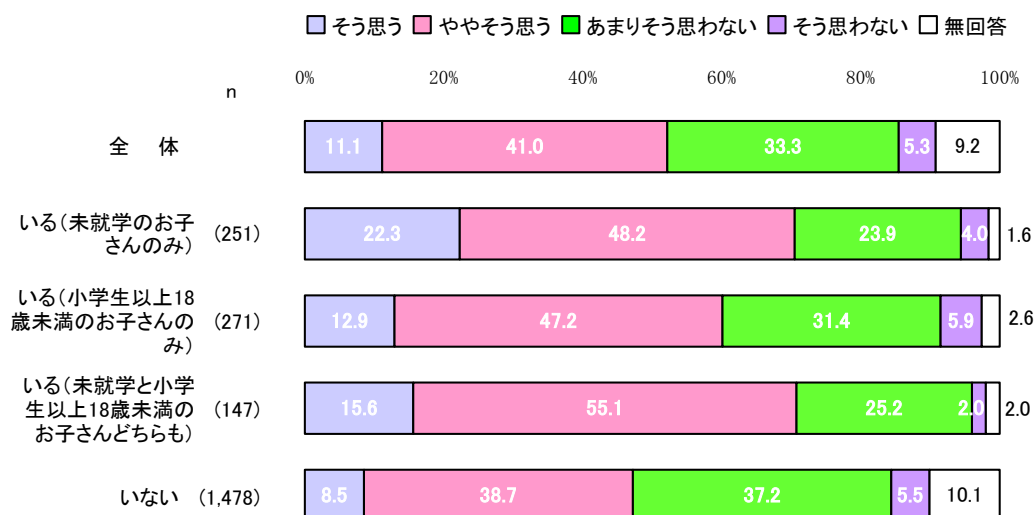
図表4-27 成果を計る指標—年齢別



【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、「未就学のこどもがいる」「未就学と小学生以上 18 歳未満のこどもがいる」と回答した人では【**そう思う**】が7割以上となっている。(図表 4-28)

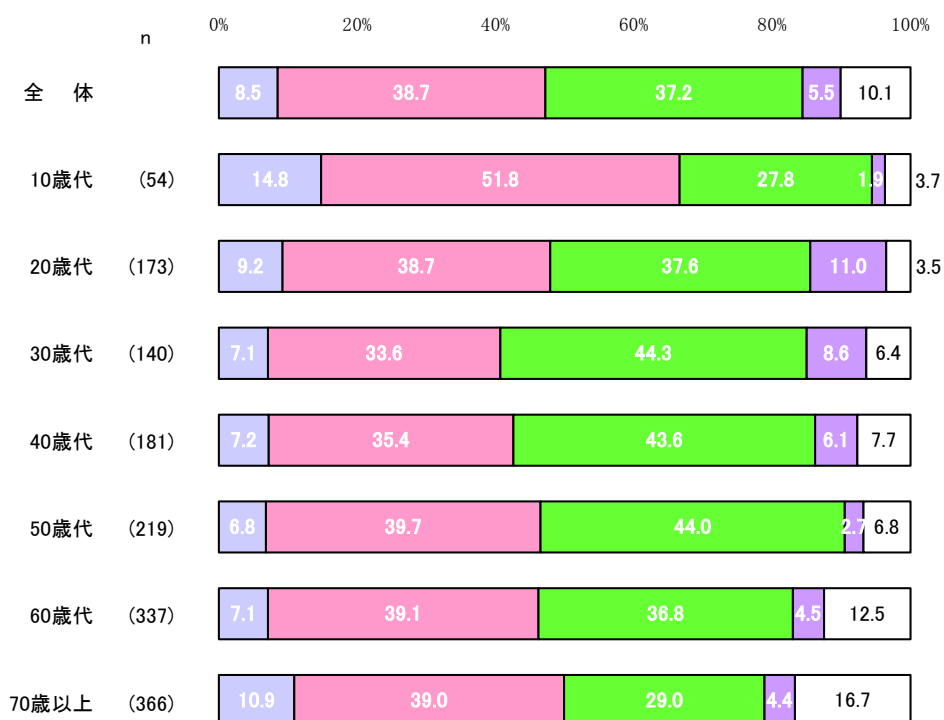
図表 4-28 成果を計る指標—こどもの有無別



【年齢別（こどものいない人）】

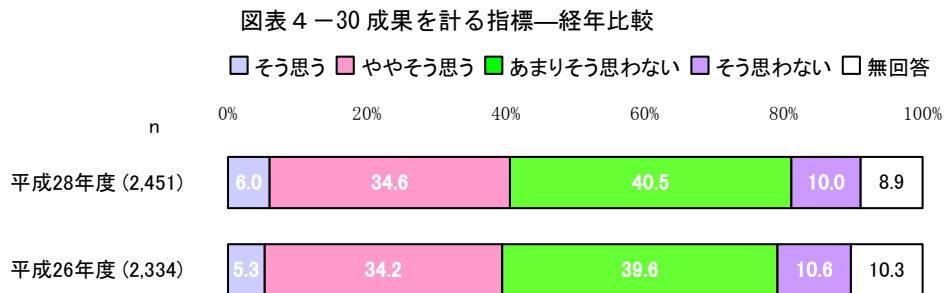
こどものいない人を年齢別にみると、【**そう思う**】と回答した人が、10 歳代（66.6%）で多くなっている。一方で、30 歳代では【**そう思わない**】（52.9%）と回答した人が5割強と多くなっている。(図表 4-29)

図表 4-29 成果を計る指標—年齢別（こどものいない人）



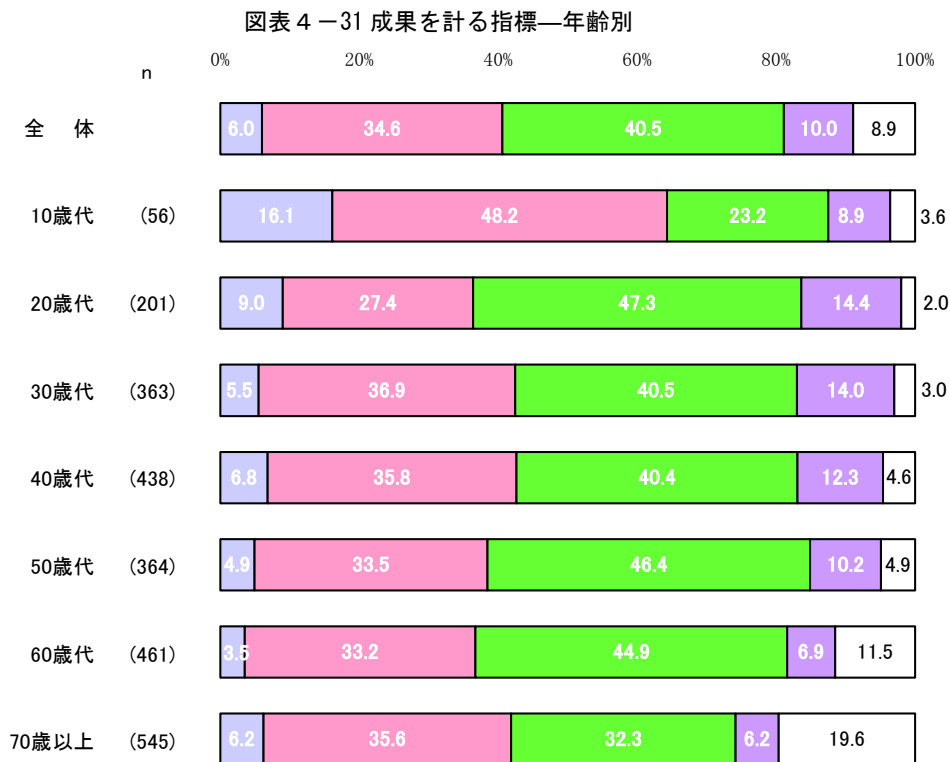
10 大和市では、経済的に不安なく子育てができていると思う

【そう思う】は40.6%で、前回結果（39.5%）と比較して1.1ポイント増加している。
（図表4-30）



【年齢別】

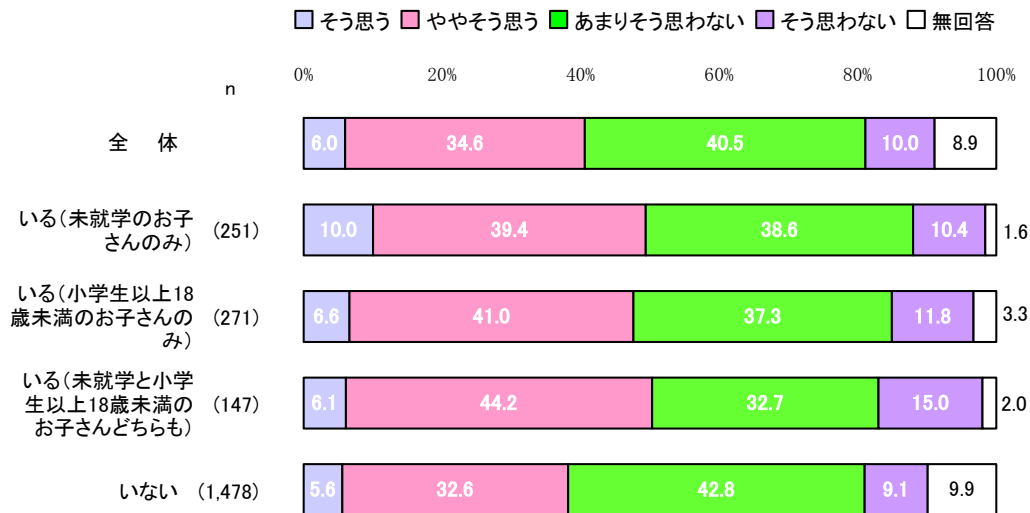
年齢別にみると、10歳代で【そう思う】（64.3%）が6割台半ばと、他の年代と比較して多くなっている。（図表4-31）



【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、【こどもがいる】と回答した人は、「こどもがいない」と回答した人と比べて【そう思う】が多くなっている。(図表4-32)

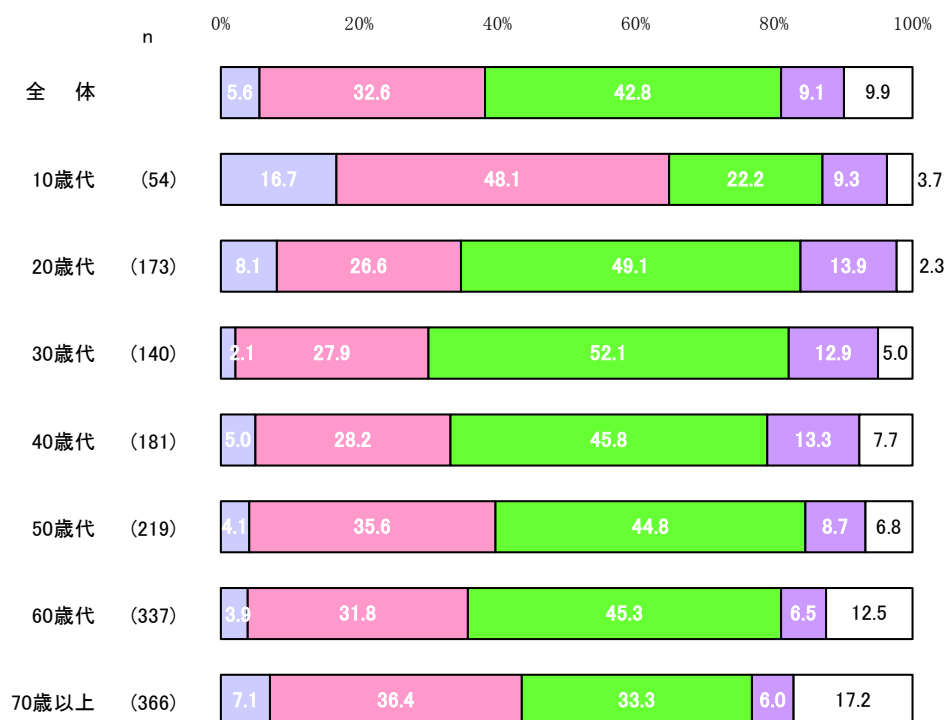
図表4-32 成果を計る指標—こどもの有無別



【年齢別（こどものいない人）】

こどものいない人の年齢別にみると、【そう思う】と回答した人が、10歳代（64.8%）で多くなっている。一方で、【そう思わない】と回答した人が、20歳代（63.0%）、30歳代（65.0%）で6割以上となっている。(図表4-33)

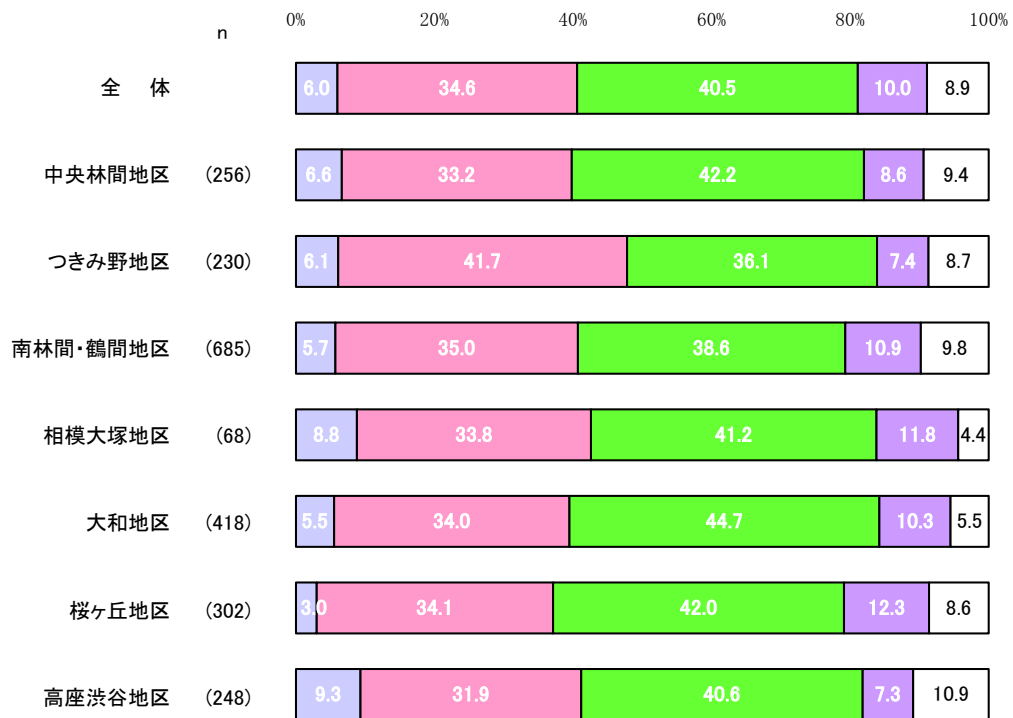
図表4-33 成果を計る指標—年齢別（こどものいない人）



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、つきみ野地区(47.8%)で5割近くと多くなっている。(図表4-34)

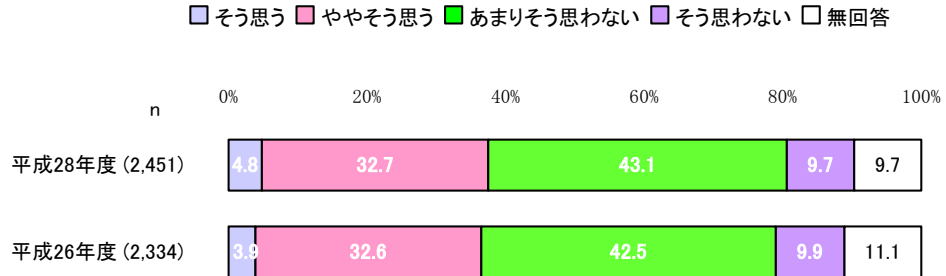
図表4-34 成果を計る指標—居住地域別



11 大和市では、こどもの個性や能力にあった教育が行われていると思う

【そう思う】は37.5%で、前回結果（36.5%）と比較して1.0ポイント増加している。
（図表4-35）

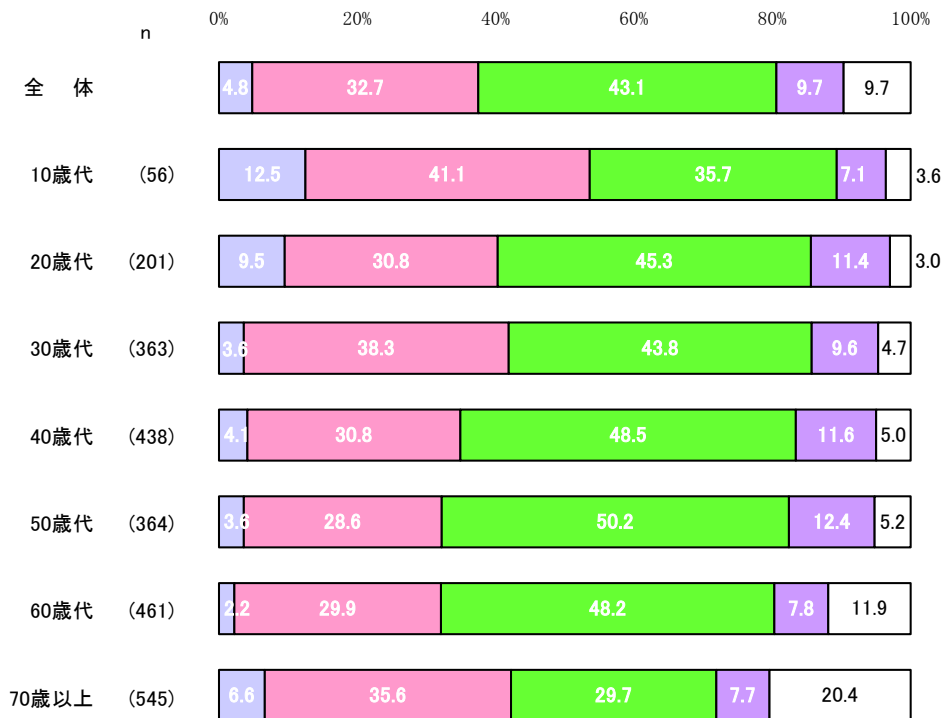
図表4-35 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代で【そう思う】（53.6%）が5割強と他の年代と比較して多くなっている。（図表4-36）

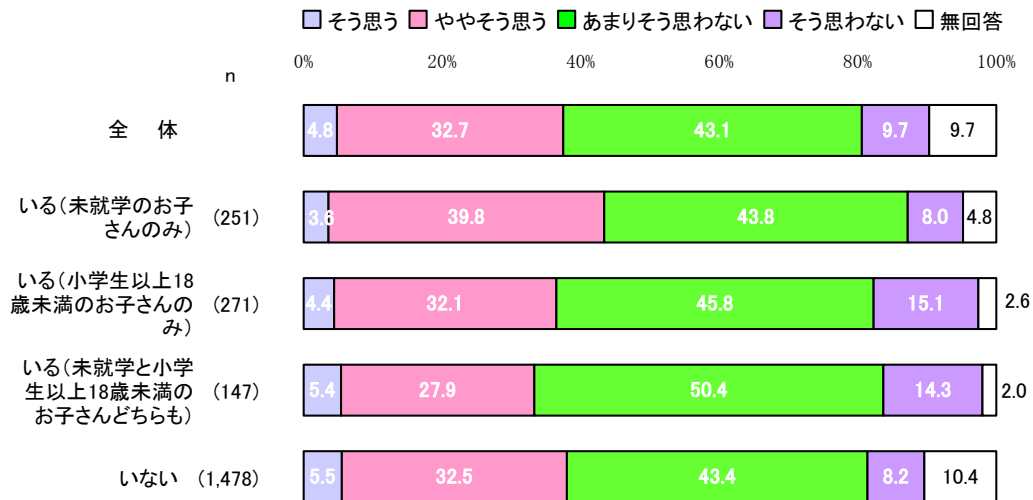
図表4-36 成果を計る指標—年齢別



【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、「未就学のこどもがいる」と回答した人で【そう思う】(43.4%)が4割強と多くなっている。(図表4-37)

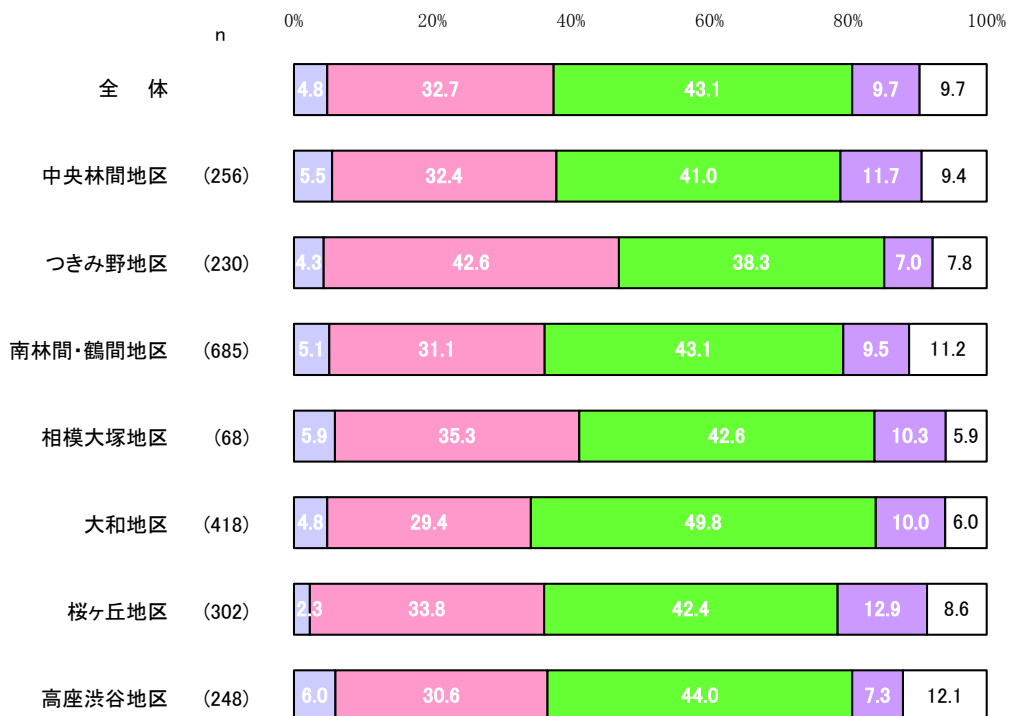
図表4-37 成果を計る指標—こどもの有無別



【居住地域別】

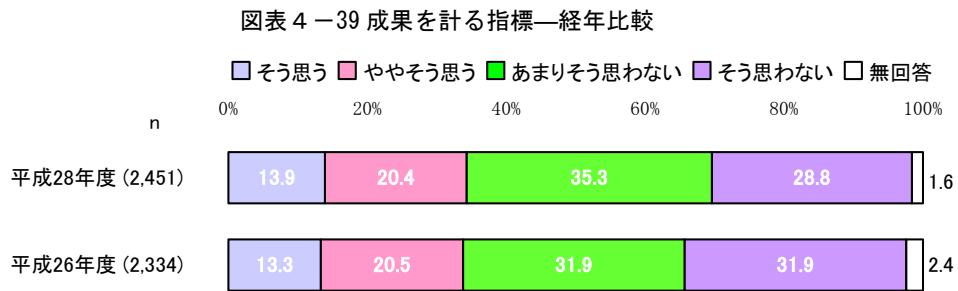
居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、つきみ野地区(46.9%)で5割近くと多くなっている。(図表4-38)

図表4-38 成果を計る指標—居住地域別



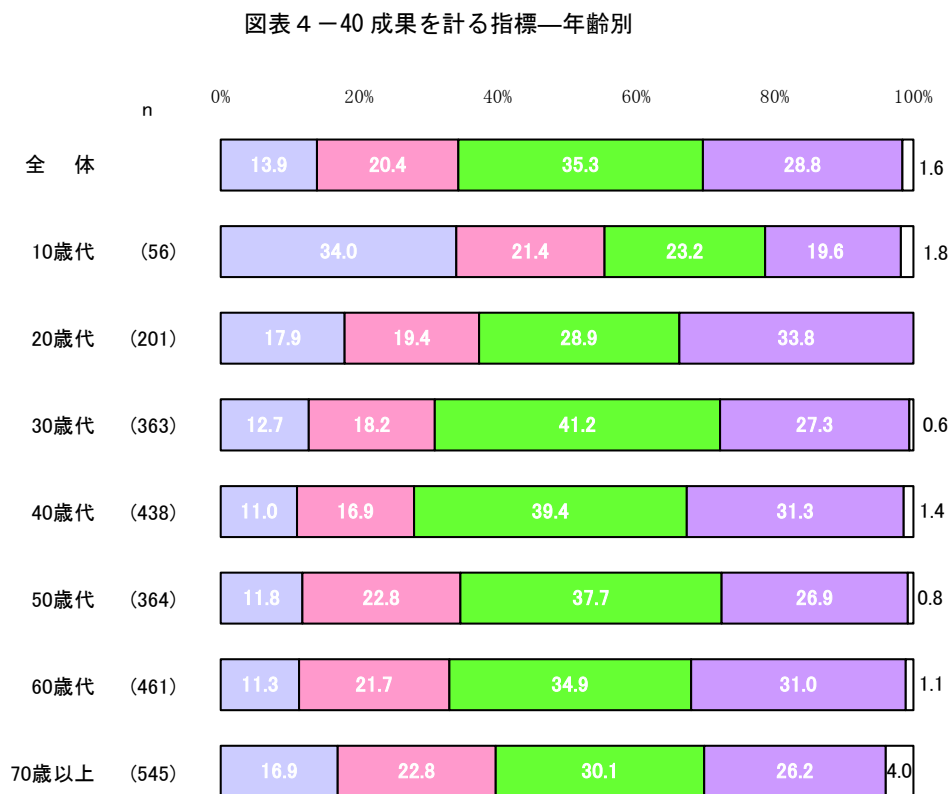
12 あなたは、日常的にスポーツを楽しんでいると思う

【そう思う】は34.3%で、前回結果（33.8%）と比較して0.5ポイント増加している。
（図表4-39）



【年齢別】

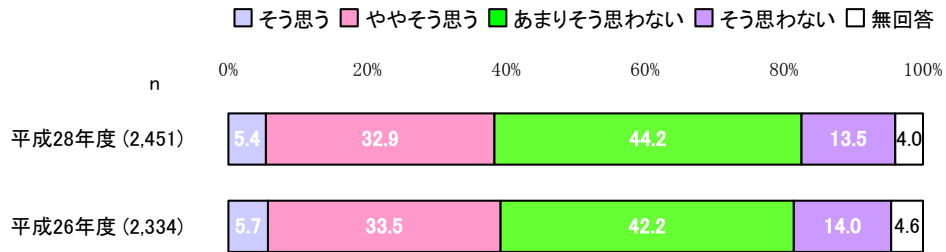
年齢別にみると、10歳代で【そう思う】（55.4%）が5割台半ば、70歳以上（39.7%）で4割弱と他の年代と比較して多くなっている。（図表4-40）



13 大和の歴史や文化は、しっかり継承されていると思う

【そう思う】は38.3%で、前回結果（39.2%）と比較して0.9ポイント減少している。
（図表4-41）

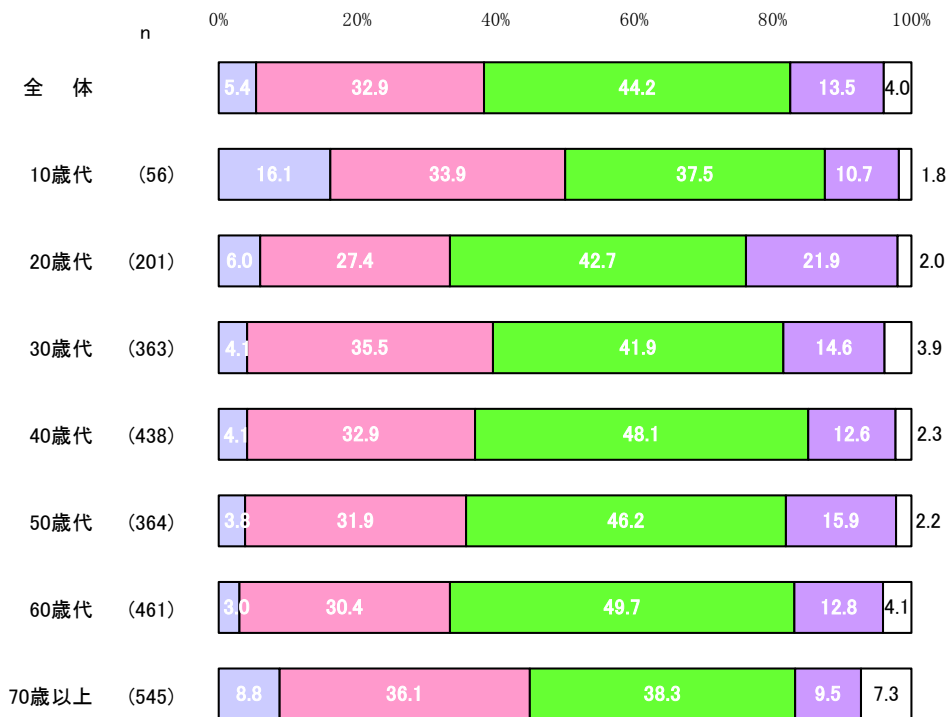
図表4-41 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代で【そう思う】（50.0%）が5割、70歳以上（44.9%）で4割台半ばと他の年代と比較して多くなっている。（図表4-42）

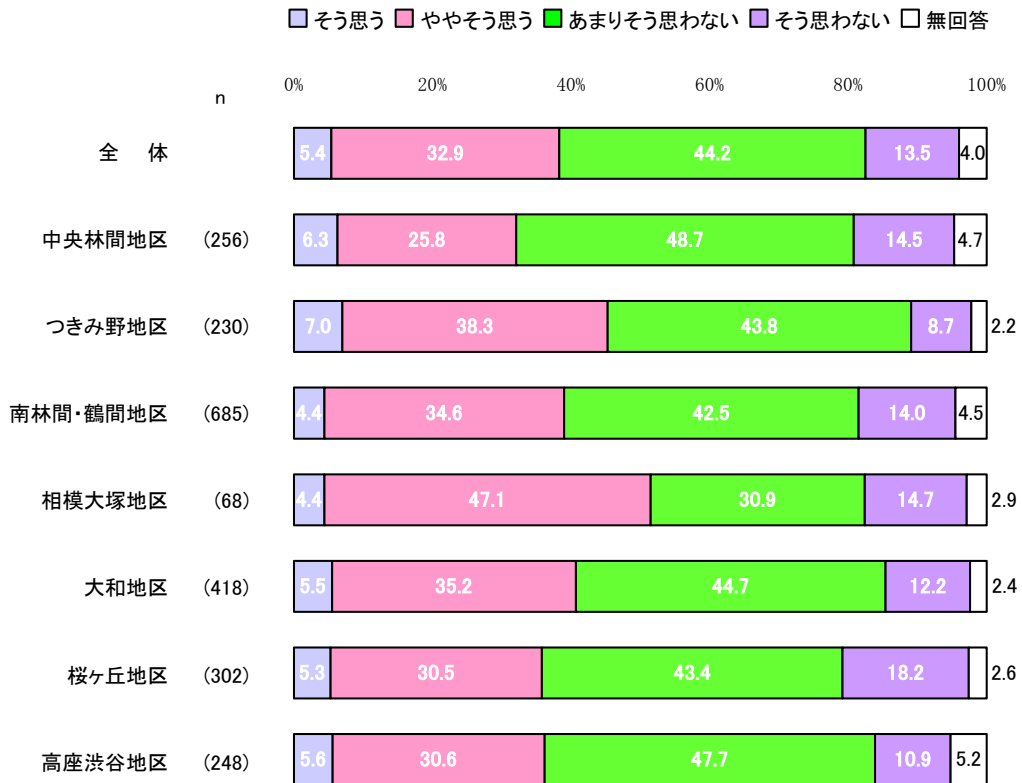
図表4-42 成果を計る指標—年齢別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、相模大塚地区(51.5%)で5割強と多くなっている。(図表4-43)

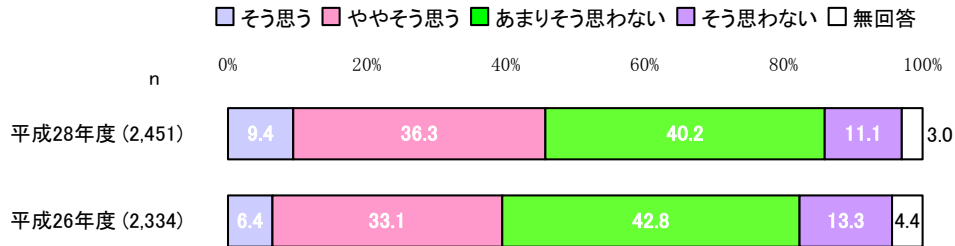
図表4-43 成果を計る指標—居住地域別



14 大和市では、文化や芸術活動が盛んに行われていると思う

【そう思う】は45.7%で、前回結果（39.5%）と比較して6.2ポイント増加している。
（図表4-44）

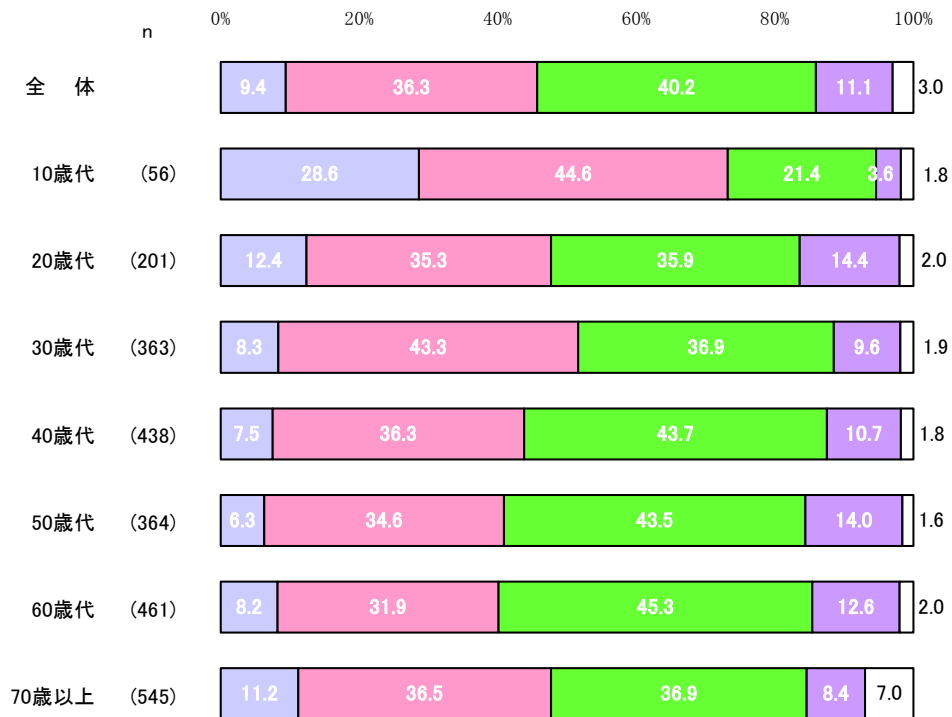
図表4-44 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代で【そう思う】（73.2%）が7割強と他の年代と比較して多くなっている。（図表4-45）

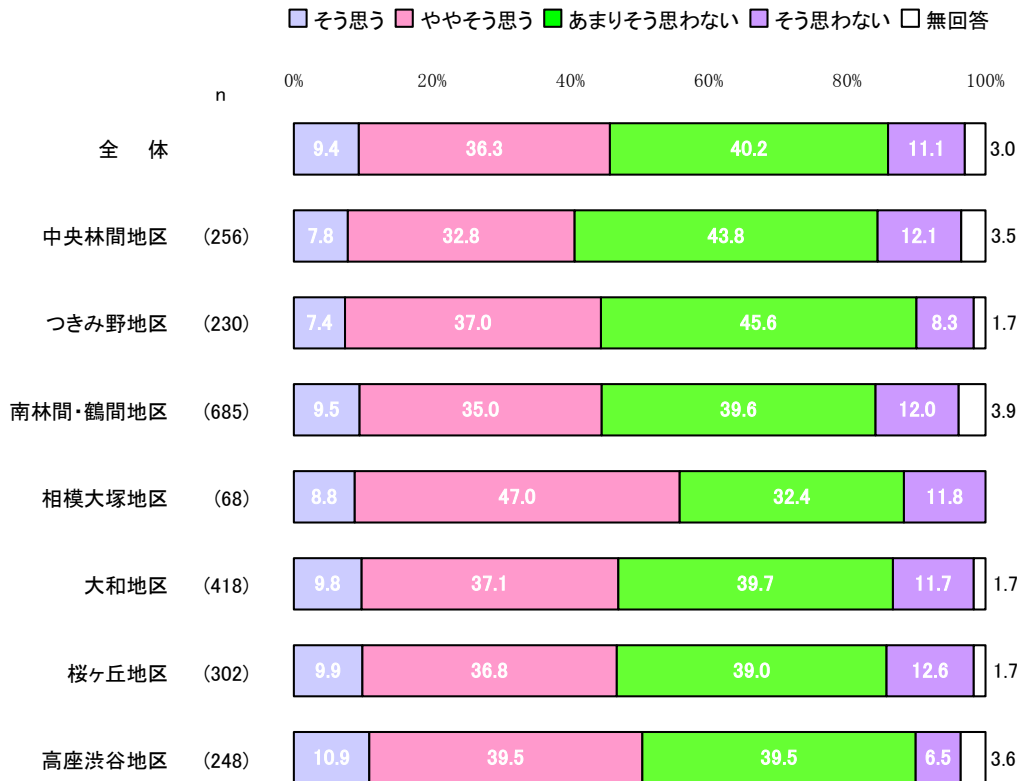
図表4-45 成果を計る指標—年齢別



【居住地域別】

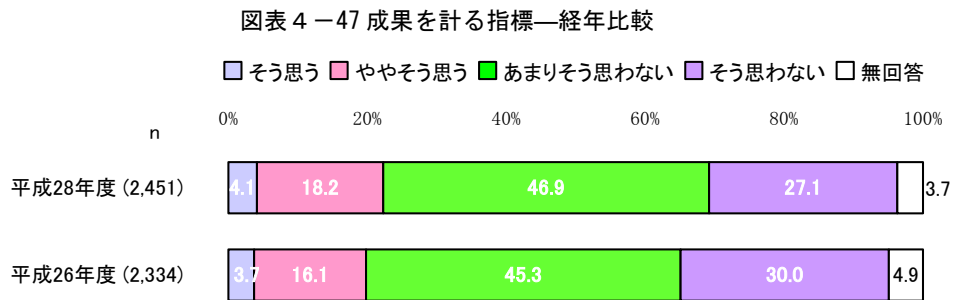
居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、相模大塚地区(55.8%)、高座渋谷地区(50.4%)で5割以上となっている。(図表4-46)

図表4-46 成果を計る指標—居住地域別



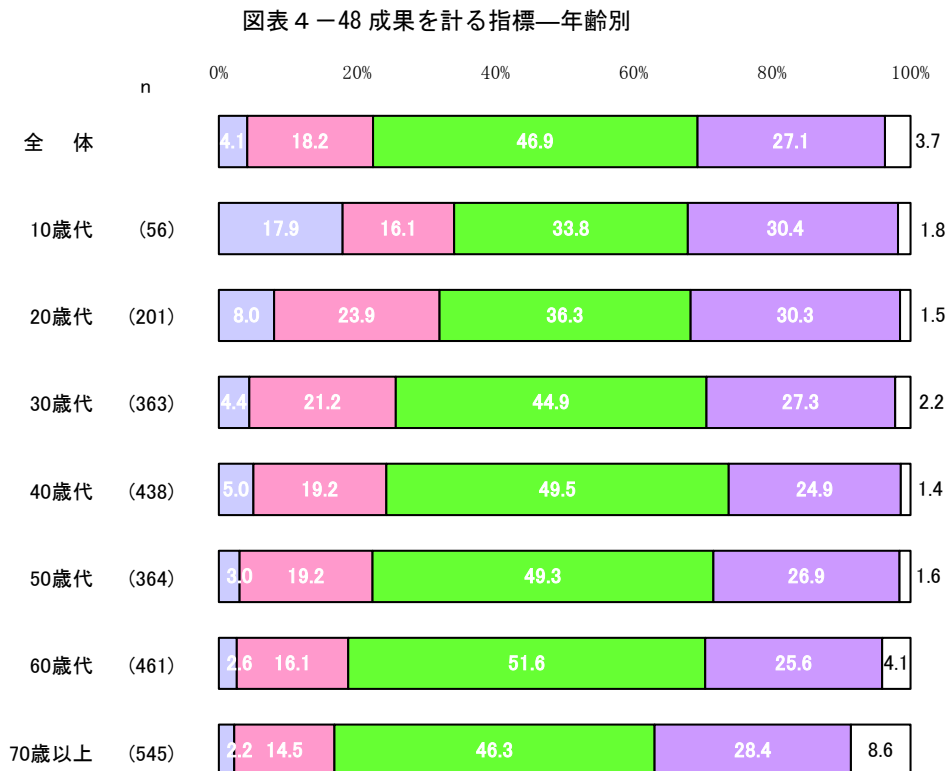
15 あなたのまわりでは、国際交流が行われていると思う

【そう思う】は22.3%で、前回結果（19.8%）と比較して2.5ポイント増加している。
（図表4-47）



【年齢別】

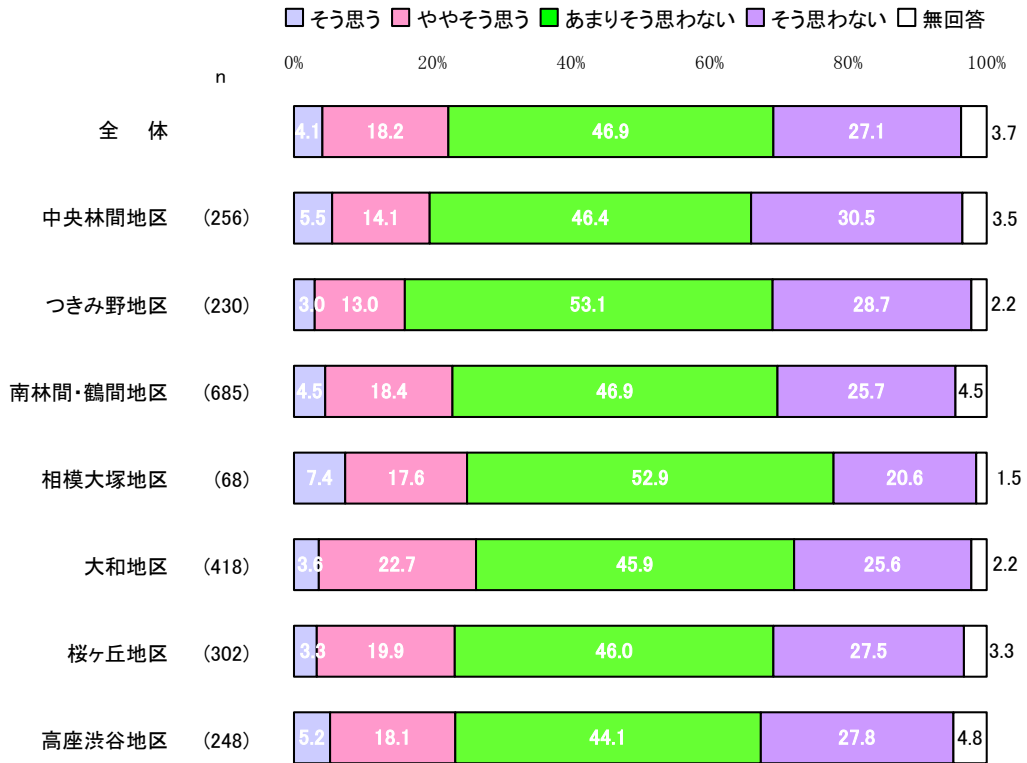
年齢別にみると、年代が下がるにつれて【そう思う】が増加しており、10歳代では34.0%となっている。（図表4-48）



【居住地域別】

居住地域別では、大きな差異はみられない。(図表4-49)

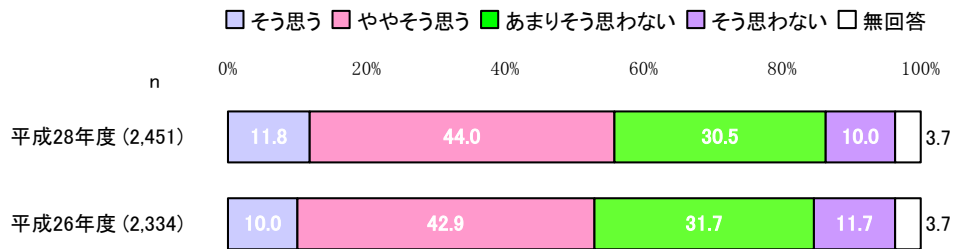
図表4-49 成果を計る指標—居住地域別



16 以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う

【そう思う】は55.8%で、前回結果（52.9%）と比較して2.9ポイント増加している。
（図表4-50）

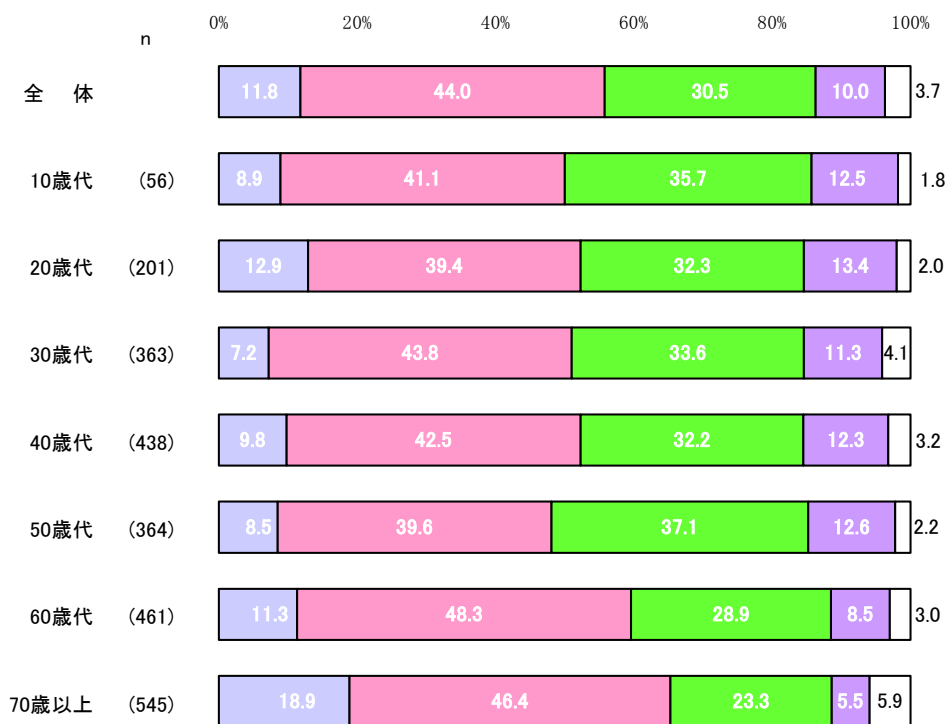
図表4-50 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、年代が上がるにつれて【そう思う】が増加傾向となり、70歳以上では65.3%となっている。（図表4-51）

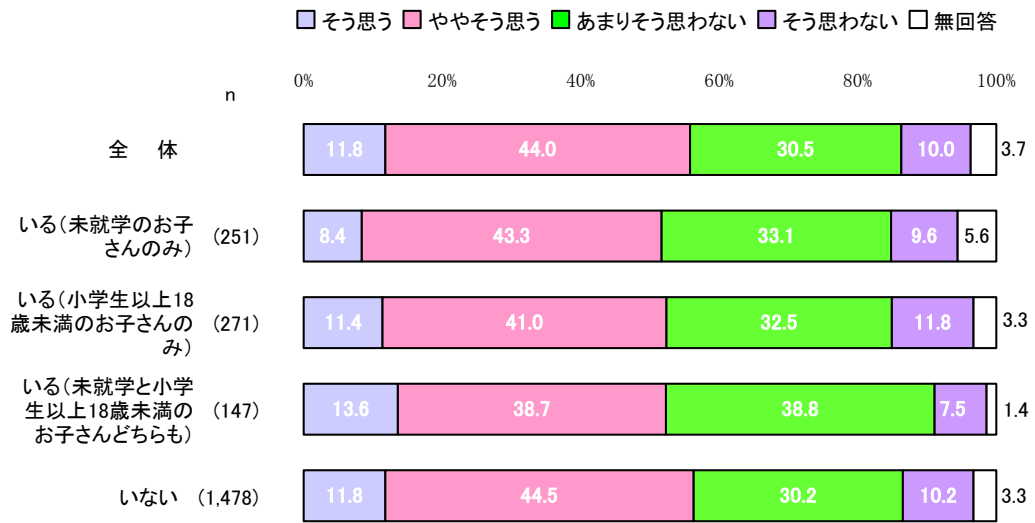
図表4-51 成果を計る指標—年齢別



【こどもの有無別】

こどもの有無別では、大きな差異はみられない。(図表 4-52)

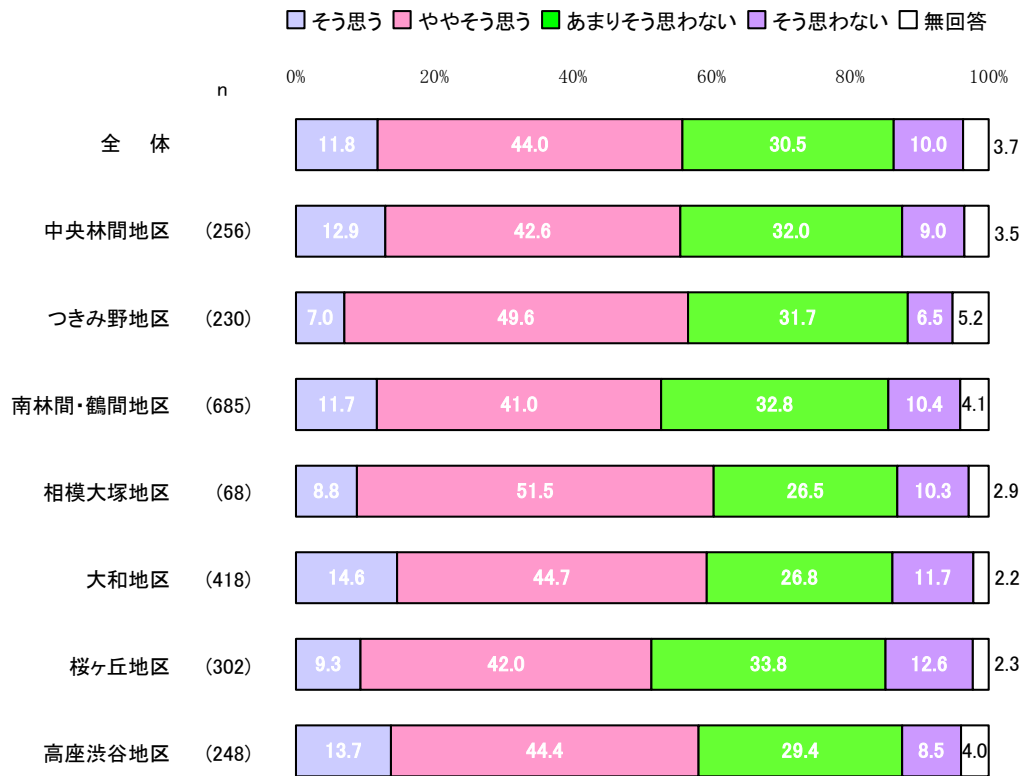
図表 4-52 成果を計る指標—こどもの有無別



【居住地域別】

居住地域別では、大きな差異はみられない。(図表4-53)

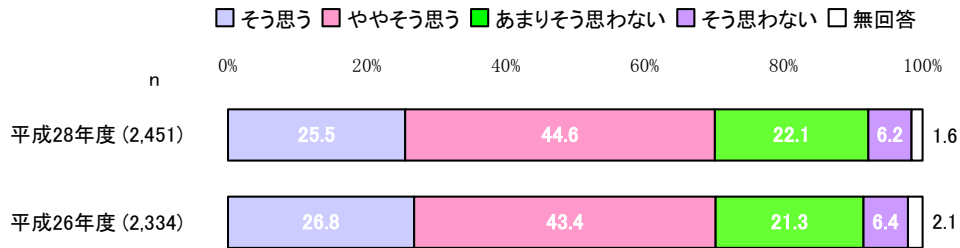
図表4-53 成果を計る指標—居住地域別



17 あなたの地域では、広域避難場所が知られていると思う

【そう思う】は70.1%で、前回結果（70.2%）と比較して0.1ポイント減少している。
（図表4-54）

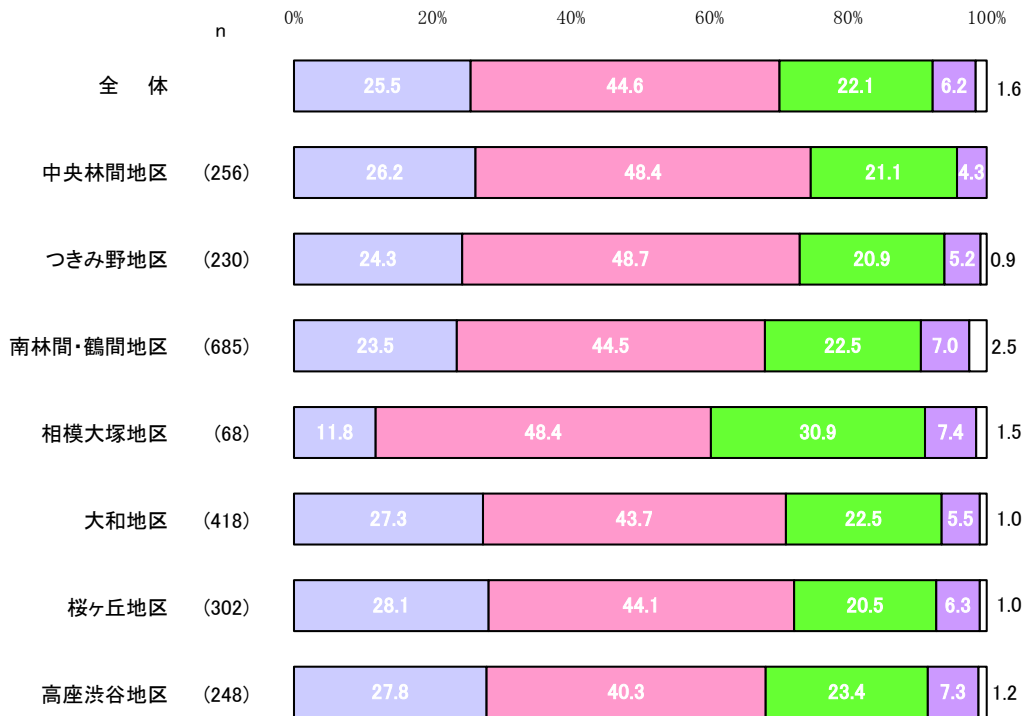
図表4-54 成果を計る指標—経年比較



【居住地域別】

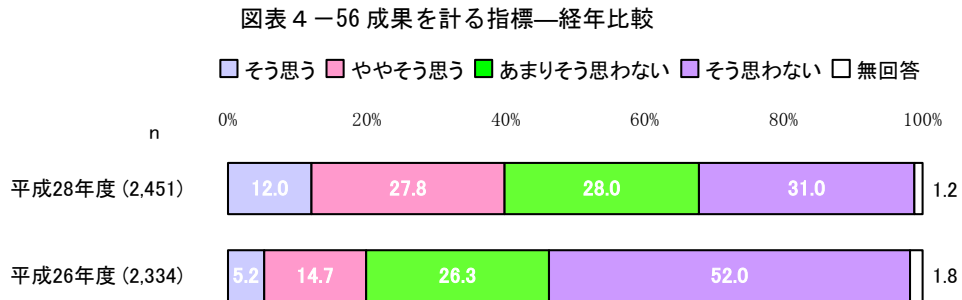
居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、中央林間地区(74.6%)、つきみ野地区(73.0%)、大和地区(71.0%)、桜ヶ丘地区(72.2%)で7割以上となっている。一方で、相模大塚地区(60.2%)は他の地域と比べ低くなっている。（図表4-55）

図表4-55 成果を計る指標—居住地域別



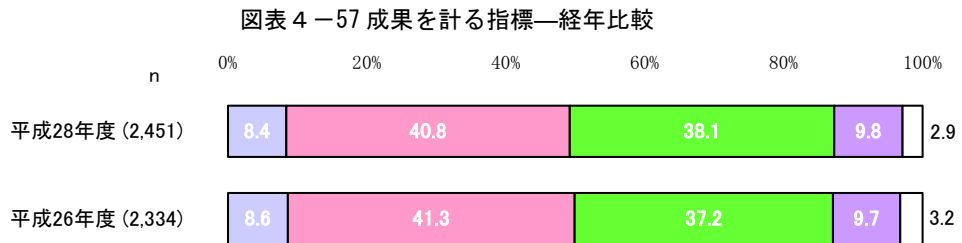
18 以前に比べて、航空機による騒音が減ったと思う

【そう思う】は39.8%で、前回結果（19.9%）と比較して19.9ポイント増加している。
（図表4-56）



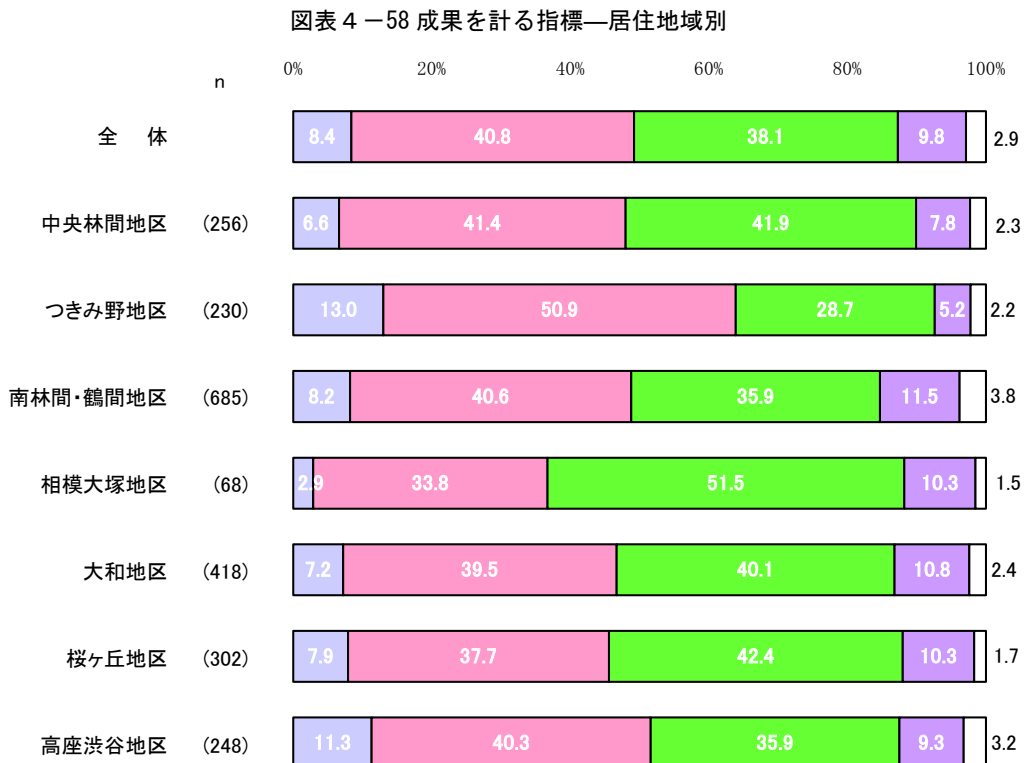
19 あなたのまわりでは、環境に配慮している人が多いと思う

【そう思う】は49.2%で、前回結果（49.9%）と比較して0.7ポイント減少している。
（図表4-57）



【居住地域別】

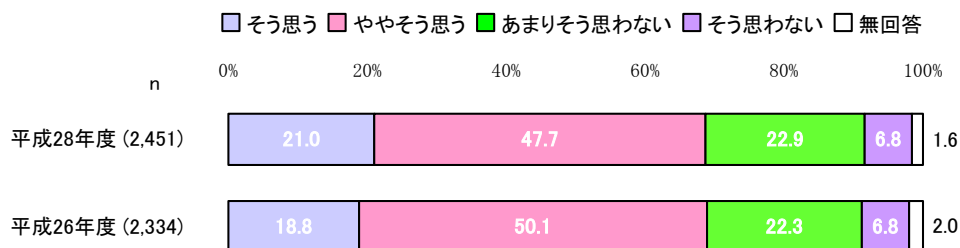
居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、つきみ野地区(63.9%)で6割強と多くなっている。一方で、相模大塚地区（36.7%）は他の地域と比べ低くなっている。（図表4-58）



20 大和市には、緑や公園が多いと思う

【そう思う】は68.7%で、前回結果（68.9%）と比較して0.2ポイント減少している。
（図表4-59）

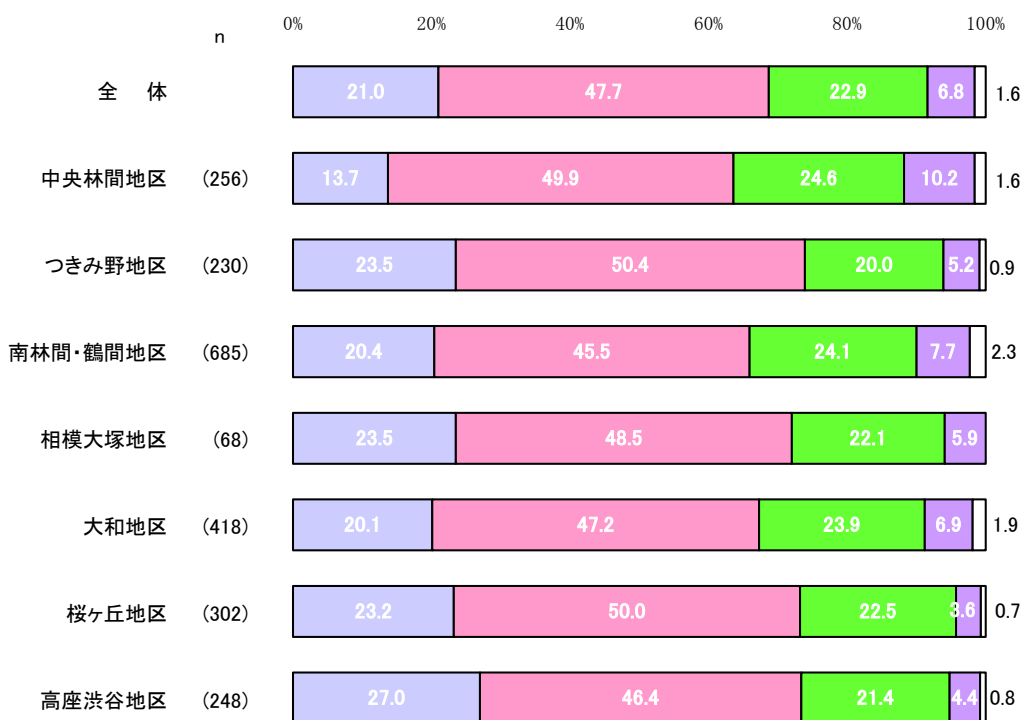
図表4-59 成果を計る指標—経年比較



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、つきみ野地区(73.9%)、相模大塚地区(72.0%)、桜ヶ丘地区(73.2%)、高座渋谷地区(73.4%)で7割以上となっている。一方で、中央林間地区(63.6%)は他の地域と比べ低くなっている。（図表4-60）

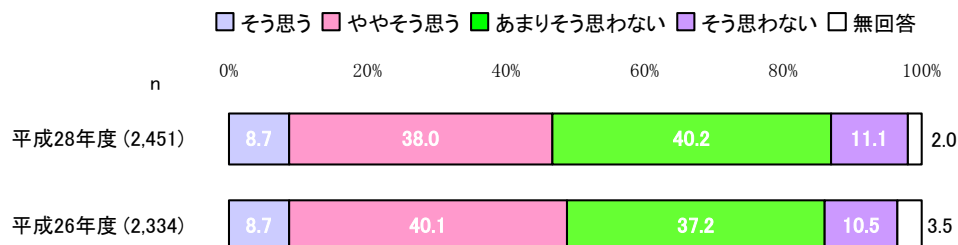
図表4-60 成果を計る指標—居住地域別



21 大和市は、良好な街並みが形成されていると思う

【そう思う】は46.7%で、前回結果（48.8%）と比較して2.1ポイント減少している。
（図表4-61）

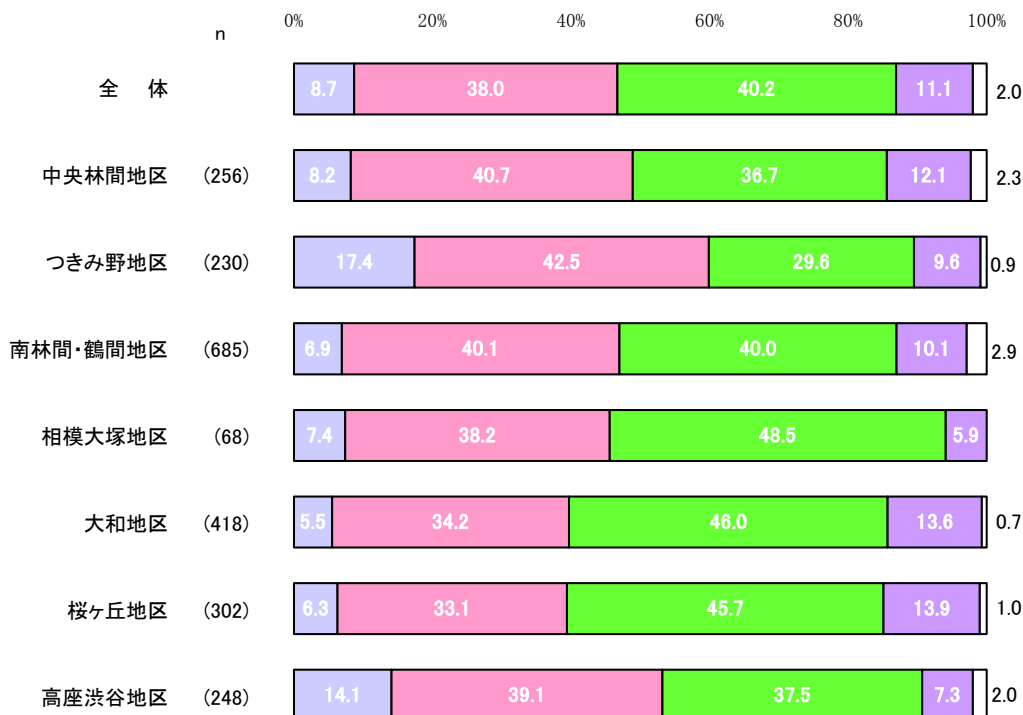
図表4-61 成果を計る指標—経年比較



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、つきみ野地区(59.9%)で6割弱と多くなっている。（図表4-62）

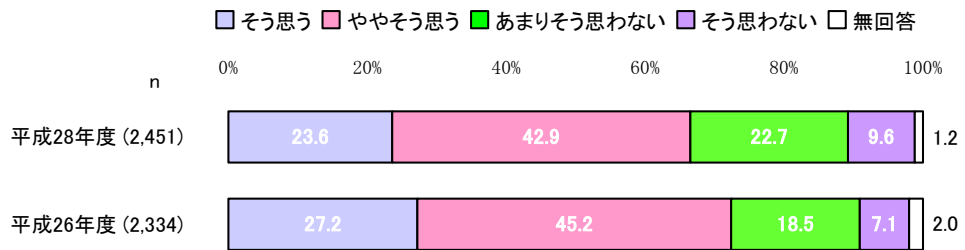
図表4-62 成果を計る指標—居住地域別



22 大和市は、買い物がしやすいと思う

【そう思う】は66.5%で、前回結果（72.4%）と比較して5.9ポイント減少している。
（図表4-63）

図表4-63 成果を計る指標—経年比較

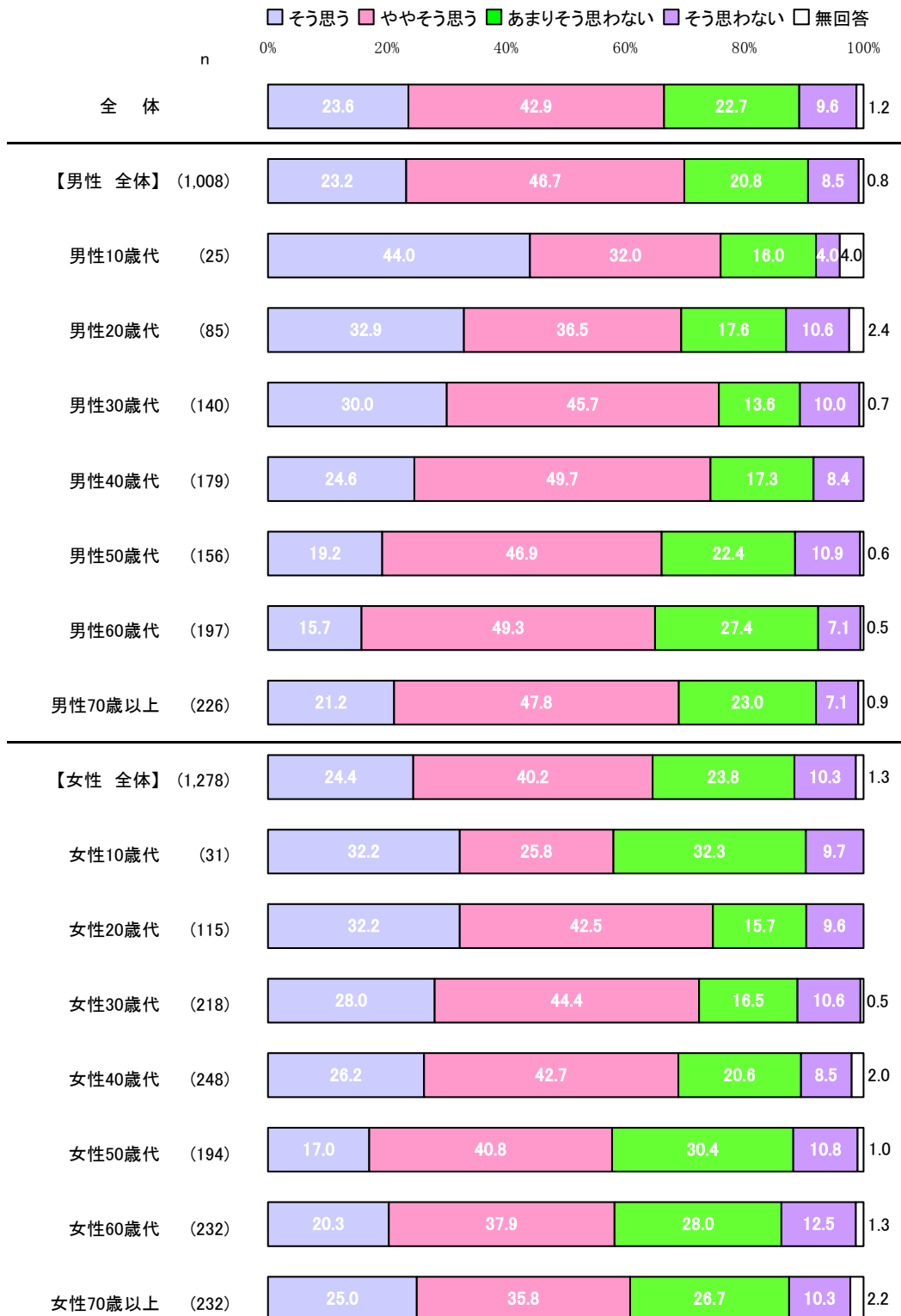


【性別・年齢別】

性別にみると、男性の【そう思う】(69.9%)は女性の【そう思う】(64.6%)よりも5.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男性10歳代、30歳代、40歳代、女性20歳代、30歳代で【そう思う】が7割以上となっている。(図表4-64)

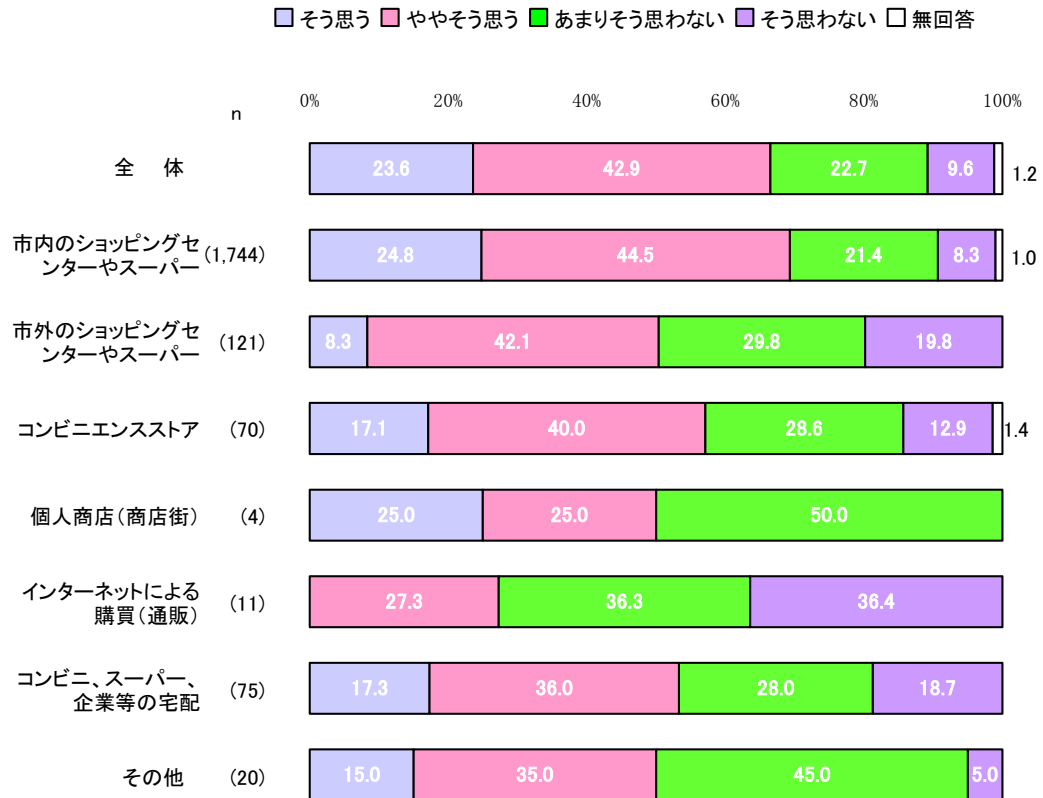
図表4-64 成果を計る指標—性別・年齢別



【買い物をする場所別】

買い物をする場所別にみると、「市内のショッピングセンターやスーパー」と回答した人では【そう思う】(69.3%)が7割弱と多くなっている。(図表4-65)

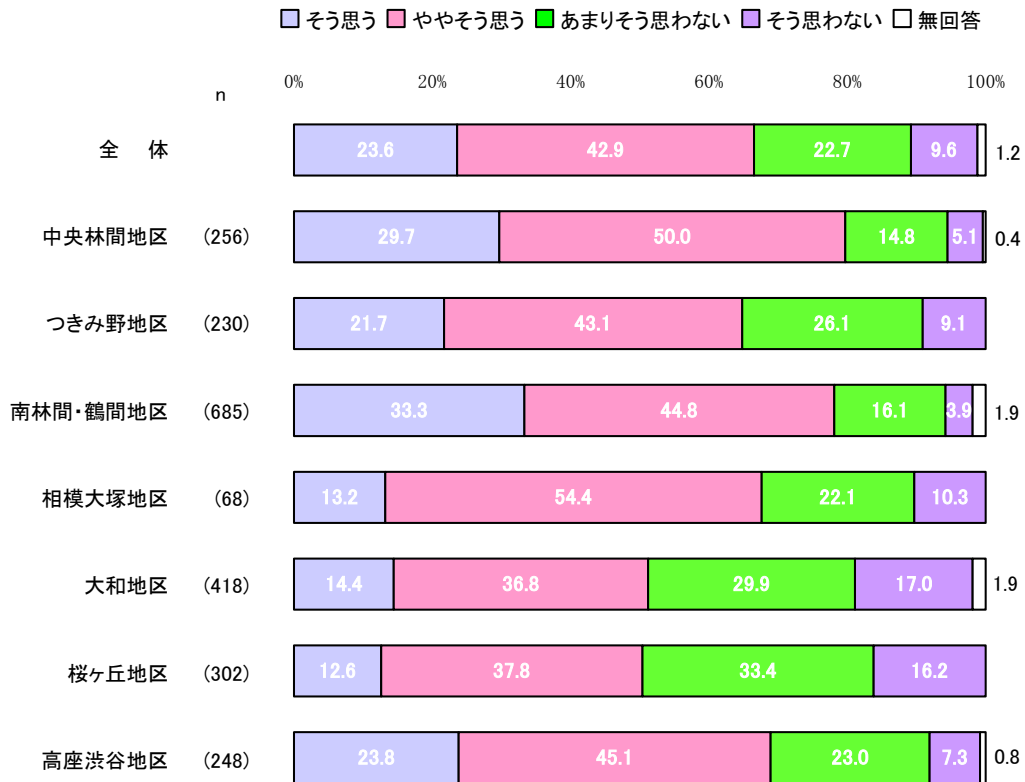
図表4-65 成果を計る指標—買い物をする場所別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【**そう思う**】と回答した人が、中央林間地区(79.7%)、南林間・鶴間地区(78.1%)で7割以上となっている。一方で、大和地区(51.2%)、桜ヶ丘地区(50.4%)は他の地域と比べ低くなっている。(図表4-66)

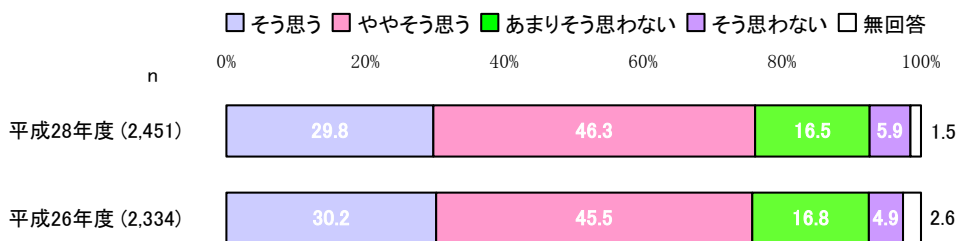
図表4-66 成果を計る指標—居住地域別



23 大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う

【そう思う】は76.1%で、前回結果（75.7%）と比較して0.4ポイント増加している。
 (図表4-67)

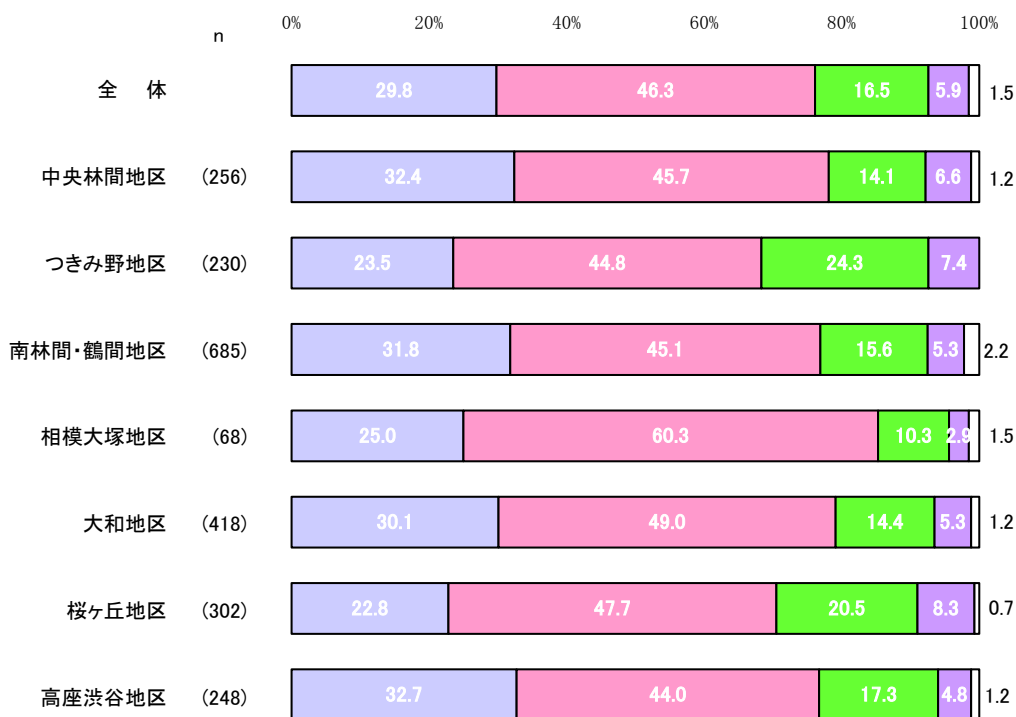
図表4-67 成果を計る指標—経年比較



【居住地域別】

地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、相模大塚地区(85.3%)で8割台半ばと多くなっている。一方で、つきみ野地区(68.3%)では7割近くと、他の地域と比べて低くなっている。
 (図表4-68)

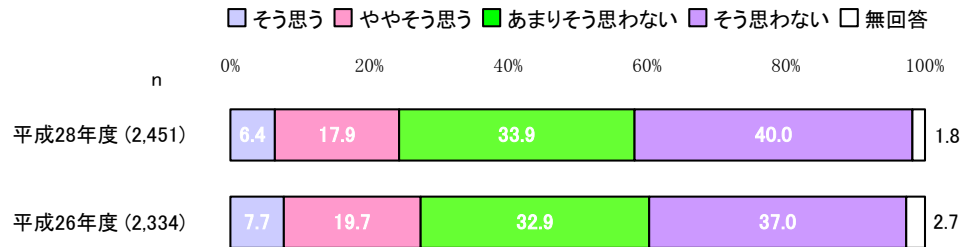
図表4-68 成果を計る指標—居住地域別



24 あなたは、地域活動に参加していると思う

【そう思う】は24.3%で、前回結果（27.4%）と比較して3.1ポイント減少している。
（図表4-69）

図表4-69 成果を計る指標—経年比較

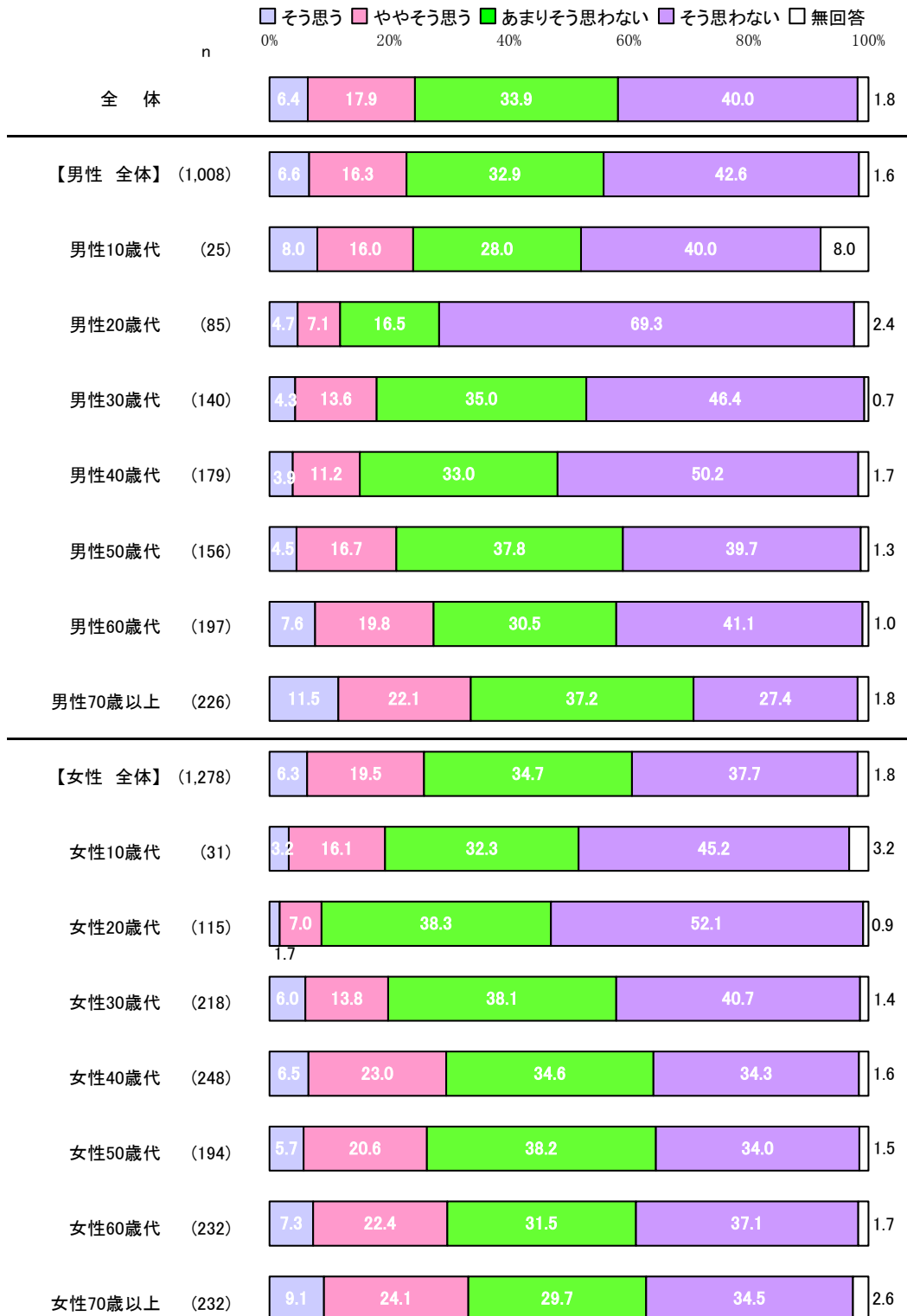


【性別・年齢別】

性別にみると、女性の【そう思う】(25.8%)は男性の【そう思う】(22.9%)よりも2.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて【そう思う】が増加傾向となり、男性70歳以上では33.6%、女性70歳以上では33.2%となっている。また、男性は40歳代で【そう思う】が下がっている(15.1%)が、女性では逆に上がっている(29.5%)。(図表4-70)

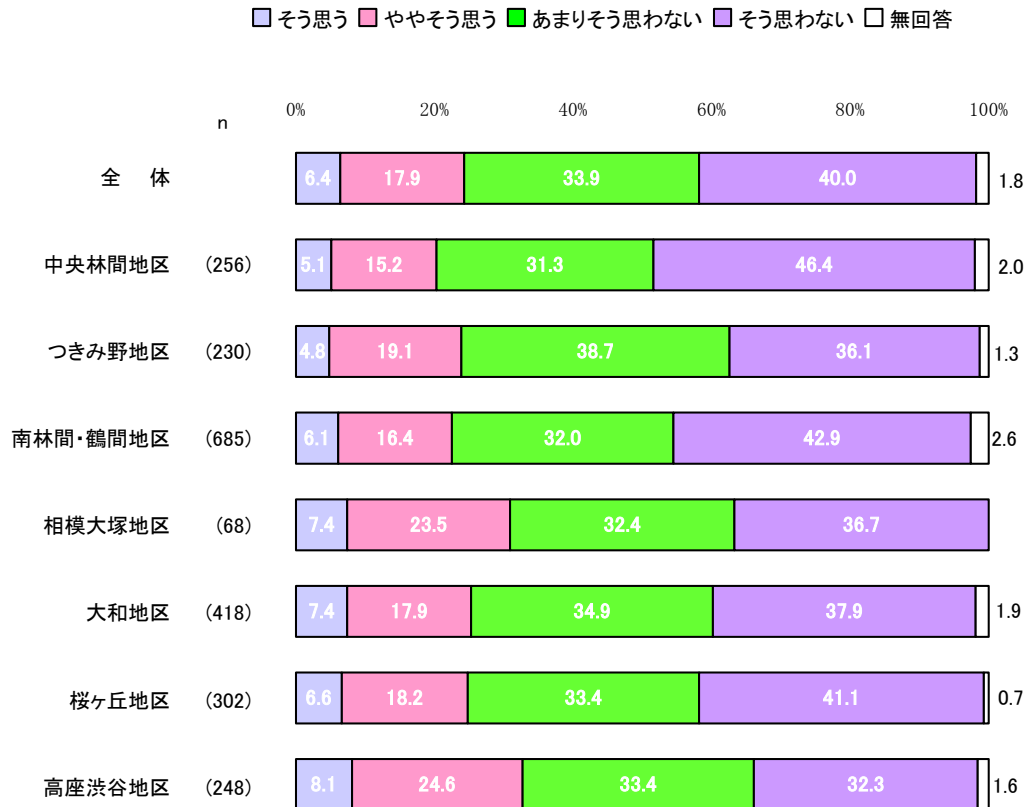
図表4-70 成果を計る指標—性別・年齢別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【**そう思う**】と回答した人が、相模大塚地区(30.9%)、高座渋谷地区(32.7%)で3割以上となっている。(図表4-71)

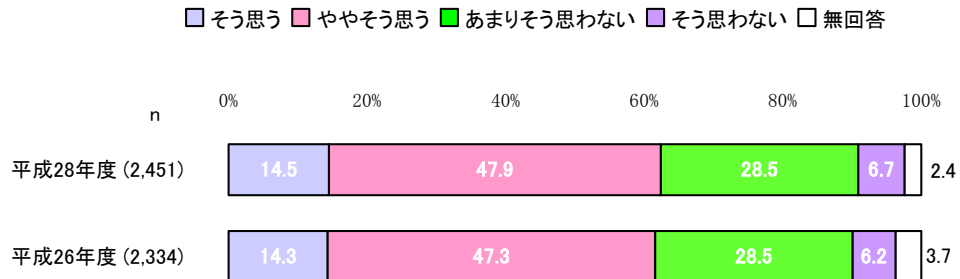
図表4-71 成果を計る指標—居住地域別



25 大和市では、市政情報（市が提供すべき情報）を手軽に入手できると思う

【そう思う】は62.4%で、前回結果（61.6%）と比較して0.8ポイント増加している。
（図表4-72）

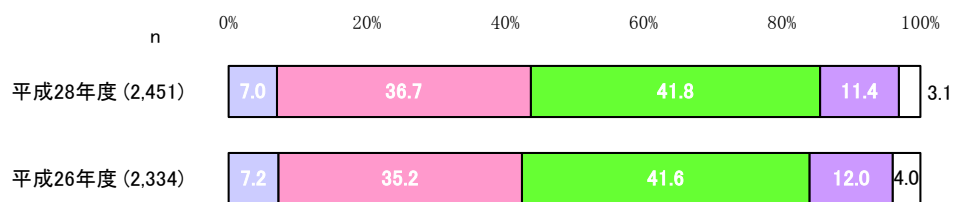
図表4-72 成果を計る指標—経年比較



26 大和市役所は、市民の声が届く市役所であると思う

【そう思う】は43.7%で、前回結果（42.4%）と比較して1.3ポイント増加している。
（図表4-73）

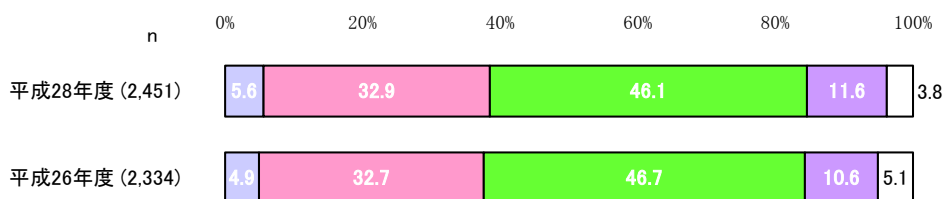
図表4-73 成果を計る指標—経年比較



27 大和市では、市政への参加の機会が確保されていると思う

【そう思う】は38.5%で、前回結果（37.6%）と比較して0.9ポイント増加している。
（図表4-74）

図表4-74 成果を計る指標—経年比較



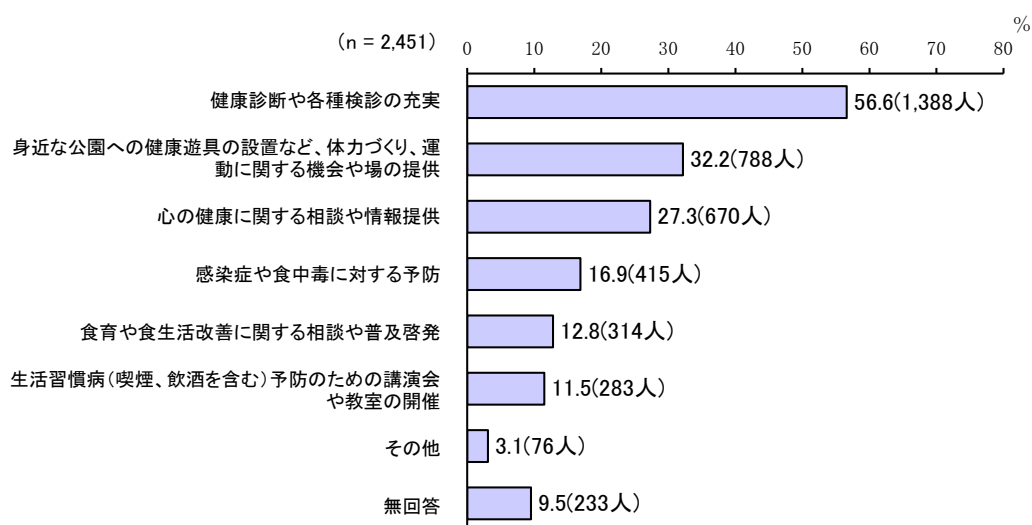
(5) 市が重視すべき取り組みについて

問5 心と身体の健康づくりに関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

「健康診断や各種検診の充実」(56.6%)が最も多く6割近くとなっている。次いで、「身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供」(32.2%)、「心の健康に関する相談や情報提供」(27.3%)、「感染症や食中毒に対する予防」(16.9%)の順となっている。(図表5-1)

前回結果と比較すると、上位3項目の「健康診断や各種検診の充実」、「身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供」、「心の健康に関する相談や情報提供」に変わりはなく、その他の項目についても前回と同様の傾向となっている。(図表5-1-1)

図表5-1 心と身体の健康づくりに関する取り組み—全体



図表5-1-1 心と身体の健康づくりに関する取り組み—経年比較

単位：%

	平成 28 年度	平成 26 年度
調査数(n)	2,451	2,334
健康診断や各種検診の充実	56.6	53.4
身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供	32.2	35.4
心の健康に関する相談や情報提供	27.3	27.3
感染症や食中毒に対する予防	16.9	17.7
食育や食生活改善に関する相談や普及啓発	12.8	14.1
生活習慣病(喫煙、飲酒を含む)予防のための講演会や教室の開催	11.5	13.3
その他	3.1	3.2
無回答	9.5	7.2

【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「健康診断や各種検診の充実」が6割近くとなっている。

年齢別にみると、男性20歳代で「身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供」(47.1%)、女性10歳代で「心の健康に関する相談や情報提供」(48.4%)が他の年代と比べて高くなっている。(図表5-1-2)

図表5-1-2 心と身体健康づくりに関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	健康診断や各種検診の充実	身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供	生活習慣病(喫煙、飲酒を含む)予防のための講演会や教室の開催	心の健康に関する相談や情報提供	食育や食生活改善に関する相談や普及啓発	感染症や食中毒に対する予防	その他	無回答
全体	2,451	56.6	32.2	11.5	27.3	12.8	16.9	3.1	9.5
【男性 全体】	1,008	56.3	35.2	10.4	26.8	11.4	19.1	2.7	9.3
男性 10歳代	25	48.0	36.0	20.0	28.0	4.0	24.0	4.0	8.0
男性 20歳代	85	51.8	47.1	9.4	24.7	11.8	16.5	4.7	9.4
男性 30歳代	140	56.4	39.3	6.4	22.9	12.1	18.6	3.6	8.6
男性 40歳代	179	53.6	40.8	7.3	33.5	12.3	17.9	2.8	6.1
男性 50歳代	156	60.3	27.6	12.8	35.9	10.9	16.7	1.9	7.7
男性 60歳代	197	58.9	31.5	12.7	21.3	11.7	21.3	1.0	10.7
男性 70歳以上	226	55.8	32.3	11.1	23.0	11.1	20.8	3.1	12.4
【女性 全体】	1,278	58.4	30.7	12.2	28.4	13.7	15.4	3.3	8.5
女性 10歳代	31	51.6	29.0	19.4	48.4	3.2	22.6	3.2	-
女性 20歳代	115	63.5	35.7	8.7	33.0	11.3	22.6	3.5	2.6
女性 30歳代	218	72.0	32.1	10.6	20.2	13.8	15.6	3.7	6.0
女性 40歳代	248	61.3	30.6	10.5	32.3	14.9	11.3	5.2	5.6
女性 50歳代	194	57.2	30.4	10.8	32.0	13.4	13.4	4.1	8.8
女性 60歳代	232	47.8	30.6	18.5	25.0	15.1	13.4	3.0	12.1
女性 70歳以上	232	52.2	27.2	11.2	27.2	13.4	19.4	0.4	14.2

【医療機関の利用頻度別】

医療機関の利用頻度別にみると、「健康診断や各種検診の充実」について、月に2～3回程度と回答した人では59.6%と多くなっている一方で、年に1回も利用しないと回答した人では43.9%と低くなっている。また、週に1回以上と回答した人では「心の健康に関する相談や情報提供」(34.3%)が3割台半ばと多くなっている。(図表5-1-3)

図表5-1-3 心と身体健康づくりに関する取り組み—医療機関の利用頻度別

単位：%

	調査数 (n)	健康診断や各種検診の充実	身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供	生活習慣病(喫煙、飲酒を含む)予防のための講演会や教室の開催	心の健康に関する相談や情報提供	食育や食生活改善に関する相談や普及啓発	感染症や食中毒に対する予防	その他	無回答
全 体	2,451	56.6	32.2	11.5	27.3	12.8	16.9	3.1	9.5
週に1回以上	105	55.2	34.3	18.1	34.3	7.6	18.1	1.9	8.6
月に2～3回程度	423	59.6	28.4	12.1	24.6	14.4	18.0	3.1	9.2
月に1回ほど	857	57.9	29.4	12.4	28.7	12.6	16.9	2.7	10.2
年に2～3回程度	894	57.0	35.6	9.7	27.0	13.4	15.8	3.6	7.9
年に1回も利用しない	139	43.9	38.8	10.1	25.2	9.4	19.4	2.9	13.7

【居住地域別】

居住地域別にみると、すべての地域において「健康診断や各種検診の充実」が5割以上で1位、「身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供」が概ね3割以上で2位となっている。(図表5-1-4)

図表5-1-4 心と身体健康づくりに関する取り組み—居住地域別

単位：%

	調査数(n)	健康診断や各種検診の充実	身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供	生活習慣病(喫煙、飲酒を含む)予防のための講演会や教室の開催	心の健康に関する相談や情報提供	食育や食生活改善に関する相談や普及啓発	感染症や食中毒に対する予防	その他	無回答
全 体	2,451	56.6	32.2	11.5	27.3	12.8	16.9	3.1	9.5
中央林間地区	256	58.2	36.3	11.3	27.7	12.1	19.9	4.7	2.7
つきみ野地区	230	67.0	29.6	14.3	27.0	13.9	16.1	3.5	3.0
南林間・鶴間地区	685	61.6	34.2	11.5	30.2	14.5	18.1	3.1	2.8
相模大塚地区	68	63.2	38.2	4.4	26.5	16.2	14.7	7.4	-
大和地区	418	62.0	36.4	12.4	29.9	12.0	15.6	2.4	3.8
桜ヶ丘地区	302	55.6	36.1	11.9	32.1	11.9	21.5	2.0	3.6
高座渋谷地区	248	59.7	29.0	15.3	26.2	17.3	20.6	4.0	3.2

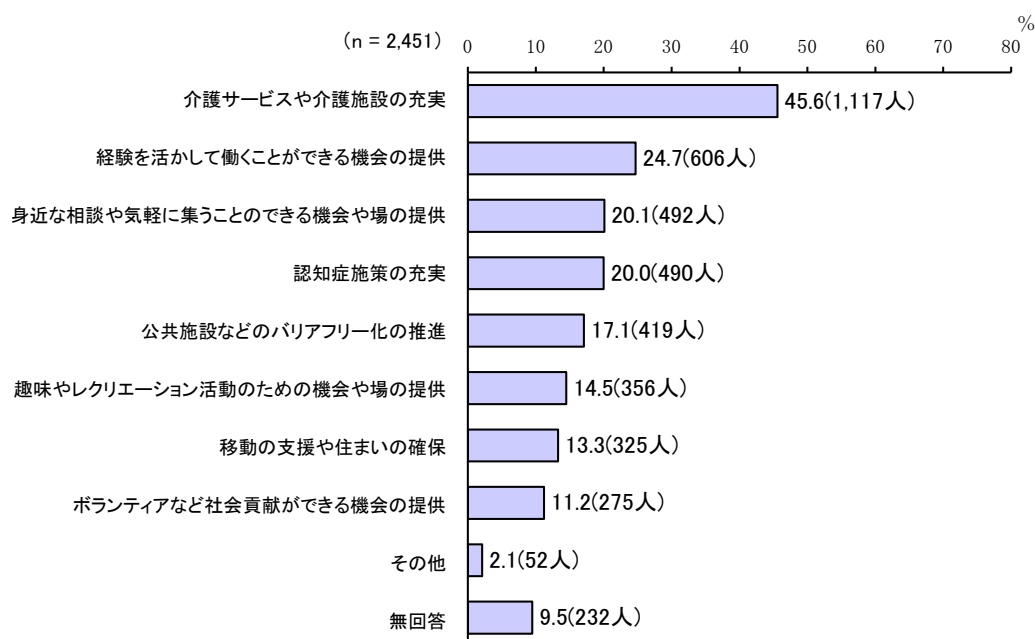
問6 高齢の方や障がいのある方に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

「介護サービスや介護施設の充実」(45.6%)が最も多く4割台半ばとなっている。次いで、「経験を活かして働くことができる機会の提供」(24.7%)、「身近な相談や気軽に集うことのできる機会や場の提供」(20.1%)、「認知症施策の充実」(20.0%)の順となっている。(図表5-2)

前回結果と比較すると、「介護サービスや介護施設の充実」が1位、「経験を活かして働くことができる機会の提供」が2位となり、前回同様の順位となっている。

(図表5-2-1)

図表5-2 高齢の方や障がいのある方に関する取り組み—全体



図表5-2-1 高齢の方や障がいのある方に関する取り組み—経年比較

単位：%

	平成28年度	平成26年度
調査数(n)	2,451	2,334
介護サービスや介護施設の充実	45.6	50.5
経験を活かして働くことができる機会の提供	24.7	32.0
身近な相談や気軽に集うことのできる機会や場の提供	20.1	22.9
認知症施策の充実	20.0	-
公共施設などのバリアフリー化の推進	17.1	17.4
趣味やレクリエーション活動のための機会や場の提供	14.5	15.2
移動の支援や住まいの確保	13.3	16.6
ボランティアなど社会貢献ができる機会の提供	11.2	14.8
その他	2.1	2.2
無回答	9.5	6.6

【性別・年齢別】

性別でみると、男女ともに「介護サービスや介護施設の充実」が1位となっており、男性では「経験を活かして働くことができる機会の提供」が2位、女性では「身近な相談や気軽に集うことのできる機会や場の提供」が2位となっている。

性別・年齢別でみると、男性10歳代、女性10歳代、20歳代では「公共施設などのバリアフリー化の推進」が2位となり、他の年代と比較して多くなっている。(図表5-2-2)

図表5-2-2 高齢の方や障がいのある方に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	介護サービスや介護施設の充実	趣味やレクリエーション活動のための機会や場の提供	ボランティアなど社会貢献ができる機会の提供	経験を活かして働くことができる機会の提供	身近な相談や気軽に集うことのできる機会や場の提供	認知症施策の充実	移動の支援や住まいの確保	公共施設などのバリアフリー化の推進	その他	無回答
全 体	2,451	45.6	14.5	11.2	24.7	20.1	20.0	13.3	17.1	2.1	9.5
【男性 全体】	1,008	45.2	15.4	12.6	26.8	16.8	20.1	13.3	15.4	2.0	9.8
男性 10 歳代	25	36.0	12.0	20.0	28.0	16.0	16.0	4.0	28.0	-	12.0
男性 20 歳代	85	36.5	12.9	11.8	29.4	15.3	20.0	12.9	21.2	2.4	10.6
男性 30 歳代	140	41.4	14.3	14.3	32.9	12.1	20.7	15.0	15.7	2.1	8.6
男性 40 歳代	179	35.2	18.4	12.8	31.8	18.4	14.0	20.1	21.2	3.4	6.7
男性 50 歳代	156	48.7	14.7	10.3	26.3	19.2	21.8	19.2	9.0	2.6	8.3
男性 60 歳代	197	52.3	15.7	10.7	24.4	14.7	22.8	8.1	17.3	1.5	10.7
男性 70 歳以上	226	51.3	15.0	14.2	20.4	19.0	21.7	8.4	9.7	0.9	12.8
【女性 全体】	1,278	46.5	13.2	10.6	23.1	23.2	20.2	14.0	18.9	2.2	8.0
女性 10 歳代	31	38.7	16.1	12.9	29.0	25.8	12.9	16.1	29.0	-	-
女性 20 歳代	115	37.4	15.7	18.3	25.2	20.9	21.7	17.4	27.8	-	3.5
女性 30 歳代	218	34.4	15.6	14.7	27.1	23.4	17.9	15.6	22.9	2.8	6.4
女性 40 歳代	248	47.2	12.5	11.3	26.2	19.8	19.0	16.5	20.2	3.6	5.6
女性 50 歳代	194	53.6	6.7	7.7	29.4	18.6	23.7	18.0	16.5	2.1	7.2
女性 60 歳代	232	44.4	11.2	8.6	19.0	30.6	21.6	9.1	14.7	2.6	11.6
女性 70 歳以上	232	58.2	17.7	6.0	13.4	23.7	19.4	9.5	14.7	1.3	12.5

【居住地域別】

居住地域別で見ると、すべての地域において「介護サービスや介護施設の充実」が1位となっている。また、大和地区を除くすべての地域において「経験を活かして働くことができる機会の提供」が2位となっている。(図表5-2-3)

図表5-2-3 高齢の方や障がいのある方に関する取り組み—居住地域別

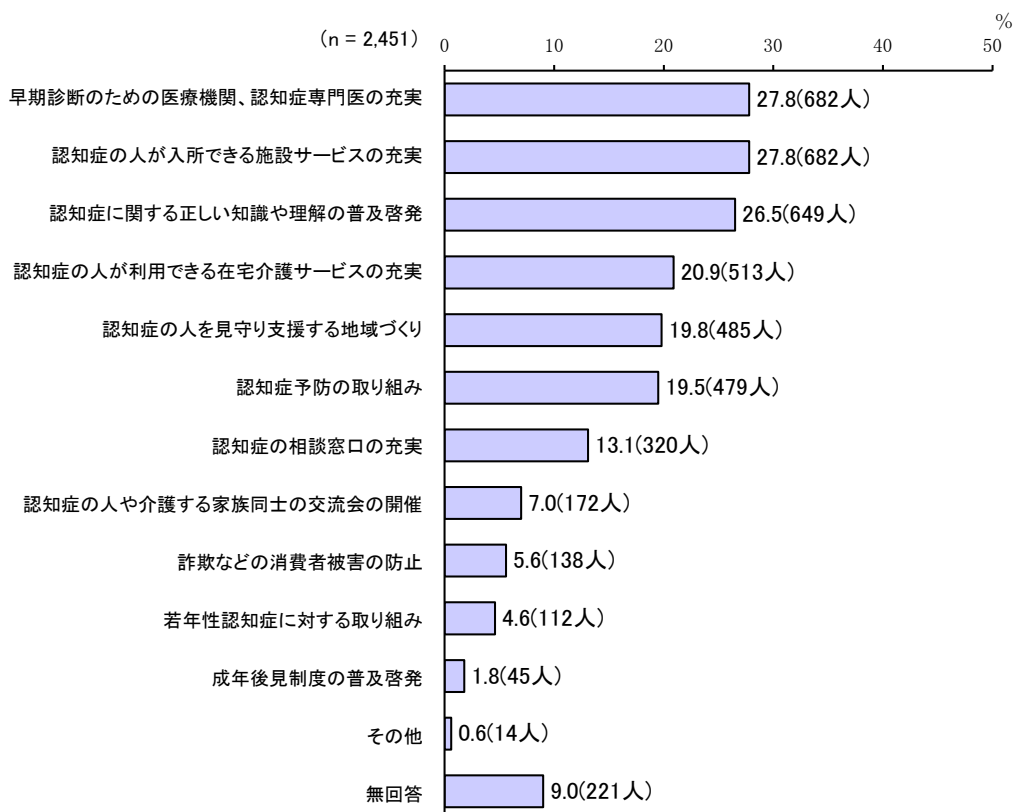
単位：％

	調査数 (n)	介護サービスや介護施設の充実	趣味やレクリエーション活動のための機会や場の提供	ボランティアなど社会貢献ができる機会の提供	経験を活かして働くことができる機会の提供	身近な相談や気軽に集うことのできる機会や場の提供	認知症施策の充実	移動の支援や住まいの確保	公共施設などのバリアフリー化の推進	その他	無回答
全 体	2,451	45.6	14.5	11.2	24.7	20.1	20.0	13.3	17.1	2.1	9.5
中央林間地区	256	46.1	14.1	14.1	33.2	16.0	23.0	12.5	17.2	2.7	2.3
つきみ野地区	230	51.7	12.6	13.9	31.3	20.9	17.8	10.4	20.4	2.2	2.2
南林間・鶴間地区	685	49.1	16.5	11.5	25.7	21.5	21.8	14.0	20.4	1.5	3.2
相模大塚地区	68	44.1	20.6	7.4	30.9	20.6	22.1	11.8	14.7	4.4	1.5
大和地区	418	50.7	16.7	10.8	23.2	24.4	18.9	16.3	18.2	2.9	2.9
桜ヶ丘地区	302	48.3	16.2	11.3	22.8	20.9	21.9	17.2	16.2	1.7	5.0
高座渋谷地区	248	45.6	14.1	12.5	27.0	23.0	24.2	14.5	15.7	3.2	2.8

問7 認知症になっても住み慣れた地域で生活するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

「早期診断のための医療機関、認知症専門医の充実」(27.8%)、「認知症の人が入所できる施設サービスの充実」(27.8%)が最も多く3割近くとなっている。次いで、「認知症に関する正しい知識や理解の普及啓発」(26.5%)、「認知症の人が利用できる在宅介護サービスの充実」(20.9%)の順となっている。(図表5-3)

図表5-3 認知症に関する取り組み—全体



【性別・年齢別】

性別でみると、男性では「認知症に関する正しい知識や理解の普及啓発」が1位、女性では「認知症の人が入所できる施設サービスの充実」が1位となっている。

性別・年齢別でみると、「認知症に関する正しい知識や理解の普及啓発」について、特に男性10歳代、20歳代と女性20歳代で多くなっている。(図表5-3-1)

図表5-3-1 認知症に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	認知症に関する正しい知識 や理解の普及啓発	認知症予防の取り組み	早期診断のための医療機関、 認知症専門医の充実	若年性認知症に対する取 組み	認知症の相談窓口の充実	認知症の人や介護する家族 同士の交流会の開催
全 体	2,451	26.5	19.5	27.8	4.6	13.1	7.0
【男性 全体】	1,008	27.9	22.3	27.7	6.2	13.0	4.6
男性 10 歳代	25	40.0	28.0	36.0	12.0	8.0	12.0
男性 20 歳代	85	38.8	30.6	21.2	8.2	9.4	3.5
男性 30 歳代	140	29.3	17.1	29.3	12.1	11.4	5.7
男性 40 歳代	179	29.6	16.8	24.6	6.7	10.6	7.8
男性 50 歳代	156	21.2	17.3	23.7	7.1	17.9	3.2
男性 60 歳代	197	28.4	24.4	32.0	3.6	15.7	2.5
男性 70 歳以上	226	24.3	27.9	29.6	2.2	11.9	3.5
【女性 全体】	1,278	25.8	17.1	27.8	3.5	13.6	9.0
女性 10 歳代	31	32.3	16.1	35.5	-	3.2	19.4
女性 20 歳代	115	38.3	20.9	16.5	3.5	17.4	18.3
女性 30 歳代	218	27.1	16.1	25.7	5.5	16.1	14.2
女性 40 歳代	248	25.4	13.3	29.0	4.4	12.9	11.7
女性 50 歳代	194	22.2	13.4	28.9	4.6	16.0	3.6
女性 60 歳代	232	23.3	18.1	27.2	2.6	10.8	3.0
女性 70 歳以上	232	24.1	22.4	32.3	0.9	12.5	6.0

(つづき)

単位：％

	認知症の人を見守り支援する地域づくり	認知症の人が利用できる在宅介護サービスの充実	認知症の人が入所できる施設サービスの充実	詐欺などの消費者被害の防止	成年後見制度の普及啓発	その他	無回答
全 体	19.8	20.9	27.8	5.6	1.8	0.6	9.0
【男性 全体】	20.5	18.5	25.4	6.0	1.6	0.6	9.3
男性 10 歳代	24.0	4.0	8.0	8.0	-	-	8.0
男性 20 歳代	15.3	9.4	21.2	8.2	2.4	1.2	9.4
男性 30 歳代	20.7	17.9	22.1	5.7	2.9	0.7	7.9
男性 40 歳代	29.6	16.8	29.6	7.3	1.1	1.7	6.7
男性 50 歳代	20.5	31.4	28.8	4.5	0.6	-	8.3
男性 60 歳代	17.3	17.3	24.9	6.1	1.5	-	10.7
男性 70 歳以上	17.7	17.3	25.7	4.9	1.8	0.4	11.9
【女性 全体】	19.5	23.9	30.5	5.2	2.0	0.4	7.7
女性 10 歳代	25.8	9.7	29.0	16.1	9.7	-	-
女性 20 歳代	25.2	18.3	23.5	5.2	-	0.9	3.5
女性 30 歳代	20.6	17.4	28.0	6.4	1.8	0.5	6.4
女性 40 歳代	17.3	31.5	32.7	3.2	3.6	-	4.4
女性 50 歳代	20.1	32.5	34.5	4.1	2.1	0.5	6.7
女性 60 歳代	21.6	22.8	33.6	5.2	1.7	0.9	11.2
女性 70 歳以上	14.7	19.4	28.0	5.6	0.9	-	13.4

【居住地域別】

居住地域別でみると、大和地区、桜ヶ丘地区では「認知症に関する正しい知識や理解の普及啓発」が、南林間・鶴間地区、相模大塚地区では「早期診断のための医療機関、認知症専門医の充実」が、中央林間地区、つきみ野地区、高座渋谷地区では「認知症の人が入所できる施設サービスの充実」が1位となっている。(図表5-3-2)

図表5-3-2 認知症に関する取り組み—居住地域別

単位：%

	調査数 (n)	認知症に関する正しい知識や理解の普及啓発	認知症予防の取り組み	早期診断のための医療機関、認知症専門医の充実	若年性認知症に対する取り組み	認知症の相談窓口の充実	認知症の人や介護する家族同士の交流会の開催
全体	2,451	26.5	19.5	27.8	4.6	13.1	7.0
中央林間地区	256	26.2	22.3	29.7	4.3	12.9	9.4
つきみ野地区	230	23.9	15.7	29.6	5.2	16.5	9.1
南林間・鶴間地区	685	27.7	21.8	31.8	4.5	11.7	7.3
相模大塚地区	68	22.1	16.2	30.9	10.3	11.8	14.7
大和地区	418	30.6	20.8	27.3	4.8	15.8	5.0
桜ヶ丘地区	302	32.8	21.5	30.1	5.3	13.6	7.0
高座渋谷地区	248	27.4	21.4	27.4	4.4	17.3	7.3

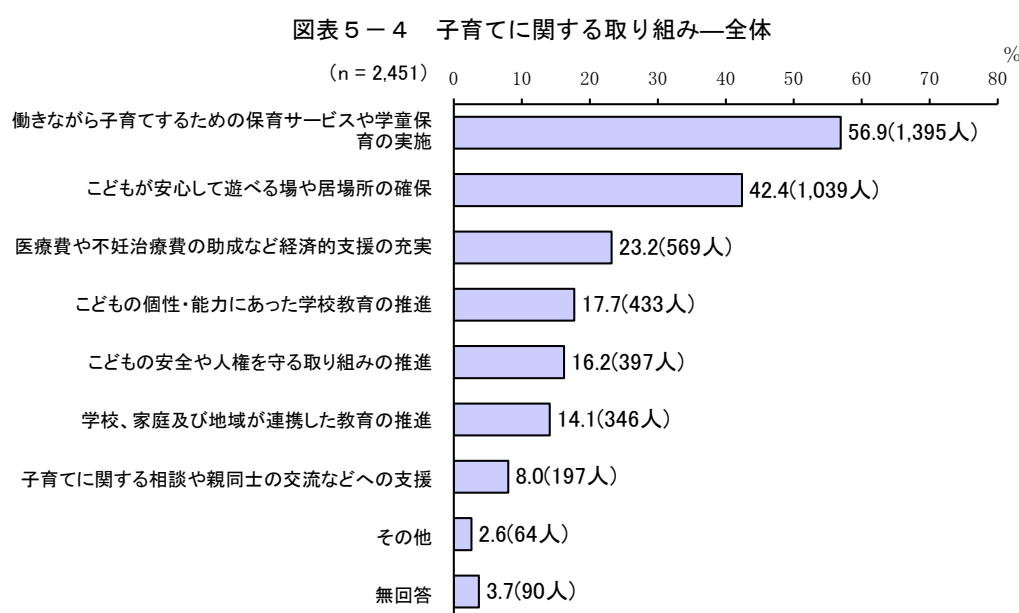
	認知症の人を見守り支援する地域づくり	認知症の人が利用できる在宅介護サービスの充実	認知症の人が入所できる施設サービスの充実	詐欺などの消費者被害の防止	成年後見制度の普及啓発	その他	無回答
全体	19.8	20.9	27.8	5.6	1.8	0.6	9.0
中央林間地区	18.8	23.8	34.0	5.1	0.8	0.4	2.0
つきみ野地区	27.4	23.9	31.7	3.5	2.2	0.4	1.3
南林間・鶴間地区	20.9	22.8	30.5	5.8	2.5	0.4	3.1
相模大塚地区	23.5	13.2	25.0	8.8	2.9	-	2.9
大和地区	21.8	22.7	27.8	8.6	1.2	1.2	3.1
桜ヶ丘地区	19.2	21.2	27.8	4.3	2.0	0.3	3.3
高座渋谷地区	19.4	23.4	32.3	6.0	2.4	0.8	1.6

問 8 子育てに関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

「働きながら子育てするための保育サービスや学童保育の実施」(56.9%)が最も多く6割近くとなっている。次いで、「こどもが安心して遊べる場や居場所の確保」(42.4%)、「医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実」(23.2%)、「こどもの個性・能力にあった学校教育の推進」(17.7%)、「こどもの安全や人権を守る取り組みの推進」(16.2%)の順となっている。

(図表5-4)

前回結果と比較すると、「働きながら子育てするための保育サービスや学童保育の実施」が1位、「こどもが安心して遊べる場や居場所の確保」が2位となり、前回同様の順位となった。また、「働きながら子育てするための保育サービスや学童保育の実施」に関しては前回より3.6ポイント増え6割近くとなった。(図表5-4-1)



図表5-4-1 子育てに関する取り組み—経年比較

単位：%

	平成 28 年度	平成 26 年度
調査数(n)	2,451	2,334
働きながら子育てするための保育サービスや学童保育の実施	56.9	53.3
こどもが安心して遊べる場や居場所の確保	42.4	39.5
医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	23.2	23.7
こどもの個性・能力にあった学校教育の推進	17.7	15.0
こどもの安全や人権を守る取り組みの推進	16.2	15.0
学校、家庭及び地域が連携した教育の推進	14.1	12.3
子育てに関する相談や親同士の交流などへの支援	8.0	9.2
その他	2.6	2.5
無回答	3.7	8.8

【性別・年齢別】

性別でみると、男女ともに「働きながら子育てするための保育サービスや学童保育の実施」が1位、「こどもが安心して遊べる場や居場所の確保」が2位となっている。特に女性20歳代では、「働きながら子育てするための保育サービスや学童保育の実施」が7割台半ばと多くなっている。

性別・年齢別でみると、「医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実」が男性20歳代(35.3%)、40歳代(36.9%)と女性20歳代(36.5%)で他の年代と比べて多くなっている。(図表5-4-2)

図表5-4-2 子育てに関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数(n)	働きながら子育てするための保育サービスや学童保育の実施	医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	子育てに関する相談や親同士の交流などへの支援	こどもが安心して遊べる場や居場所の確保	こどもの個性・能力にあった学校教育の推進	学校、家庭及び地域が連携した教育の推進	こどもの安全や人権を守る取り組みの推進	その他	無回答
全体	2,451	56.9	23.2	8.0	42.4	17.7	14.1	16.2	2.6	3.7
【男性 全体】	1,008	58.6	24.8	7.2	41.3	17.5	16.7	15.4	1.8	2.7
男性 10歳代	25	40.0	12.0	4.0	72.0	32.0	28.0	4.0	-	-
男性 20歳代	85	62.4	35.3	4.7	36.5	15.3	12.9	12.9	1.2	2.4
男性 30歳代	140	57.1	27.1	8.6	50.7	17.1	15.7	12.9	1.4	-
男性 40歳代	179	57.0	36.9	6.1	37.4	17.3	14.0	16.8	3.9	0.6
男性 50歳代	156	64.1	28.8	7.1	35.3	17.9	14.7	12.8	1.3	2.6
男性 60歳代	197	58.9	17.8	9.1	38.6	18.8	17.8	19.8	1.0	2.5
男性 70歳以上	226	57.5	14.6	7.1	43.4	15.5	19.9	15.9	1.8	6.6
【女性 全体】	1,278	57.4	22.7	8.6	43.1	17.5	11.9	17.0	3.2	3.6
女性 10歳代	31	67.7	25.8	6.5	48.4	16.1	16.1	9.7	6.5	-
女性 20歳代	115	75.7	36.5	7.8	39.1	15.7	14.8	7.8	-	-
女性 30歳代	218	65.6	28.9	7.8	49.5	17.9	6.0	13.3	2.3	1.4
女性 40歳代	248	46.4	27.4	6.9	49.2	24.2	13.3	14.9	4.4	1.6
女性 50歳代	194	59.8	22.7	7.2	39.7	16.5	12.4	18.0	5.2	1.5
女性 60歳代	232	59.1	15.1	12.1	40.5	13.4	14.2	22.4	2.2	3.4
女性 70歳以上	232	48.3	12.9	9.1	37.1	15.9	10.3	22.0	3.4	12.1

【こどもの有無別】

こどもの有無別で見ると、小学生以上 18 歳未満のこどもがいる人以外では「働きながら子育てするための保育サービスや学童保育の実施」が 1 位となっている。また、小学生以上 18 歳未満のこどもがいる人では「こどもが安心して遊べる場や居場所の確保」が 5 割弱と多くなっている。(図表 5-4-3)

図表 5-4-3 子育てに関する取り組み—こどもの有無別

単位：%

	調査数 (n)	働きながら子育てするための保育サービスや学童保育の実施	医療費や不妊治療費の助成など 経済的支援の充実	子育てに関する相談や親同士の 交流などへの支援	こどもが安心して遊べる場や居 場所の確保	こどもの個性・能力にあった学 校教育の推進	学校、家庭及び地域が連携した 教育の推進	こどもの安全や人権を守る取り 組みの推進	その他	無回答
全 体	2,451	56.9	23.2	8.0	42.4	17.7	14.1	16.2	2.6	3.7
いる(未就学のお子さん のみ)	251	62.9	24.7	11.2	52.6	13.1	9.2	14.7	3.2	1.2
いる(小学生以上 18 歳 未満のお子さんのみ)	271	42.4	24.0	5.2	49.4	27.7	12.2	14.4	6.3	1.8
いる(未就学と小学生以 上 18 歳未満のお子さん どちらも)	147	51.0	23.8	7.5	47.6	28.6	13.6	18.4	2.0	-
いない	1,478	60.1	23.9	8.2	39.8	15.8	15.4	15.6	2.0	3.6

【年齢別（こどものいない人）】

こどものいない人を年齢別にみると、10歳代を除いて「働きながら子育てするための保育サービスや学童保育の実施」が1位となっている。また、10歳代では「こどもが安心して遊べる場や居場所の確保」が6割弱と多くなっており、20歳代～40歳代では「医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実」が3割以上と、他の年代と比べて多くなっている。（図表5-4-4）

図表5-4-4 子育てに関する取り組み—年齢別（こどものいない人）

単位：%

区分	有効回答数（件）	働きながら子育てするための保育サービスや学童保育の実施	医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	子育てに関する相談や親同士の交流などへの支援	こどもが安心して遊べる場や居場所の確保	こどもの個性・能力にあった学校教育の推進	学校、家庭及び地域が連携した教育の推進	こどもの安全や人権を守る取り組みの推進	その他	無回答
全体	1,478	60.1	23.9	8.2	39.8	15.8	15.4	15.6	2.0	3.6
10歳代	54	55.6	20.4	5.6	59.3	24.1	20.4	7.4	1.9	—
20歳代	173	70.5	35.3	5.8	34.7	16.8	16.8	9.8	—	1.2
30歳代	140	62.9	39.3	8.6	45.0	12.9	10.0	8.6	1.4	0.7
40歳代	181	60.8	34.8	6.6	34.3	14.9	13.8	18.8	2.8	1.7
50歳代	219	66.2	26.0	7.3	37.4	15.5	15.1	12.3	3.7	1.8
60歳代	337	59.6	17.2	10.1	38.3	15.7	17.2	18.7	2.1	3.3
70歳以上	366	51.6	13.1	9.0	42.9	15.3	15.0	19.7	1.9	8.7

【居住地域別】

居住地域別で見ると、すべての地域において「働きながら子育てするための保育サービスや学童保育の実施」が1位となっている。特に相模大塚地区（67.6%）では7割近くと多くなっている。（図表5-4-5）

図表5-4-5 子育てに関する取り組み—居住地域別

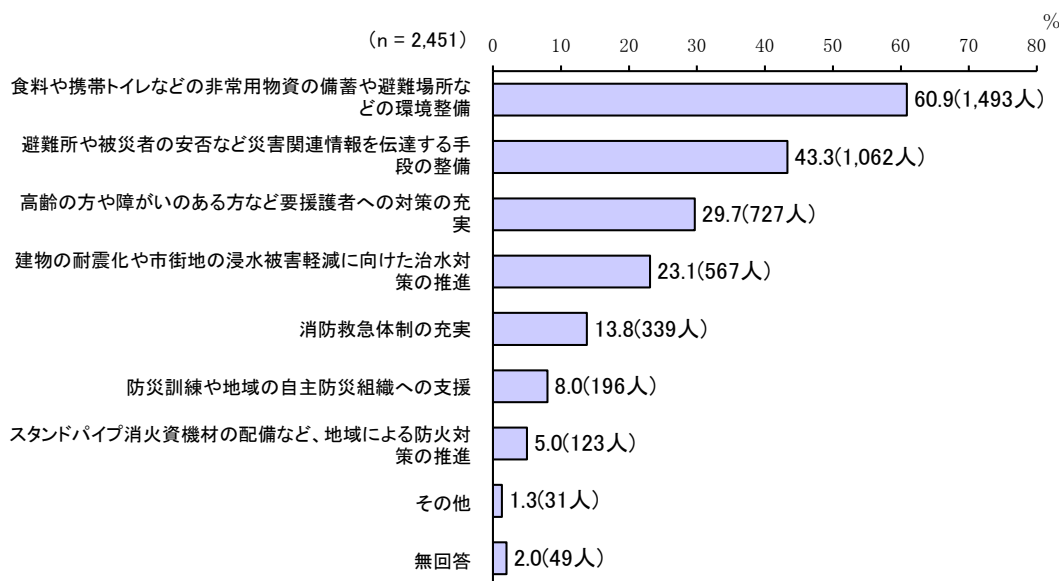
単位：%

	調査数（n）	働きながら子育てするための保育サービスや学童保育の実施	医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	子育てに関する相談や親同士の交流などへの支援	子どもが安心して遊べる場や居場所の確保	こどもの個性・能力にあった学校教育の推進	学校、家庭及び地域が連携した教育の推進	こどもの安全や人権を守る取り組みの推進	その他	無回答
全 体	2,451	56.9	23.2	8.0	42.4	17.7	14.1	16.2	2.6	3.7
中央林間地区	256	57.0	24.2	7.4	42.6	18.4	14.8	16.0	2.0	3.1
つきみ野地区	230	57.0	21.3	9.1	47.4	17.8	10.9	15.7	1.7	3.5
南林間・鶴間地区	685	59.4	23.4	7.2	45.3	15.5	15.2	14.2	2.9	3.5
相模大塚地区	68	67.6	23.5	10.3	30.9	19.1	19.1	17.6	-	2.9
大和地区	418	58.9	23.4	7.9	41.9	16.7	13.4	17.0	2.9	3.1
桜ヶ丘地区	302	55.0	26.8	8.6	38.1	22.5	12.9	14.6	1.3	2.3
高座渋谷地区	248	60.1	20.2	8.1	39.9	19.4	15.3	16.1	3.2	4.0

問9 災害への対応力を高めるための取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

「食料や携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備」(60.9%)が最も多く約6割となっている。次いで、「避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備」(43.3%)、「高齢の方や障がいのある方など要援護者への対策の充実」(29.7%)、「建物の耐震化や市街地の浸水被害軽減に向けた治水対策の推進」(23.1%)の順となっている。(図表5-5)

図表5-5 災害に関する取り組み—全体



【性別・年齢別】

性別でみると、男女ともに「食料や携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備」が1位、「避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備」が2位となっている。

性別・年齢別でみると、「高齢の方や障がいのある方など要援護者への対策の充実」が女性70歳以上（46.1%）では5割近くと、他の年代と比べて多くなっている。（図表5-5-1）

図表5-5-1 災害に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数（n）	避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備	食料や携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備	防災訓練や地域の自主防災組織への支援	高齢の方や障がいのある方など要援護者への対策の充実	スタンバイパイプ消火資機材の配備など、地域による防火対策の推進	建物の耐震化や市街地の浸水被害軽減に向けた治水対策の推進	消防救急体制の充実	その他	無回答
全体	2,451	43.3	60.9	8.0	29.7	5.0	23.1	13.8	1.3	2.0
【男性 全体】	1,008	43.0	61.5	8.5	28.3	5.3	22.9	15.9	1.3	1.0
男性 10歳代	25	28.0	60.0	8.0	36.0	12.0	36.0	12.0	4.0	-
男性 20歳代	85	41.2	65.9	8.2	17.6	4.7	34.1	8.2	-	2.4
男性 30歳代	140	42.9	74.3	6.4	10.7	5.7	30.0	14.3	1.4	0.7
男性 40歳代	179	45.8	59.2	8.4	30.2	3.4	20.7	17.3	1.7	0.6
男性 50歳代	156	42.9	64.7	7.7	22.4	6.4	26.9	16.0	1.9	0.6
男性 60歳代	197	38.1	60.9	11.2	38.6	6.1	17.3	16.2	-	0.5
男性 70歳以上	226	47.3	52.2	8.4	35.8	4.4	16.8	18.6	1.8	1.8
【女性 全体】	1,278	44.1	61.9	7.7	29.3	4.9	24.7	12.3	1.1	2.0
女性 10歳代	31	48.4	64.5	12.9	19.4	9.7	32.3	9.7	-	-
女性 20歳代	115	39.1	74.8	7.8	25.2	7.0	31.3	6.1	-	0.9
女性 30歳代	218	34.9	78.4	11.9	16.1	5.0	32.6	11.0	1.8	0.9
女性 40歳代	248	43.5	66.1	6.9	23.4	5.6	30.6	10.9	1.2	1.2
女性 50歳代	194	47.4	57.7	5.2	26.8	3.6	22.2	16.5	1.0	3.1
女性 60歳代	232	47.0	53.4	8.2	37.5	5.6	19.0	13.4	1.3	2.2
女性 70歳以上	232	49.1	47.8	5.2	46.1	2.6	13.8	13.8	0.9	3.9

【居住地域別】

居住地域別でみると、すべての地域において「食料や携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備」が1位、「避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備」が2位となっている。(図表5-5-2)

図表5-5-2 災害に関する取り組み—居住地域別

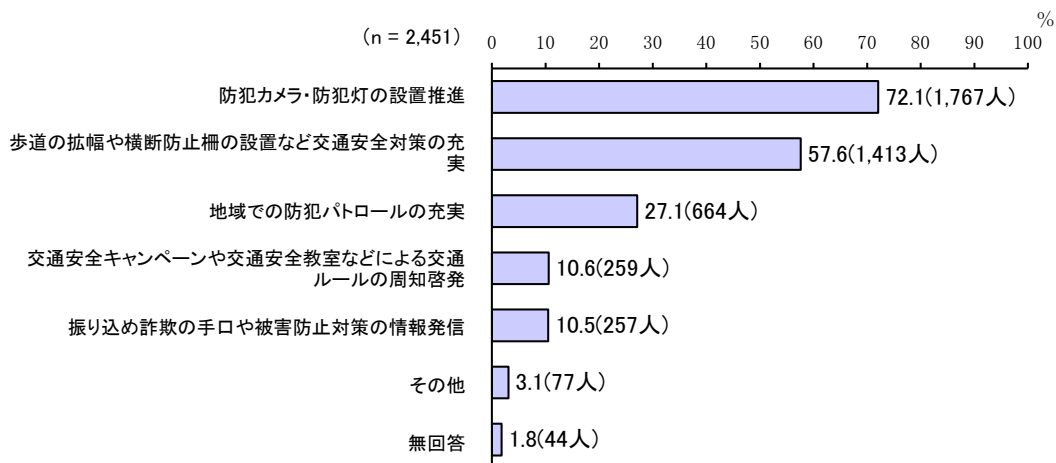
単位：%

	調査数 (n)	避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備	食料や携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備	防災訓練や地域の自主防災組織への支援	高齢の方や障がいのある方など要援護者への対策の充実	スタンバイ消火資機材の配備など、地域による防火対策の推進	建物の耐震化や市街地の浸水被害軽減に向けた治水対策の推進	消防救急体制の充実	その他	無回答
全 体	2,451	43.3	60.9	8.0	29.7	5.0	23.1	13.8	1.3	2.0
中央林間地区	256	45.3	60.9	10.5	25.4	4.3	23.8	16.0	0.8	1.6
つきみ野地区	230	42.2	58.3	7.4	27.8	10.4	27.4	16.5	0.4	0.9
南林間・鶴間地区	685	44.2	63.4	8.5	28.9	4.8	21.6	13.0	1.8	2.6
相模大塚地区	68	44.1	58.8	5.9	22.1	-	30.9	13.2	4.4	2.9
大和地区	418	43.5	63.6	6.5	27.3	5.3	22.7	15.1	1.2	1.7
桜ヶ丘地区	302	41.7	63.2	8.9	31.5	3.6	22.2	11.6	1.0	1.3
高座渋谷地区	248	42.7	59.7	9.7	33.9	3.6	23.8	13.7	0.8	1.6

問10 生活の安全性を高めるための取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

「防犯カメラ・防犯灯の設置推進」(72.1%)が最も多く7割強となっている。次いで、「歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実」(57.6%)、「地域での防犯パトロールの充実」(27.1%)、「交通安全キャンペーンや交通安全教室などによる交通ルールの周知啓発」(10.6%)の順となっている。(図表5-6)

図表5-6 生活の安全性に関する取り組み—全体



【性別・年齢別】

性別でみると、男女ともに「防犯カメラ・防犯灯の設置推進」が1位、「歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実」が2位となっている。

性別・年齢別でみると、「防犯カメラ・防犯灯の設置推進」では男性60歳代（79.2%）で8割弱と多くなっている。（図表5-6-1）

図表5-6-1 生活の安全性に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	防犯カメラ・防犯灯の設置推進	地域での防犯パトロールの充実	交通安全キャンペーンや交通安全教室などによる交通ルールの周知啓発	歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実	振り込め詐欺の手口や被害防止対策の情報発信	その他	無回答
全体	2,451	72.1	27.1	10.6	57.6	10.5	3.1	1.8
【男性 全体】	1,008	72.3	26.7	12.8	58.9	9.7	3.8	0.7
男性 10歳代	25	68.0	36.0	8.0	60.0	8.0	8.0	-
男性 20歳代	85	62.4	31.8	12.9	56.5	12.9	3.5	1.2
男性 30歳代	140	64.3	27.1	12.9	62.1	10.7	3.6	-
男性 40歳代	179	70.4	29.6	10.1	62.6	7.3	4.5	1.1
男性 50歳代	156	76.3	26.9	11.5	54.5	10.9	1.9	0.6
男性 60歳代	197	79.2	22.3	15.7	60.9	7.1	4.6	-
男性 70歳以上	226	74.3	24.8	13.7	56.2	11.5	3.5	1.3
【女性 全体】	1,278	72.3	28.2	8.5	57.8	10.5	2.7	1.9
女性 10歳代	31	67.7	29.0	6.5	64.5	12.9	3.2	-
女性 20歳代	115	75.7	34.8	5.2	59.1	10.4	0.9	-
女性 30歳代	218	65.6	35.3	7.3	66.5	6.4	1.8	0.5
女性 40歳代	248	74.6	30.6	6.9	58.5	9.7	3.2	1.2
女性 50歳代	194	74.7	23.7	6.7	58.8	12.4	4.1	2.6
女性 60歳代	232	75.0	19.0	9.1	59.5	11.2	3.0	2.2
女性 70歳以上	232	70.7	28.9	14.2	44.0	12.9	2.6	4.3

【居住地域別】

居住地域別で見ると、すべての地域において「防犯カメラ・防犯灯の設置推進」が1位、「歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実」が2位となっている。(図表5-6-2)

図表5-6-2 生活の安全性に関する取り組み—居住地域別

単位：%

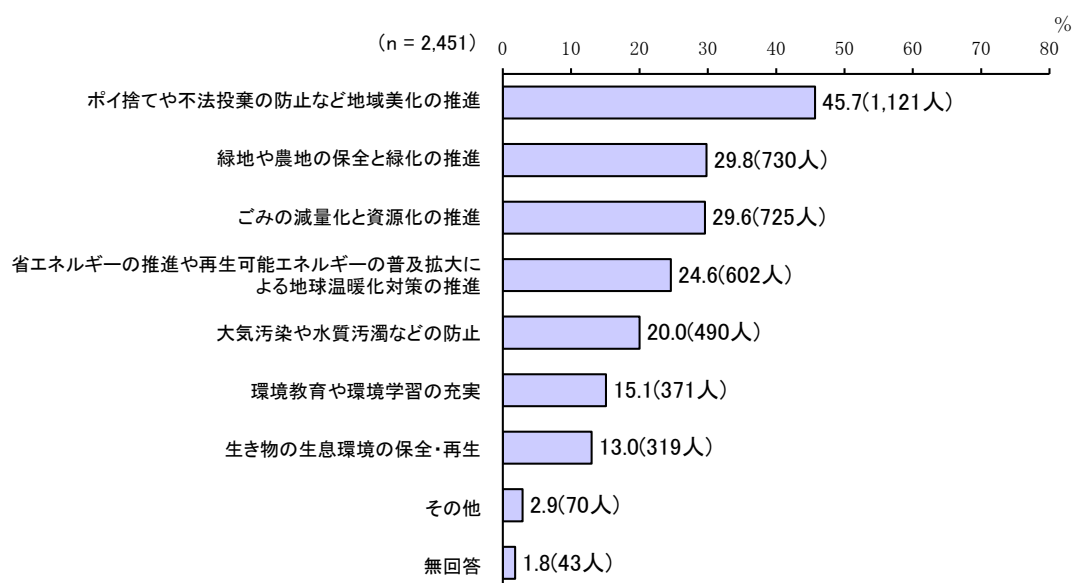
	調査数 (n)	防犯カメラ・防犯灯の設置 推進	地域での防犯パトロールの 充実	交通安全キャンペーンや交 通安全教室などによる交通 ルールの周知啓発	歩道の拡幅や横断防止柵の 設置など交通安全対策の充 実	振り込め詐欺の手口や被害 防止対策の情報発信	その他	無回答
全 体	2,451	72.1	27.1	10.6	57.6	10.5	3.1	1.8
中央林間地区	256	73.0	31.6	6.3	58.2	8.6	3.1	2.0
つきみ野地区	230	73.5	29.6	6.5	59.1	9.1	3.5	0.9
南林間・鶴間地区	685	69.6	25.0	11.5	61.6	9.6	3.9	2.6
相模大塚地区	68	70.6	19.1	11.8	63.2	16.2	-	-
大和地区	418	73.9	29.9	11.2	56.2	11.2	2.6	1.0
桜ヶ丘地区	302	78.5	24.2	8.3	57.3	8.6	2.3	1.0
高座渋谷地区	248	72.2	25.8	16.5	52.8	11.7	4.0	1.6

問 11 環境に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」(45.7%)が最も多く4割台半ばとなっている。次いで、「緑地や農地の保全と緑化の推進」(29.8%)、「ごみの減量化と資源化の推進」(29.6%)、「省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及拡大による地球温暖化対策の推進」(24.6%)、「大気汚染や水質汚濁などの防止」(20.0%)の順となっている。(図表5-7)

前回結果と比較すると、「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」は前回と変わらず1位となっており、「緑地や農地の保全と緑化の推進」が前回より1.7ポイント増加し、今回は2位となっている。また、前回2位であった「省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及拡大による地球温暖化対策の推進」は4.1ポイント減少し、4位となっている。(図表5-7-1)

図表5-7 環境に関する取り組み—全体



図表5-7-1 環境に関する取り組み—経年比較

単位：%

	平成 28 年度	平成 26 年度
調査数(n)	2,451	2,334
ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進	45.7	44.3
緑地や農地の保全と緑化の推進	29.8	28.1
ごみの減量化と資源化の推進	29.6	25.4
省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及拡大による地球温暖化対策の推進	24.6	28.7
大気汚染や水質汚濁などの防止	20.0	24.2
環境教育や環境学習の充実	15.1	13.5
生き物の生息環境の保全・再生	13.0	12.7
その他	2.9	3.5
無回答	1.8	2.4

【性別・年齢別】

性別でみると、男女ともに「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」が1位で、「緑地や農地の保全と緑化の推進」が女性2位、「ごみの減量化と資源化の推進」が男性2位となっている。

性別・年齢別でみると、男性50歳代では「省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及拡大による地球温暖化対策の推進」が2位、女性10歳代で「大気汚染や水質汚濁などの防止」が2位となっている。(図表5-7-2)

図表5-7-2 環境に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	ごみの減量化と資源化の推進	ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進	省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及拡大による地球温暖化対策の推進	緑地や農地の保全と緑化の推進	生き物の生息環境の保全・再生	環境教育や環境学習の充実	大気汚染や水質汚濁などの防止	その他	無回答
全体	2,451	29.6	45.7	24.6	29.8	13.0	15.1	20.0	2.9	1.8
【男性 全体】	1,008	30.9	47.8	24.7	29.2	15.1	16.4	16.8	3.2	1.0
男性 10歳代	25	28.0	52.0	12.0	32.0	28.0	12.0	28.0	-	-
男性 20歳代	85	34.1	47.1	20.0	28.2	12.9	15.3	21.2	1.2	3.5
男性 30歳代	140	27.9	46.4	23.6	32.1	11.4	16.4	19.3	5.0	-
男性 40歳代	179	27.4	50.8	21.8	29.1	16.2	20.7	13.4	4.5	1.1
男性 50歳代	156	24.4	52.6	29.5	28.2	18.6	13.5	13.5	2.6	0.6
男性 60歳代	197	35.0	46.2	25.9	28.9	16.2	15.2	14.2	3.0	1.0
男性 70歳以上	226	35.4	44.2	26.5	28.3	12.4	16.8	19.5	2.7	0.9
【女性 全体】	1,278	28.8	45.3	23.5	30.4	11.6	14.7	22.5	2.7	1.7
女性 10歳代	31	19.4	74.2	3.2	25.8	9.7	12.9	35.5	-	-
女性 20歳代	115	35.7	40.9	13.0	40.0	14.8	13.9	27.8	2.6	-
女性 30歳代	218	29.4	47.2	19.7	33.5	11.9	17.9	19.7	2.8	0.9
女性 40歳代	248	29.8	41.9	27.0	27.8	13.7	19.8	20.6	1.6	1.2
女性 50歳代	194	23.2	41.2	25.3	27.3	13.4	12.4	22.7	4.6	2.6
女性 60歳代	232	28.0	41.8	31.9	32.8	12.1	15.1	19.8	1.7	1.3
女性 70歳以上	232	30.6	52.6	21.6	26.3	5.2	9.1	25.4	3.9	3.4

【居住地域別】

居住地域別で見ると、すべての地域において「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」が1位となっている。また、中央林間地区とつきみ野地区では「緑地や農地の保全と緑化の推進」が他の地区と比較して多くなっている。(図表5-7-3)

図表5-7-3 環境に関する取り組み—居住地域別

単位：%

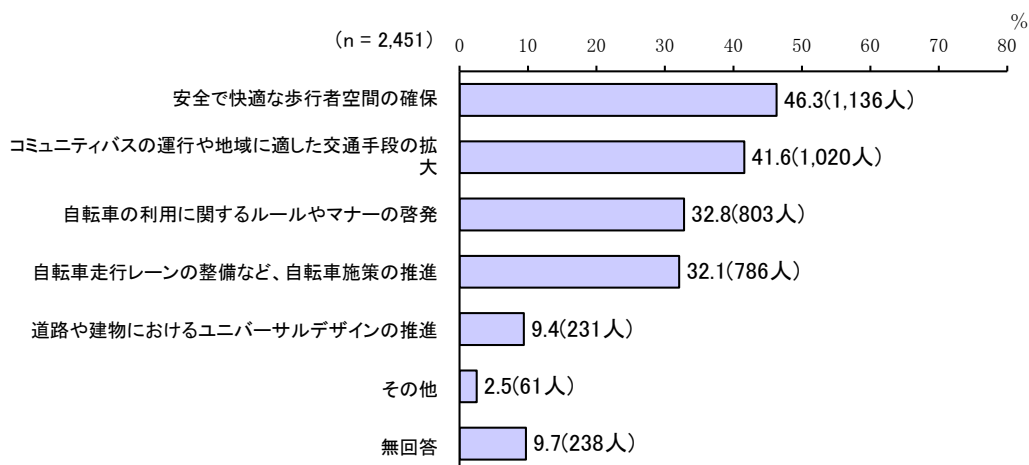
	調査数 (n)	ごみの減量化と資源化の推進	ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進	省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及拡大による地球温暖化対策の推進	緑地や農地の保全と緑化の推進	生き物の生息環境の保全・再生	環境教育や環境学習の充実	大気汚染や水質汚濁などの防止	その他	無回答
全 体	2,451	29.6	45.7	24.6	29.8	13.0	15.1	20.0	2.9	1.8
中央林間地区	256	34.8	39.8	25.0	39.5	12.1	10.2	15.2	3.1	1.6
つきみ野地区	230	29.1	40.0	26.5	38.3	10.0	14.8	19.1	4.8	0.9
南林間・鶴間地区	685	30.2	47.3	22.5	28.8	11.7	17.7	20.0	3.4	2.3
相模大塚地区	68	32.4	39.7	20.6	29.4	11.8	19.1	25.0	-	1.5
大和地区	418	29.7	47.6	24.9	28.7	13.4	13.4	19.9	2.6	1.4
桜ヶ丘地区	302	28.5	46.0	26.5	25.2	15.6	14.6	22.8	2.0	1.0
高座渋谷地区	248	27.4	56.0	25.8	23.4	13.7	16.5	21.0	1.6	0.8

問 12 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

「安全で快適な歩行者空間の確保」(46.3%)が最も多く5割近くとなっている。次いで、「コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大」(41.6%)、「自転車の利用に関するルールやマナーの啓発」(32.8%)、「自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進」(32.1%)の順となっている。(図表5-8)

前回結果と比較すると、「安全で快適な歩行者空間の確保」が1位、「コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大」が2位となり、前回同様の順位となった。また、前回3位であった「自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進」は9.1ポイント減少し、4位となっている。(図表5-8-1)

図表5-8 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組み—全体



図表5-8-1 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組み—経年比較

単位：%

	平成 28 年度	平成 26 年度
調査数(n)	2,451	2,334
安全で快適な歩行者空間の確保	46.3	50.6
コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大	41.6	42.2
自転車の利用に関するルールやマナーの啓発	32.8	33.9
自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進	32.1	41.2
道路や建物におけるユニバーサルデザインの推進	9.4	9.8
その他	2.5	3.0
無回答	9.7	1.9

【性別・年齢別】

性別でみると、男性では「安全で快適な歩行者空間の確保」が1位、「自転車の利用に関するルールやマナーの啓発」が2位となっており、女性では「コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大」が1位、「安全で快適な歩行者空間の確保」が2位となっている。

性別・年齢別でみると、男女ともに10歳代で「自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進」が5割以上と多くなっている。(図表5-8-2)

図表5-8-2 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大	自転車の利用に関するルールやマナーの啓発	自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進	安全で快適な歩行者空間の確保	道路や建物におけるユニバーサルデザインの推進	その他	無回答
全体	2,451	41.6	32.8	32.1	46.3	9.4	2.5	9.7
【男性 全体】	1,008	36.9	37.6	31.6	47.1	10.0	2.9	10.1
男性 10歳代	25	28.0	32.0	52.0	48.0	12.0	-	8.0
男性 20歳代	85	35.3	25.9	34.1	42.4	15.3	2.4	11.8
男性 30歳代	140	30.0	30.7	38.6	55.0	12.9	6.4	7.1
男性 40歳代	179	41.9	38.0	30.2	44.1	11.7	4.5	7.3
男性 50歳代	156	37.8	44.2	30.8	42.9	11.5	1.3	9.0
男性 60歳代	197	36.5	43.1	27.4	48.2	8.1	2.0	11.7
男性 70歳以上	226	38.5	37.2	29.6	48.2	5.3	1.8	13.3
【女性 全体】	1,278	46.9	29.1	32.6	46.1	9.5	2.3	7.7
女性 10歳代	31	35.5	19.4	58.1	38.7	32.3	-	-
女性 20歳代	115	39.1	26.1	40.0	53.9	18.3	-	4.3
女性 30歳代	218	46.3	21.6	40.8	48.2	9.2	3.2	6.0
女性 40歳代	248	49.2	26.6	37.1	45.2	8.1	2.8	5.6
女性 50歳代	194	50.0	29.4	28.9	44.8	9.3	3.6	7.7
女性 60歳代	232	41.8	38.8	28.0	42.2	10.3	2.6	9.5
女性 70歳以上	232	53.4	31.0	20.7	46.6	3.4	0.9	12.9

【居住地域別】

居住地域別で見ると、つきみ野地区を除くすべての地域において「安全で快適な歩行者空間の確保」が1位となっている。また、つきみ野地区、相模大塚地区では「コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大」が5割以上と多くなっている。(図表5-8-3)

図表5-8-3 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組み—居住地域別

単位：%

	調査数(n)	コミュニティバス の運行や地域に 適した交通 手段の拡大	自転車や マナーの啓 発	自転車 走行レー ンの整 備など、 自転車 施策の推 進	安全で 快適な 歩行者 空間の 確保	道路や 建物に おける ユニ バー サル デザ インの 推進	その他	無回答
全 体	2,451	41.6	32.8	32.1	46.3	9.4	2.5	9.7
中央林間地区	256	39.5	37.5	33.2	51.2	12.1	3.1	2.7
つきみ野地区	230	58.7	27.4	30.0	48.3	11.3	3.0	2.2
南林間・鶴間地区	685	43.2	36.2	39.1	49.9	8.9	2.9	3.2
相模大塚地区	68	55.9	30.9	23.5	55.9	13.2	-	2.9
大和地区	418	41.6	34.2	34.9	50.5	9.6	2.9	3.8
桜ヶ丘地区	302	43.4	34.8	34.1	49.0	9.6	1.7	3.0
高座渋谷地区	248	45.2	41.5	27.4	49.2	10.1	3.2	2.8

【こどもの有無別】

こどもの有無別でみると、小学生以上 18 歳未満のこどもがいる人以外では「安全で快適な歩行者空間の確保」が 1 位となっている。また、小学生以上 18 歳未満のこどもがいる人では「コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大」が 4 割台半ばと多くなっている。

(図表 5-8-4)

図表 5-8-4 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組み—こどもの有無別

単位：%

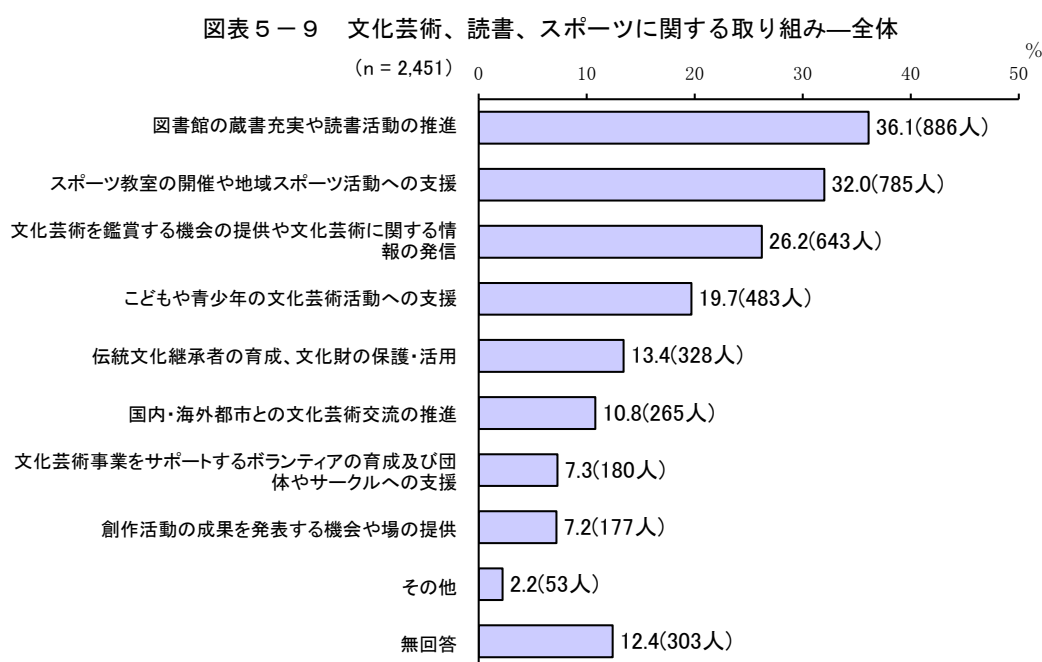
区分	有効回答数(件)	コミュニティバス の運行や地域に 適した交通手段 の拡大	自転車やマナー の啓発に関する 利用	自転車走行レーン の整備など、 自転車施策の 推進	安全で快適な歩 行者空間の確保	道路や建物にお けるユニバーサ ルデザインの 推進	その他	無回答
全体	2,451	41.6	32.8	32.1	46.3	9.4	2.5	9.7
いる(未就学のお子さんのみ)	251	43.0	24.7	35.9	57.0	10.0	2.8	6.4
いる(小学生以上 18 歳未満のお子さんのみ)	271	45.0	25.5	35.1	42.4	10.7	2.2	8.1
いる(未就学と小学生以上 18 歳未満のお子さんどちらも)	147	36.7	29.9	33.3	42.9	12.9	6.8	8.8
いない	1,478	41.2	35.5	31.5	46.8	9.4	2.2	9.7

問 13 文化芸術、読書、スポーツに関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

「図書館の蔵書充実や読書活動の推進」(36.1%)が最も多く4割近くとなっている。次いで、「スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援」(32.0%)、「文化芸術を鑑賞する機会の提供や文化芸術に関する情報の発信」(26.2%)、「子どもや青少年の文化芸術活動への支援」(19.7%)の順となっている。(図表5-9)

前回結果と比較すると、上位3項目の「図書館の蔵書充実や読書活動の推進」、「スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援」、「文化芸術を鑑賞する機会の提供や文化芸術に関する情報の発信」に変わりはなく、その他の項目についても前回と同様の傾向となっている。

(図表5-9-1)



図表5-9-1 文化芸術、読書、スポーツに関する取り組み—経年比較

単位：%

	平成 28 年度	平成 26 年度
調査数(n)	2,451	2,334
図書館の蔵書充実や読書活動の推進	36.1	35.9
スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援	32.0	33.6
文化芸術を鑑賞する機会の提供や文化芸術に関する情報の発信	26.2	28.7
子どもや青少年の文化芸術活動への支援	19.7	21.1
伝統文化継承者の育成、文化財の保護・活用	13.4	14.8
国内・海外都市との文化芸術交流の推進	10.8	12.4
文化芸術事業をサポートするボランティアの育成及び団体やサークルへの支援	7.3	9.3
創作活動の成果を発表する機会や場の提供	7.2	6.9
その他	2.2	2.8
無回答	12.4	5.7

【性別・年齢別】

性別でみると、「スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援」が男性1位で女性3位、「図書館の蔵書充実や読書活動の推進」が女性1位で男性2位、「文化芸術を鑑賞する機会の提供や文化芸術に関する情報の発信」が女性2位で男性3位となっている。

性別・年齢別でみると、女性では「図書館の蔵書充実や読書活動の推進」が10歳代～50歳代で多く、「文化芸術を鑑賞する機会の提供や文化芸術に関する情報の発信」が60歳代と70歳以上で多くなっている。男性では「スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援」が10歳代～40歳代で4割以上と多くなっている。(図表5-9-2)

図表5-9-2 文化芸術、読書、スポーツに関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	図書館の蔵書充実や読書活動の推進	スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援	子どもや青少年の文化芸術活動への支援	文化芸術を鑑賞する機会の提供や文化芸術に関する情報の発信	伝統文化継承者の育成、文化財の保護・活用	創作活動の成果を発表する機会や場の提供	国内・海外都市との文化芸術交流の推進	文化芸術事業をサポートするボランティアの育成及び団体やサークルへの支援	その他	無回答
全 体	2,451	36.1	32.0	19.7	26.2	13.4	7.2	10.8	7.3	2.2	12.4
【男性 全体】	1,008	33.3	37.1	20.9	21.6	14.5	8.8	11.2	6.4	2.4	13.0
男性 10 歳代	25	24.0	48.0	16.0	12.0	24.0	8.0	20.0	-	4.0	8.0
男性 20 歳代	85	36.5	45.9	16.5	12.9	9.4	14.1	8.2	2.4	3.5	16.5
男性 30 歳代	140	30.7	48.6	22.9	13.6	12.9	12.9	17.1	1.4	4.3	8.6
男性 40 歳代	179	35.2	43.0	25.1	16.8	14.0	7.8	11.7	6.1	3.9	8.9
男性 50 歳代	156	40.4	33.3	15.4	23.1	15.4	9.6	16.7	6.4	0.6	10.3
男性 60 歳代	197	34.0	28.9	22.3	31.5	15.7	2.0	9.1	10.7	2.0	14.2
男性 70 歳以上	226	27.9	30.5	21.2	25.2	15.0	10.6	5.3	8.4	0.9	19.0
【女性 全体】	1,278	39.7	28.6	19.1	30.0	13.0	6.0	11.3	7.7	1.8	9.9
女性 10 歳代	31	48.4	35.5	6.5	19.4	6.5	3.2	41.9	6.5	-	-
女性 20 歳代	115	47.8	34.8	16.5	20.0	15.7	12.2	18.3	4.3	1.7	5.2
女性 30 歳代	218	48.2	35.8	21.6	17.9	12.8	4.6	15.1	3.2	1.8	6.0
女性 40 歳代	248	46.8	30.6	21.4	26.2	14.5	5.2	10.9	8.1	2.0	6.5
女性 50 歳代	194	41.2	24.7	15.5	38.7	13.4	6.2	12.4	7.2	2.1	8.8
女性 60 歳代	232	32.8	22.0	22.4	40.5	11.2	5.2	6.0	12.1	1.7	12.5
女性 70 歳以上	232	24.6	24.1	17.7	34.5	11.6	6.5	4.7	9.9	1.7	19.8

【居住地域別】

居住地域別で見ると、中央林間地区、つきみ野地区では「図書館の蔵書充実や読書活動の推進」が4割台半ばと他の地区と比較して多くなっている。また、相模大塚地区では「スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援」が4割強と多くなっている。(図表5-9-3)

図表5-9-3 文化芸術、読書、スポーツに関する取り組み—居住地域別

単位：%

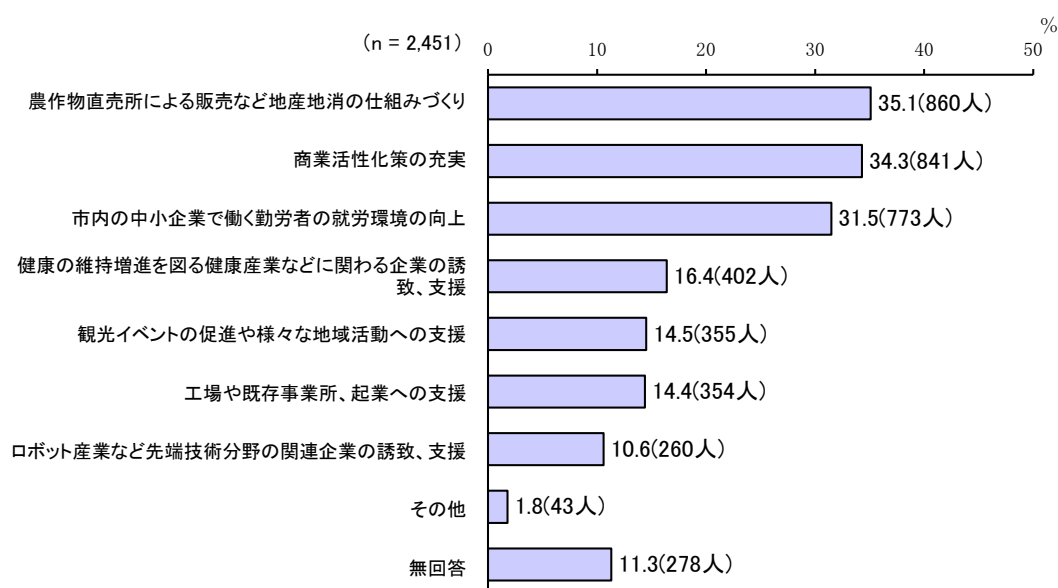
	調査数 (n)	図書館の蔵書充実や読書活動の推進	スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援	子どもや青少年の文化芸術活動への支援	文化芸術を鑑賞する機会の提供や文化芸術に関する情報の発信	伝統文化継承者の育成、文化財の保護・活用	創作活動の成果を発表する機会や場の提供	国内・海外都市との文化芸術交流の推進	文化芸術事業をサポートするボランティアの育成及び団体やサークルへの支援	その他	無回答
全 体	2,451	36.1	32.0	19.7	26.2	13.4	7.2	10.8	7.3	2.2	12.4
中央林間地区	256	45.7	31.3	16.4	27.0	12.1	6.3	12.9	8.2	2.7	6.6
つきみ野地区	230	45.7	35.2	20.9	26.1	11.7	5.2	13.9	5.7	2.6	4.8
南林間・鶴間地区	685	39.1	34.3	21.0	28.6	14.0	9.8	11.1	7.6	2.3	5.5
相模大塚地区	68	33.8	41.2	23.5	19.1	25.0	-	10.3	10.3	4.4	2.9
大和地区	418	35.6	36.4	22.0	33.0	14.1	7.7	11.7	7.9	1.4	5.3
桜ヶ丘地区	302	36.4	32.1	25.2	26.5	16.9	6.3	9.6	8.3	2.3	6.6
高座渋谷地区	248	34.3	35.1	20.2	27.0	15.7	9.3	10.5	8.9	2.8	7.3

問 14 地域経済の活性化に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

「農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり」(35.1%) が最も多く 3 割台半ばとなっている。次いで、「商業活性化策の充実」(34.3%)、「市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上」(31.5%)、「健康の維持増進を図る健康産業などに関わる企業の誘致、支援」(16.4%) の順となっている。(図表 5-10)

前回結果と比較すると、「農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり」が 1 位、「商業活性化策の充実」が 2 位、「市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上」が 3 位で、前回同様となっている。(図表 5-10-1)

図表 5-10 地域経済の活性化に関する取り組み—全体



図表 5-10-1 地域経済の活性化に関する取り組み—経年比較

単位：%

	平成 28 年度	平成 26 年度
調査数(n)	2,451	2,334
農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり	35.1	47.0
商業活性化策の充実	34.3	43.8
市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上	31.5	39.3
健康の維持増進を図る健康産業などに関わる企業の誘致、支援	16.4	-
観光イベントの促進や様々な地域活動への支援	14.5	19.7
工場や既存事業所、起業への支援	14.4	16.8
ロボット産業など先端技術分野の関連企業の誘致、支援	10.6	-
その他	1.8	2.0
無回答	11.3	3.8

【性別・年齢別】

性別でみると、男性では「商業活性化策の充実」が1位、「市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上」が2位となっており、女性では「農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり」が1位、「商業活性化策の充実」が2位となっている。

性別・年齢別でみると、男性10歳代では「健康の維持増進を図る健康産業などに関わる企業の誘致、支援」が3割強と多くなっており、女性10歳代では「市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上」が5割強と多くなっている。(図表5-10-2)

図表5-10-2 地域経済の活性化に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	商業活性化策の充実	工場や既存事業所、起業への支援	ロボット産業など先端技術分野の関連企業の誘致、支援	健康の維持増進を図る健康産業などに関わる企業の誘致、支援	市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上	農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり	観光イベントの促進や様々な地域活動への支援	その他	無回答
全体	2,451	34.3	14.4	10.6	16.4	31.5	35.1	14.5	1.8	11.3
【男性 全体】	1,008	35.8	18.2	15.3	17.2	31.3	26.1	15.4	1.7	11.4
男性 10歳代	25	28.0	8.0	8.0	32.0	28.0	24.0	24.0	-	12.0
男性 20歳代	85	36.5	11.8	14.1	18.8	37.6	9.4	17.6	4.7	15.3
男性 30歳代	140	41.4	20.0	15.7	14.3	30.7	24.3	20.7	2.1	7.9
男性 40歳代	179	39.7	25.7	14.5	16.2	33.5	19.0	17.9	1.1	8.4
男性 50歳代	156	38.5	19.9	12.8	15.4	33.3	28.8	14.7	2.6	9.0
男性 60歳代	197	36.5	15.7	16.2	16.2	29.4	32.0	11.7	1.5	12.7
男性 70歳以上	226	27.4	15.5	17.7	19.5	28.3	32.3	11.9	0.4	15.0
【女性 全体】	1,278	34.5	11.7	7.1	15.7	32.6	41.8	14.0	1.8	9.5
女性 10歳代	31	32.3	6.5	-	25.8	51.6	32.3	22.6	-	-
女性 20歳代	115	34.8	13.9	4.3	23.5	37.4	32.2	20.9	2.6	6.1
女性 30歳代	218	32.6	11.5	5.0	11.9	35.8	44.0	18.3	2.8	6.4
女性 40歳代	248	35.9	15.3	8.5	13.3	30.2	39.9	17.7	2.0	6.0
女性 50歳代	194	40.2	10.8	10.8	11.9	37.1	44.3	11.3	1.5	7.2
女性 60歳代	232	37.1	12.9	6.9	17.2	26.7	42.2	8.2	2.2	12.5
女性 70歳以上	232	27.6	7.3	7.3	18.5	28.9	44.0	9.1	0.4	18.5

【居住地域別】

居住地域別で見ると、南林間・鶴間地区では「農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり」が、大和地区では「商業活性化策の充実」が、高座渋谷地区では「農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり」と「市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上」が4割以上と多くなっている。(図表5-10-3)

図表5-10-3 地域経済の活性化に関する取り組み—居住地域別

単位：%

	調査数(n)	商業活性化策の充実	工場や既存事業所、起業への支援	ロボット産業など先端技術分野の関連企業の誘致、支援	健康の維持増進を図る健康産業などに関わる企業の誘致、支援	市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上	農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり	観光イベントの促進や様々な地域活動への支援	その他	無回答
全 体	2,451	34.3	14.4	10.6	16.4	31.5	35.1	14.5	1.8	11.3
中央林間地区	256	36.7	16.0	14.8	16.8	30.5	38.3	11.3	2.0	6.6
つきみ野地区	230	36.5	16.5	13.9	21.7	27.8	37.8	13.0	2.2	3.9
南林間・鶴間地区	685	35.2	15.9	9.5	17.5	38.5	40.1	14.9	1.8	4.4
相模大塚地区	68	35.3	25.0	11.8	19.1	27.9	30.9	17.6	1.5	1.5
大和地区	418	42.6	14.6	11.5	16.3	28.9	32.8	19.9	2.4	6.2
桜ヶ丘地区	302	37.1	14.9	10.3	18.5	32.5	37.1	15.6	1.7	5.0
高座渋谷地区	248	32.3	13.3	12.1	15.3	40.7	42.7	15.7	1.2	3.6

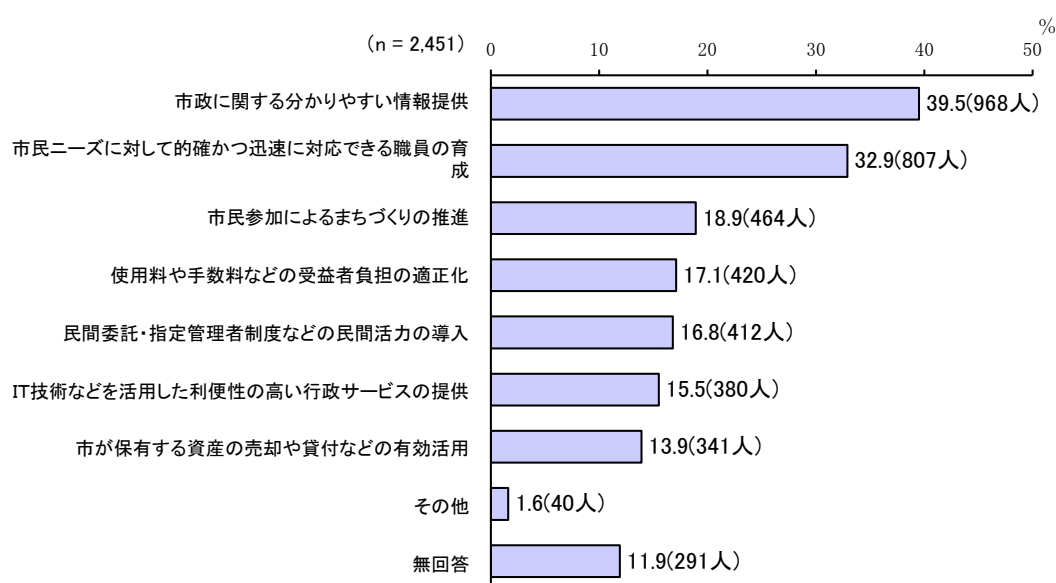
問 15 行政経営に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

「市政に関する分かりやすい情報提供」(39.5%)が最も多く4割弱となっている。次いで、「市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成」(32.9%)、「市民参加によるまちづくりの推進」(18.9%)、「使用料や手数料などの受益者負担の適正化」(17.1%)の順となっている。(図表5-11)

前回結果と比較すると、「市政に関する分かりやすい情報提供」が1位、「市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成」が2位で、前回同様となっている。

(図表5-11-1)

図表5-11 行政経営に関する取り組み—全体



図表5-11-1 行政経営に関する取り組み—経年比較

単位：%

	平成 28 年度	平成 26 年度
調査数(n)	2,451	2,334
市政に関する分かりやすい情報提供	39.5	39.4
市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成	32.9	33.4
市民参加によるまちづくりの推進	18.9	19.8
使用料や手数料などの受益者負担の適正化	17.1	15.6
民間委託・指定管理者制度などの民間活力の導入	16.8	16.2
IT技術などを活用した利便性の高い行政サービスの提供	15.5	15.8
市が保有する資産の売却や貸付などの有効活用	13.9	14.8
その他	1.6	2.0
無回答	11.9	10.3

【性別・年齢別】

性別でみると、男女ともに「市政に関する分かりやすい情報提供」が1位、「市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成」が2位となっている。

性別・年齢別でみると、男女ともに10歳代では「市民参加によるまちづくりの推進」が3割以上と多くなっている。また、男性30歳代では「IT技術などを活用した利便性の高い行政サービスの提供」が他の年代と比較して多くなっている。(図表5-11-2)

図表5-11-2 行政経営に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数(n)	市政に関する分かりやすい情報提供	民間委託・指定管理者制度などの民間活力の導入	市民参加によるまちづくりの推進	IT技術などを活用した利便性の高い行政サービスの提供	市が保有する資産の売却や貸付などの有効活用	使用料や手数料などの受益者負担の適正化	市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成	その他	無回答
全体	2,451	39.5	16.8	18.9	15.5	13.9	17.1	32.9	1.6	11.9
【男性 全体】	1,008	37.5	20.0	19.9	20.6	14.1	17.4	30.0	1.8	11.2
男性 10歳代	25	32.0	12.0	36.0	24.0	8.0	24.0	32.0	-	8.0
男性 20歳代	85	36.5	15.3	21.2	23.5	11.8	20.0	23.5	2.4	11.8
男性 30歳代	140	33.6	20.0	13.6	30.7	22.1	22.1	24.3	2.1	7.1
男性 40歳代	179	35.2	20.1	19.6	24.6	16.8	22.9	27.9	1.7	8.4
男性 50歳代	156	37.8	20.5	14.7	25.0	13.5	12.8	36.5	1.9	10.3
男性 60歳代	197	36.5	23.9	20.3	17.3	11.7	15.2	33.0	1.0	13.7
男性 70歳以上	226	43.4	19.0	25.2	9.7	11.1	13.3	30.1	2.2	14.6
【女性 全体】	1,278	40.6	14.9	17.8	12.5	14.3	18.1	36.0	1.3	10.5
女性 10歳代	31	38.7	12.9	35.5	16.1	12.9	32.3	29.0	-	-
女性 20歳代	115	37.4	12.2	23.5	14.8	16.5	29.6	30.4	0.9	5.2
女性 30歳代	218	43.1	14.7	17.4	16.1	13.8	20.6	30.3	2.3	7.8
女性 40歳代	248	39.5	16.9	17.7	18.5	12.9	16.1	37.9	1.2	6.5
女性 50歳代	194	40.2	14.9	16.5	12.9	14.9	16.0	40.2	2.1	9.8
女性 60歳代	232	40.1	14.7	16.4	7.8	15.9	13.8	44.8	1.3	12.5
女性 70歳以上	232	42.2	15.1	15.1	5.6	13.4	15.9	31.0	0.4	19.8

【居住地域別】

居住地域別でみると、すべての地域において「市政に関する分かりやすい情報提供」が1位、「市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成」が2位となっている。

(図表5-11-3)

図表5-11-3 行政経営に関する取り組み—居住地域別

単位：％

	調査数(n)	市政に関する分かりやすい情報提供	民間委託・指定管理者制度などの民間活力の導入	市民参加によるまちづくりの推進	IT技術などを活用した利便性の高い行政サービスの提供	市が保有する資産の売却や貸付などの有効活用	使用料や手数料などの受益者負担の適正化	市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成	その他	無回答
全 体	2,451	39.5	16.8	18.9	15.5	13.9	17.1	32.9	1.6	11.9
中央林間地区	256	37.1	19.5	18.8	21.9	16.4	16.0	33.2	1.6	6.3
つきみ野地区	230	40.4	20.4	18.7	25.2	13.9	12.6	36.1	1.7	4.8
南林間・鶴間地区	685	44.8	18.7	18.4	16.6	15.2	18.7	35.8	2.2	5.3
相模大塚地区	68	38.2	20.6	23.5	22.1	14.7	17.6	35.3	2.9	2.9
大和地区	418	41.9	17.7	21.8	16.3	13.4	20.6	36.8	1.7	5.0
桜ヶ丘地区	302	43.4	16.9	21.5	12.3	13.9	18.5	32.5	1.0	6.6
高座渋谷地区	248	42.7	12.9	23.0	10.5	17.3	21.0	38.3	0.8	5.6

Ⅲ まちづくりに関する意見・要望

回答者2,451人のうち1,035人からまちづくりに関する意見や要望があった。そのうち特に多かった記載事項は次のとおりとなっている。

- ◇ 道路整備について（歩道・車道が凸凹している、道が狭い など）（約150件）
- ◇ 防犯について（街灯が少なく夜が暗い、防犯カメラ・防犯灯の増設 など）（約90件）
- ◇ 商業・産業について（駅ビルの整備、歩いて行けるとところにスーパーがない など）（約90件）
- ◇ 基地について（騒音について など）（約70件）
- ◇ 子育て支援について（保育所の増設、こどもが遊べる遊具のある公園が少ない など）（約50件）

自由記述の回答について、主な意見の内容を基本目標別に分類して掲載した。内容については意見の趣旨を損なわないよう、一部要約したのものもある。

◎ 基本目標 1 一人ひとりがいつまでも元気でいられるまち ◎

◆健康づくりのための施策について

- 遊歩道やベンチに運動器具を設置してほしい。

◆医療体制について

- 相模大塚方面に病院を増やしてほしいです（小児科や耳鼻科、皮膚科など）。夜間・休日などの救急で耳鼻科があると助かります。
- 夜間受診可能なクリニックの増設。

◆高齢の方への支援について

- 高齢者が住み良く安心なまちづくりをして欲しいです。子世代も仕事と介護の両立はなかなか大変です。高齢者にとって病院とスーパーは命綱です。子世代に頼らずに自分で行けるような仕組みがあったら嬉しいです。
- 60歳以上が増加していますので、体操（体を動かす）サークルや趣味のサークルができるように、コミュニティセンターをもっと作ってほしい。

◆障がい者への支援について

- 高齢者だけでなく障がい児に対するサービスの充実をお願いします。県内の他市と比べると大和市は遅れていると思います。
- 特別支援学校の建設、障がい児向けデイサービスの充実。療育機関の充実。

◎ 基本目標2 こどもが生き生きと育つまち ◎

◆こどもの健康や安全について

- 子を持つ親としては、外で遊ぶ場所のなさに驚きます。週末の学校はサッカーや野球チームが使っているし、平日のボール遊びは公園でできないし、住宅街の道でも車が通り安全に遊ばせん。

◆こどもの教育や学校教育について

- こどもの育成やこどもが自ら進んで行うボランティア活動、その育成の場を増やしていただけるとありがたいと思います。
- 高齢者への理解を深めるためにも小学校、中学校での交流会やイベントを定期的に行ってもらえたらと思います。

◆こどもを産み育てやすい環境づくりについて

- 子育て情報やイベントなど、いつどこで何をやっているか一覧表があると便利。イベントごとのチラシをいちいちチェックするのが面倒なので。
- 子育て、仕事の両立ができるよう、保育園へ入りやすい環境と、保育士の育成に力を入れていただきたいと思います。
- 以前、孫たちと買い物やお祭りに行った時、駅前に授乳施設がないことがとても不便に感じました。気軽に安心して使える所があると良いと思いました。

◎ 基本目標3 安全と安心が感じられるまち ◎

◆防災について

- 万が一の災害時の避難場所を普段から誰もが見える所に表示しておいて欲しいです（地域ごとに）。
- 防災行政無線が聞こえない。本当に緊急事態が発生したとき、こんなことでいいのかと考えるとぞっとする思いです。至急対策が必要ではないかと思えます。
- スタンドパイプに実際に触れる講習会をやってほしい。紙面で使い方を見たが、実物でやってみないといざという時できないと思う。

◆防犯について

- 防犯カメラ、防犯灯の設置は早急にしてほしい。暗い道が多い。
- 森や林が多く、静かな住環境はとても良いのだが、こどもが産まれてからは、街灯の少なさや暗さ等、防犯の点で心配な地域だなと感じるようになった。

◆基地について

- 飛行機の騒音には耐えられません。大和市だけの問題ではないと思いますが、もっと国や基地に対して抗議してほしいと思います。

◎ 基本目標 4 環境を守り育てるまち ◎

◆ごみの減量化、資源化について

- 公園の清掃をしていますが、ごみ箱に家庭ごみが入っていたり、たばこのポイ捨てが毎日あつたりします。疑似カメラの設置など何か対策を考えた方が良いと思います。
- ごみ回収で有料袋を使うのであれば、カラス被害用ネット等を提供してもらいたい。

◆生活環境について

- 歩きたばこをしている方がたくさんいて、こどもと散歩しているときもとても気になります。一部の場所で道路や電信柱に「歩きたばこはやめましょう」等の張り紙がありますが、少ないように思います。

◆まちの緑について

- 市内は緑の木々が公園、保存林、遊歩道など多くあるように見えるが、整備や清掃がされておらず、近寄りがたい（ところもある）。通常緑があればそこに近づきゆっくりしたいと思うものだが、手入れをしないことにはその気にはならないものと気づかされた。

◎ 基本目標 5 快適な都市空間が整うまち ◎

◆道路や公園の整備について

- 歩道が狭かったり、でこぼこだったりで歩きにくいことがある。車椅子や杖をついた人にも優しいまちづくりをしてほしい。
- 狭い道が多いので、電柱を地下に埋めていただきたい。
- こどもの遊べる公園があまりない。歩いて行ける公園がほしいです。

◆コミュニティバスについて

- 横浜、厚木の方では高齢の方はバスの割引制度があります。大和ではないのですが、高齢の方は年金暮らしのため、少しでも考えていただければと思います。
- バス停が遠く利用できないお年寄りが多くいます。コミセンにバス停ができるといいのですが。
- コミュニティバスの本数を増やしてほしい。

◆自転車利用について

- 自転車レーンがある道路で、歩道を通行する自転車の取り締まりを行うべき。こどもの通学が危ない状態です。
- 自治会及び学校で自転車の運転マナー安全講習を行ってもらいたい。事故が目立っているから。
- 自転車走行レーンに車が停まれないようにしてほしい。

◎ 基本目標 6 豊かな心を育むまち ◎

◆文化施設・活動について

- 文化創造拠点シリウスに期待しています。芸術が身近になって、図書館も行きやすくなって、嬉しいです。
- 北部地域にもイコーザのような充実した施設を是非つくってほしい。

◆スポーツ施設・活動について

- 大和市は近隣の市と比較して、市のスポーツ施設が少ないと思われます。プール（屋内外を問わず）や体育館など、他の市は複数あります。
- 気軽にスポーツ、運動ができる施設、環境の整備。とくに社会人が使用しやすいもの。時間、曜日等の充実。
- 大和市主催の一般市民が参加できる（小学生からお年寄りまで参加可能）マラソン大会は開催できませんか。10数年前の「まほろばマラソン」のような大会を望んでいます。

◆歴史や文化の継承について

- 大和市に中小企業の工場というイメージから脱し、世界文化遺産レベルの文化芸術のこどもたちへの普及や伝承を踏まえた助成を行い、文化的レベルを上げて欲しいと思う。

◎ 基本目標 7 市民の活力があふれるまち ◎

◆多文化共生について

- 外国人が多いということも特性だと思いますので、整備も大切ですが、そういう個性を活かしたまちづくりにも期待しています。

◆商業・産業について

- 交通利便性が良いので、企業本社の受け入れや企業の支援を積極的に行い、市や県の活性化につなげてほしいです。
- 駅前の活気がここ数年で急速に減退しているように感じます。企業の誘致や再開発など、改善できないでしょうか。
- 大きなスーパーやショッピングモールが生き残る町ではなく、小さな個人商店が多く残るような街づくりをしていただけたらと思います。
- 60歳以上の再就職ができるよう、ハローワークだけでなく市政でも可能な限り、紹介できる仕組みをつくっていただきたい。

◆地域活動や市民活動について

- 自治会を活用した地域の高齢者（認知症患者他）の見守り体制を構築すべきである。
- 地域のおばあちゃん、おじいちゃんに、もっとこどもたちに関わってもらいたい。交通の見守り役など（通学路など）健康にも良いと思う。

平成28年度
第8次大和市総合計画に関する市民意識調査報告書

平成29年2月

大和市役所 政策部 総合政策課

大和市下鶴間一丁目一番一号

電話：046-260-5304（直通）